

圖 情 義 齋

2010年度

講 義 計 画

桃山学院大学

回

十

表

詩

科目名	クラス	講義区分
アジア経済論 <春集>		
唐	成	4単位

【講義概要】

本講義はアジアに関する次の5つの分析視点から構成されています。すなわち、第1に、東アジアの著しい経済発展のプロセス、第2に、ベトナムをはじめいくつかの国が計画経済から市場経済への移行経済、第3に、日本と東アジアの経済関係、第4に、アジア経済の課題（経済危機、環境問題、貧富格差など）、第5に、地域統合へ向けての動き、という内容を中心として、アジア諸国の経済発展の経緯及び新たな動向を解説し、これからのアジア経済の行方を考察する。

【学習目標】

本講義は①アジア経済を多角的に分析すること、②アジアの経済パフォーマンスの特徴を分析すること、③世界の中のアジア諸国の実態（現状と課題）を理解すること、を学習目標としている。

【講義計画】

- 第1回 インTRODククション
第2回 東アジアとは
第3回 アジアの工業化Ⅰ
第4回 アジアの工業化Ⅱ
第5回 NIEsの経済発展
第6回 韓国
第7回 ビデオ
第8回 台湾
第9回 ビデオ
第10回 香港
第11回 シンガポール
第12回 ASEANの経済発展
第13回 タイ
第14回 インドネシア
第15回 中間テスト
第16回 ビデオ
第17回 ベトナム
第18回 インド
第19回 ビデオ
第20回 中国
第21回 ビデオ
第22回 BRICs
第23回 グループワーク 報告
第24回 グループワーク 報告
第25回 アジアの所得格差
第26回 アジアの環境問題
第27回 東アジアの地域統合
第28回 日本とアジアの経済関係

【成績評価の方法】

出席状況（正式な欠席届は受理する）（40%）、講義内教回の課題提出などの平常点（20%）と持ち込み不可の中間テストと期末テストで（40%）により評価する。登録したものの未履習の場合は「0点」となるので注意のこと。

【参考文献】

北原淳・西沢信善『アジア経済論』ミネルヴァ書房、2004年。
渡辺利夫編『アジア経済読本』第4版』東洋経済新報社、2009年。

【備考】

毎回講義用プリントを配布する。テキストは特に指定しない。ただし、参考文献の中から1冊ほど読んでおくこと。なお、本講義では、学生諸君のグループワークによるプレゼンテーションを取り入れている。

科目名	クラス	講義区分
アジアの英語 <通期>		
大	原	始
子		4単位

【講義概要】

英語を母語としないアジアの国々で使用されている英語の文法、音韻、語彙の特徴を学ぶ。音声面は、各国出身の人によって話される英語を実際に聞き取りをして慣れていく。同時に、各国ごとに、英語教育政策、公用語問題などテーマを設けて、日本を含めたアジアの英語への理解を深める。

【学習目標】

英語の非母語話者間による英語のコミュニケーションを円滑に行うために、アジアの国々の言語・社会事情の基礎的知識を得ることと、音声への慣れを目指す。アジア各国で話されている英語の音声に慣れるために、各国出身の人によって話される英語を実際に聞いていく。

【講義計画】

- 第1回 <オリエンテーション>
なぜアジアで英語なのか。アジアの英語とは。
(注) 授業の進度により、計画の内容が変更になることがある。
第2回 世界の英語(World Englishes)の概念 母語圏と非母語圏
第3回 英語の公用語化と言語計画～アジア・アフリカ
第4回 《多言語社会と英語～イギリスの統治を受けた社会》
第5回 インド：言語事情、言語計画とインド英語の言語的特徴
第6回 「日本で英語を「第二公用語」にする議論」
第7回 マレーシア：言語事情と言語計画
第8回 マレーシア：教育政策とマレーシア英語の言語的特徴
第9回 シンガポール：言語事情と言語計画
第10回 シンガポール：教育政策とシンガポール英語の言語的特徴
第11回 「母語の影響～誤用か中間言語かアイデンティティか」
第12回 《民族語の多言語社会と英語～英語の役割》
第13回 タイ：言語事情とタイ英語の言語的特徴
第14回 前期のまとめ
第15回 香港：言語事情と言語計画
第16回 香港：教育政策と香港英語の言語的特徴
第17回 《多文化・多言語社会オーストラリアのアジア人》
第18回 オーストラリア：オーストラリア英語～イギリス英語・アメリカ英語との相違点
第19回 オーストラリア：言語事情と言語文化政策
第20回 《多言語社会と英語～アメリカの影響を受けた社会》
第21回 フィリピン：言語事情と言語計画 フィリピン英語の言語的特徴
第22回 「英語の社会的機能」
第23回 《単一言語社会と英語～第二言語習得》
第24回 韓国：言語事情 英語教育の過熱
第25回 日本：英語教育と日本語英語の言語的特徴
第26回 日本：早期英語教育は必要か
第27回 「コミュニケーション能力を構成する3つの能力」
第28回 後期のまとめ

【成績評価の方法】

試験 80% レポート 20%
期末に筆記試験を行う。試験80%、レポート20%で総合評価するが、レポートは試験を受ける条件となるので、必ず提出しなければならない。

【参考文献】

そのつど資料を配布するが、以下の本を読んでおくとレポート、試験に役立つだろう。
『シンガポールの言葉と社会』大原始子（三元社）
『アジアの最新鋭ご事情』本名信行編（大修館書店）
『小学生に英語を教えるとは？ーアジアと日本の教育現場からー』河原俊昭編（めこん社）

【備考】

【準備学習の指示】

- ・授業で取り上げるアジアの国々について、あらかじめ書籍、インターネットなどで一般情報を得ておくこと。
- ・積極的に、ノンネイティブスピーカーと英語で話す機会を見つけるようにしよう。
- ・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
アジア文化研究－アジアの海域世界を歩く <通期>	
鈴木隆史	4単位

【講義概要】

海は太古からモノ、ヒト、文化を運んできた。海は重要な交通路であった。中でも東南アジアのインドネシアやフィリピンの島嶼域には数多くの島が存在し、多島海とも呼ばれ、数多くの民族が混在して住んでいる。こうした島々の人びとの暮らしは、かつての植民地宗主国から文化の影響を受けながらも独自の文化を育み、交流し、新たな文化を生み出してきた。本講義では海を通じたヒトとヒトとの交流、ヒトとモノの移動、文化の形成、ネットワークの形成、外の世界とのつながりなどを学ぶ。授業では本や資料を読みながら様々な映像を用いて、アジアの海域世界とともに歩き考える。

【学習目標】

講義の内容を聞いて覚えるのではなく、自分の頭で考える授業を目指す。講義内容はこれまでで中学、高校を通じて学んできたものとは異なる歴史、社会、文化の視点でものを捉えることの面白さを感じることができよう。また、講義内容をよりよく理解し、問題意識を深めるためにも参考文献などの多読を求める。本を読む、講義を聞く、自分で理解し、考え、発見することの楽しさを感じられるようになる。

【講義計画】

- 第1回 地図を開いて考えよう 参考文献の紹介
- 第2回 海から陸を眺めてみる 参考文献から
- 第3回 海を通じたヒト、モノの移動 1
- 第4回 海を通じたヒト、モノの移動 2
- 第5回 海を通じたヒト、モノの移動 3
- 第6回 海を通じたヒト、モノの移動 4
- 第7回 海を通じたヒト、モノの移動 5
- 第8回 アジアの多島海を歩く 1
- 第9回 アジアの多島海を歩く 2
- 第10回 アジアの多島海を歩く 3
- 第11回 アジアの多島海を歩く 4
- 第12回 アジアの多島海を歩く 5
- 第13回 アジアの多島海を歩く 6
- 第14回 中間期レポートを書く (授業内で)
- 第15回 アジアと日本とのつながりをモノを通じて考える 1
- 第16回 アジアと日本とのつながりをモノを通じて考える 2
- 第17回 アジアと日本とのつながりをモノを通じて考える 3
- 第18回 アジアと日本とのつながりをモノを通じて考える 4
- 第19回 アジアと日本とのつながりをモノを通じて考える 5
- 第20回 これまでの補足と資料を読み解く
- 第21回 これまでの補足と資料を読み解く
- 第22回 これまでの補足と資料を読み解く
- 第23回 これまでの補足と資料を読み解く
- 第24回 これまでの補足と資料を読み解く
- 第25回 これまでの補足と資料を読み解く
- 第26回 これまでの補足と資料を読み解く
- 第27回 これまでの補足と資料を読み解く
- 第28回 これまでの補足と資料を読み解く
- 第29回 これまでの補足と資料を読み解く
- 第30回 学期末試験

【成績評価の方法】

試験 70% レポート 30%

試験は授業で話した内容をもとに自らが考えて記述する方式。出席は基本的にとはならないが、授業に出席していない者には記述はできないと思ってほしい。参考文献を読んでレポート提出もあるので図書館などで借りて読むことを求める。多数あるので買う必要はない。

【参考文献】

- 門田修著「海が見えるアジア」めこん、1996年、ISBN 4-8396-0101-1
- 鶴見良行著「ナマコの眼」筑摩書房、1990年、ISBN 4-480-85522-X
- 鶴見良行著「海道の社会史」1987年、朝日新聞社、ISBN 4-02-259430-6
- 池端雪浦編「東南アジア史II島嶼部」山川出版社1999年、ISBN978-4-634-41360-3 アンソニー・リード著、平野秀秋/田中優子訳「大航海時代の東南アジアII」2002年、ISBN 4-588-00571-5 野村進「アジアの歩き方」講談社現代新書、2001年、ISBN 4-06-149576-3 鶴見良行、村井吉敬編著「道のアジア史」同文館、1991年、ISBN 4-495-85581-6 村井吉敬著「サシとアジアと海世界」コモンズ、1998年、ISBN 4-906640-10-9 北窓時男「熱帯アジアの海を歩く」成山堂書店、2001年、ISBN 4-425-85051-3 村井吉敬著「エビと日本人」岩波新書、1988年 村井吉敬著「エビと日本人II」岩波新書、2007年、ISBN978-4-00-431108-9 羽原又吉著「漂海民」岩波新書、1963、2008年、ISBN 4-00-415074-4 秋道智彌編著「海人の世界」同文館、1998年、ISBN 4-495-86291-X

科目名 クラス 講義区分	
アジア文化研究－インドネシアの開発と人口 <秋集>	
深見純生	4単位

【講義概要】

東南アジアは、モンスーンアジアという世界人口分布の中心にあるにもかかわらず、小人口世界である。そのなかでジャワ島は巨大人口を持つという複雑な構造がある。その生態学的な背景と人口増加のプロセスを考えてみよう。最後に現在のインドネシアの人口問題の核心であるジャワ島農村の貧困問題の動向を検討してみよう。

なお、視覚的理解のために適宜ビデオを用いる。なおまた、受講生はインドネシアに関する初歩的な知識（あるいは強い関心）のあることが望ましい。

【学習目標】

人口という観点から東南アジア、とくにインドネシアという地域の理解をめざす。

インドネシアの社会と文化を理解するための重要な鍵は、開発の歴史と人口に関わる諸問題である。人口がインドネシア理解の鍵になる理由は、インドネシアが世界第4位の2億2千万という大きな人口を持つこと、それが不均等に分布し、とくにジャワ島の農村に滞留したことにある。

【講義計画】

- 第1回 第1章 アジアのなかの東南アジア
 - 1-1. アジアのなかの東南アジア
- 第2回 1-2. アジアの大区分 (地理区分・自然環境区分)
- 第3回 1-3. アジアの文化圏 (東アジア・南アジア・西アジア)
- 第4回 1-4. 世界人口からみたアジアの位置
- 第5回 1-5. 世界のなかのモンスーンアジア
- 第6回 1-6. モンスーンアジアのなかの東南アジア
- 第7回 第2章 東南アジアの地域特性
 - 2-1. 多様な東南アジア
- 第8回 2-2. 東南アジアを把握する方法
- 第9回 2-3. 東南アジアの地域特性11箇条
- 第10回 2-4. 生態 (自然環境と人間の交わり) からみた東南アジア
- 第11回 2-5. 歴史からみた東南アジア
- 第12回 第3章 小人口世界東南アジア
 - 3-1. 世界人口の中の東南アジア
 - 3-2. 小人口世界としての東南アジア
 - 3-3. 東アジア・南アジアとの比較から
- 第13回 3-4 a. 小人口世界の諸相 (1)
- 第14回 3-4 b. 小人口世界の諸相 (2)
- 第15回 3-4 c. 小人口世界の諸相 (3)
- 第16回 3-5. 小人口世界のなかの過密
- 第17回 3-6. 人口からみたジャワの中心性
- 第18回 第4章 生態学的背景
 - 4-1. 島の熱帯
 - 4-2. 熱帯雨林の特徴と人間にとっての意味
 - 4-3. 熱帯雨林多島海という生態系
 - 4-4. 熱帯季節林平原という生態系
 - 4-5. 熱帯季節林火山島という生態系
- 第19回 第5章 2000年センサスからみたインドネシア
 - 5-1. 2000年国勢調査からみたインドネシア
 - 5-2. インドネシアにおける人口分布の特徴
 - 5-3. インドネシアにおける「民族」の問題
 - 5-4. インドネシアにおける「民族」の問題
 - 5-5. 2006年中部ジャワ地震の被害が大きかったわけ
 - 5-6. 都市化の諸相
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 25%

期末テストおよび時々的小レポートを総合して評価する。

【教科書】

特定の教科書は用いない。いわゆるノート講義であり、適宜資料を配付する。

【参考文献】

- 池端雪浦編『東南アジア史2島嶼部』山川出版社 1999
- 京都大学東南アジア研究センター編『事典東南アジア 風土・生態・環境』弘文堂 1997
- 坪内良博『小人口世界の人口誌』京都大学学術出版会 1998
- その他、授業の中で示す。

科目名 クラス 講義区分

アジア文化研究 - 近現代東アジアの世界 <秋集>

Philip Billingsley

4単位

【講義概要】

First of all, please note that the lectures will all be in ENGLISH! However, the English will be very easy to understand, so, even if you don't feel confident, why not give it a try?

What is "Asia"? Where does it start and where does it end? And what is "East Asia" - east of where? (After all, from Japan's standpoint the Asian continent lies to the west.) In the opening lectures, I will discuss the meaning of terms like "Asia" and "East Asia", and introduce the cultural history of modern East Asia in easy-to-understand English. Here are the details again in Japanese.

英語による講義とはいえ、極端にやさしい英語を使うので恐れずに受講してみてください、思っているほど難しくないので(本当に!)。「アジア」とはそもそもなんだろう?どこから始まってどこで終わる?「東アジア」はこの観点から「東」となる?(日本の観点からはアジア大陸は西の方向にある。)このコースでは、上に問いかけた「アジアとは何か?」について考えてから、中国を中心に発達してきたアジアの世界の国々の近現代文化史を簡単に紹介する。なじみやすい内容なので受講生は不慣れの英語を媒体に聴くことへの抵抗を乗り越えられると期待している。聞き取りやすいようにありとあらゆる工夫をする。

【学習目標】

The purpose of this course is to give students a simple outline of modern Asian cultural history, in English that is easy for them to understand. Japanese students in particular, as "citizens of Asia", NEED to know more about the region they live in, so this is a "must-take" course for you if you want to survive the 21st century!

このコースではできるだけ優しい英語でアジアの国々の近現代文化史を簡単に紹介する。21世紀を生きる「アジア市民」としての日本人にとってはアジアは無視できない存在であって、アジアに関する基本的な知識は欠かせないものである。ぜひともこのコースを取ってみてください。

【講義計画】

- 第1回 1. Introduction to the lectures: how to make them easier for yourselves, what you will have to do, etc. (コース内容の説明、授業の賢い受け方、宿題の説明、受講生の責任に関する話)
- 第2回 (Continued) Introduction to the lectures: how to make them easier for yourselves, what you will have to do, etc.
- 第3回 (Continued) Introduction to the lectures: how to make them easier for yourselves, what you will have to do, etc.
- 第4回 What is "Asia"? : a brief definition of terms and overview of the course (アジアとは何か?授業によく出てくる用語の説明、コースの範囲の説明など)
- 第5回 (Continued) What is "Asia"? : a brief definition of terms and overview of the course
- 第6回 (Continued) What is "Asia"? : a brief definition of terms and overview of the course
- 第7回 Cultural History of Modern East Asia: Southeast Asia 1 (近現代アジアの文化史: 東南アジア(1))
- 第8回 (Continued) Cultural History of Modern East Asia: Southeast Asia 2
- 第9回 (Continued) Cultural History of Modern East Asia: Southeast Asia 3
- 第10回 Cultural History of Modern East Asia: China 1 (近現代アジアの文化史: 中国(1))
- 第11回 (Continued) Cultural History of Modern East Asia: China 2
- 第12回 (Continued) Cultural History of Modern East Asia: China 3
- 第13回 (Continued) Cultural History of Modern East Asia: China 4
- 第14回 Cultural History of Modern East Asia: The "Other Chinas": Taiwan, Hong Kong, Macao 1 (近現代アジアの文化史: 「もう一つの中国: 台湾、香港、マカオ」(1))

- 第15回 (Continued) Cultural History of Modern East Asia: The "Other Chinas": Taiwan, Hong Kong, Macao 2
- 第16回 (Continued) Cultural History of Modern East Asia: The "Other Chinas": Taiwan, Hong Kong, Macao 3
- 第17回 (Continued) Cultural History of Modern East Asia: The "Other Chinas": Taiwan, Hong Kong, Macao 4
- 第18回 Cultural History of Modern East Asia: The "Unwilling Chinas": Tibet, Xinjiang 1 (近現代アジアの文化史: 「不本意の中国」: チベット、新疆(1))
- 第19回 (Continued) Cultural History of Modern East Asia: The "Unwilling Chinas": Tibet, Xinjiang 2
- 第20回 (Continued) Cultural History of Modern East Asia: The "Unwilling Chinas": Tibet, Xinjiang 3
- 第21回 Cultural History of Modern East Asia: The Non-Chinese World -- Mongolia, Central Asia 1 (近現代アジアの文化史: 「非中華」の世界: モンゴル、中央アジア諸国(1))
- 第22回 (Continued) Cultural History of Modern East Asia: The Non-Chinese World -- Mongolia, Central Asia 2
- 第23回 Cultural History of Modern East Asia: Overseas Chinese Communities of Southeast Asia 1 (近現代アジアの文化史: 東南アジアに広がる華僑の世界(1))
- 第24回 (Continued) Cultural History of Modern East Asia: Overseas Chinese Communities of Southeast Asia 2
- 第25回 Cultural History of Modern East Asia: Japan & Korea 1 (近現代アジアの文化史: 朝鮮半島、日本(1))
- 第26回 (Continued) Cultural History of Modern East Asia: Japan & Korea 2
- 第27回 (Continued) Cultural History of Modern East Asia: Japan & Korea 3
- 第28回 Summary (総括) + Revision (復習)

【成績評価の方法】

試験 40% レポート 30% 出席 30%

There will be regular homework assignments, such as summaries of the lectures, and students will be expected to complete all of them. 宿題(講義の要約など)を定期的に出す。At the end of the course there will also be a major written test. (最後には筆記試験がある。) (いずれも日本語OK) Finally, in order to improve your English hearing ability regular attendance at lectures is essential. Students who skip too many classes will fail. 英語の聴解力を磨くためには毎回の出席は欠かせない。欠席の多い受講生は落第する。

【参考文献】

特に無し。参考資料は毎回配る。

【備考】

・英語による講義

科目名 クラス 講義区分	
アジア文化研究－現代韓国文化 <通期>	
古 田 富 建	4 単位

【講義概要】

韓国と日本の1日の往来人数は約1万人に上り、近年その結びつきを一層深めている。本講義では現代韓国社会について多方面にわたって解説する。理解を助けるDVDや映像などを活用、日本社会との比較も交えながら分かりやすく講義する。

【学習目標】

- ・韓国について幅広い知識を身につける。
- ・日本社会との比較を通じて韓国社会の独自性を知る。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス (授業の概要や評価について)
- 第2回 韓国の地理と歴史1 (地理的特徴と前近代史)
- 第3回 韓国の地理と歴史2 (植民地期から現代まで)
- 第4回 ソウル1 (都市の特徴や観光スポット)
- 第5回 ソウル2 (都市の特徴や観光スポット)
- 第6回 韓国の宗教文化1 (儒教と社会制度)
- 第7回 韓国の宗教文化2 (その他の宗教)
- 第8回 韓国人の一生 (イニシエーション)
- 第9回 韓国人の一年 (年間行事)
- 第10回 韓流1 (大衆文化)
- 第11回 韓流2 (大衆文化)
- 第12回 対日感情 (韓国人は日本人のことをどう考えているか)
- 第13回 伝統文化1 (パンソリ、サムルノリを中心に)
- 第14回 伝統文化2 (パンソリ、サムルノリを中心に)
- 第15回 北朝鮮社会に対する韓国のまなざし1
- 第16回 北朝鮮社会に対する韓国のまなざし2
- 第17回 韓国の教育事情1 (高校)
- 第18回 韓国の教育事情2 (大学)
- 第19回 ハングルについて
- 第20回 料理1 (キムチとは)
- 第21回 料理2 (その他の韓国料理)
- 第22回 日韓問題1 (竹島問題)
- 第23回 日韓問題2 (竹島問題)
- 第24回 日韓問題3 (歴史認識問題)
- 第25回 インターネット社会
- 第26回 家屋と住居
- 第27回 世界の中の韓国
- 第28回 在日コリアンについて

【成績評価の方法】

試験 40% レポート 30% 出席 30%
 授業終了後にリアクションペーパーを提出してもらう。それが出席確認を兼ねています。

【参考文献】

伊藤亜人「暮らしが分かるアジア読本 韓国」河出新書房, 1996

【備考】

主にプリントを配布して授業をするが、適宜書籍も紹介する。

科目名 クラス 講義区分	
アジア文化研究－チベット文化圏の歴史・風俗・生活文化 <通期>	
森 田 登代子	4 単位

【講義概要】

1959年消滅、公的には国家としての機能は有しないが、文化的・社会的にも現代社会に影響を与えている国、それがチベット。チベット文化圏とはシルクロードの間道に位置し、ヒマラヤ山脈を取り巻く地域のチベット密教を基軸にした伝統文化を指す。講義では、そのような地域－チベット文化圏に関する歴史と文化を概略する。日本にも多大な影響を与えた独自の宗教観、ないし西洋史観とは異次元のアジア観にも言及し、文化果つる地域に生きる人々の生活文化を考察する。具体的にはチベット文化圏の映像・諸文献を提示し、生活文化に根ざした倫理観に着目し、近代化における諸問題、例えば環境問題などにおける現状と展望についても説明。グローバル化された現代社会での閉塞感を払拭すべく新しいアジア研究の一助としたい。

【学習目標】

テキスト、映像資料を中心に授業を行う。チベット文化圏に関する生活文化資料は日本にはそれほど多くないが、できるだけ原資料を提示し、分かり易く説明する。実際の文物も接触し、さまざまなアプローチのなかからチベット文化圏を理解する。

【講義計画】

- 第1回 ①チベット文化圏とは？過酷な気候風土とそこに生きる人々の生活
②チベットを目指した日本人
- 第2回 チベット文化圏の風土－ウ、ツァン、カム、アムド地方
- 第3回 チベット文化圏の風土と文化
- 第4回 チベットの民族・言語
- 第5回 チベットの歴史①－吐蕃王国から
- 第6回 チベットの歴史②
- 第7回 チベットの歴史③
- 第8回 チベットの宗教①
- 第9回 チベットの宗教②
- 第10回 チベットの宗教と生活
- 第11回 聖地巡礼
- 第12回 チベット文化圏の暮らし①－生と死
- 第13回 チベット文化圏の暮らし②
- 第14回 チベット文化圏の祭①－曆
- 第15回 チベット文化圏の祭②
- 第16回 チベット文化圏の習俗①－(生と死)
- 第17回 チベット文化圏の習俗②－ケサル王叙事詩
- 第18回 チベット文化圏の服飾①－概要
- 第19回 チベット文化圏の服飾②－文化の固有と周縁
- 第20回 チベットオリエンタリズム
- 第21回 周縁①－ヒマチャルプラデューシユの文化
- 第22回 周縁②－シルクロードと交易
- 第23回 宗教と文化－タポ寺を中心に
- 第24回 西洋からみた「チベット」－映画から
- 第25回 ラダック－貧困とグローバルズム
- 第26回 チベットと環境問題①
- 第27回 チベットと環境問題②
- 第28回 まとめ①
- 第29回 まとめ②
- 第30回 まとめ③

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 80% 出席 20%
 レポートは前期、後期に分けて提出

【教科書】

石濱裕美子 チベットを知るための50章 明石書店

正木晃 裸形のチベット サンガ

【参考文献】

安旭主編『藏族服飾芸術』南開大学出版社
 山口瑞鳳『チベット』東京大学出版会
 D・スネグロフ/H・リチャードソン『チベットの文化史』春秋社
 ジュゼッペ・トウッチ『チベット仏教探険誌』平河出版社
 ヘレナ・ノーバー・ホッジ『ラダック懐かしい未来』山と溪谷社

ビーバー夫妻『ヒマラヤの小チベットラダック』未来社
 成田山仏教研究所『スピティの秘仏』大本山成田山新勝寺
 加藤敬『聖なる響き 西チベットの少数民族の祈り』平河出版社
 Svetoslav, Roerish, Art in the Kulu Valley
 Moti Chandra, Costumes Textiles Cosmetics and Coiffure in
 the Ancient and Mediaeval India, New Delhi
 M C. Goldstein and C M. Beall, Nomads of Western Tibet
 Shantial Nagar, The Temples of HIMACAL PRADESH
 Laxman S. Thukur, Buddhist in the Western Himalaya
 O.C. Handa, Textiles, Costumes and Ornaments of the Western
 Himalaya
 M.R. Thakur, Myths, Ritual and Beliefs in Himachal Pradesh
 Dilarm Shabab, KULLU Himalayan Abode of Divine
 Deborah E, Klimberg-Salter, Tabo ?A Lamp for the Kingdom

科目名 クラス 講義区分

アジア文化研究－「文明の十字路」トルコの歴史 <秋集>

今 澤 浩 二

4単位

【講義概要】

小アジア半島を中心とするトルコは、「鉄の民族」ヒッタイトをはじめ、古代ギリシア文明、ヘレニズム文明、ローマ帝国、ビザンツ帝国（東ローマ帝国）、オスマン帝国などさまざまな民族・文明が興亡し、まさに「文明の十字路」と呼ぶにふさわしい地域である。この講義では、こうしたトルコの歴史を、特に20世紀初頭まで600年にわたって君臨し続けたオスマン帝国を中心に概観する。

【学習目標】

トルコは古来、世界史に重要な舞台を提供してきたにもかかわらず、日本ではあまり知られていない地域である。その歴史を考えることを通じて、世界史において果たしてきたトルコの重要な役割について理解を深めることを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 小アジア半島（アナトリア）とは
- 第2回 ヒッタイト①
- 第3回 ヒッタイト②
- 第4回 トロイ
- 第5回 ギリシア文明
- 第6回 ペルシア帝国
- 第7回 ヘレニズム時代
- 第8回 ローマ帝国①
- 第9回 ローマ帝国②
- 第10回 ローマ帝国③
- 第11回 ビザンツ帝国①
- 第12回 ビザンツ帝国②
- 第13回 イスラームの成立と発展①
- 第14回 イスラームの成立と発展②
- 第15回 トルコ民族の進出①
- 第16回 トルコ民族の進出②
- 第17回 オスマン帝国の成立
- 第18回 初期の発展と挫折
- 第19回 コンスタンティノープルの征服
- 第20回 オスマン帝国の最盛期①
- 第21回 オスマン帝国の最盛期②
- 第22回 オスマン帝国の社会
- 第23回 オスマン帝国の宮廷と「ハーレム」①
- 第24回 オスマン帝国の宮廷と「ハーレム」②
- 第25回 オスマン帝国の衰退①
- 第26回 オスマン帝国の衰退②
- 第27回 オスマン帝国の滅亡
- 第28回 トルコ共和国の成立

【成績評価の方法】

試験 80% 出席 20%

初回の授業で、講義内容や成績評価の方法などについて詳しく説明するので、必ず出席すること。

【参考文献】

授業中、適宜指示する。

科目名	クラス	講義区分
アジア文化史 <春集>		
原山	煌	4単位

【講義概要】

モンゴル高原に興亡した騎馬遊牧民族の姿を、歴史と文化の両面から多角的に考察する。かれらは、農耕民の世界とは全く異質な生業と文化を持っている。遊牧の起源と展開、騎馬技術の獲得の意義、農耕民を圧倒できた理由などを説き、新しくは、20世紀にモンゴル人民共和国という、世界で2番目の社会主義国をたてた事情など、さまざまな側面に光を当てたい。

【学習目標】

中国世界からは蛮族とみなされた彼らは、東アジアの前近代史に、さらには世界史の展開に大きな影響を与えてきた。13世紀のモンゴル世界帝国を見れば誰もそのことを否定できないだろう。さらには、遊牧という生業がこれからどうなっていくのか、そうしたテーマについて理解してほしい。質問や意見などを下記の小テストの余白に書くことができる。それらに対しては、次回冒頭に回答する。

【講義計画】

- 第1回 この授業のオリエンテーション
- 第2回 遊牧という生業について
- 第3回 騎馬技術の起源と展開
- 第4回 スキタイについて
- 第5回 匈奴の出現
- 第6回 騎馬技術が中国に
- 第7回 匈奴と秦漢帝国
- 第8回 匈奴の文化
- 第9回 高祖劉邦と武帝の匈奴への対応
- 第10回 中行説の言説
- 第11回 匈奴と漢の西域争奪
- 第12回 トルコ系騎馬遊牧民
- 第13回 突厥碑文の世界
- 第14回 ソグド商人との関係
- 第15回 中間テスト
- 第16回 モンゴルの出現
- 第17回 モンゴルの族祖伝承
- 第18回 チンギス・ハン登場
- 第19回 チンギス・ハンの戦略
- 第20回 ヤサとビリクとジャリク
- 第21回 モンゴル世界帝国の出現
- 第22回 フビライ・ハンと元朝
- 第23回 重商国家モンゴル
- 第24回 最高潮に達した東西交渉
- 第25回 モンゴルの退場
- 第26回 新しい「モンゴル」の意味
- 第27回 東アジアのモンゴル継承国家：清朝
- 第28回 現在のモンゴル
- 第29回 囚われのモンゴル：「内蒙古自治区」
- 第30回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 50% 出席 20%
 毎回授業終了時に小テストを行ない、出席状況を把握するとともに、理解度を確認する。小テストへの解答の内容は、成績評価の30%を占めるので、授業時にきちんとノートを取りながら確実に理解することが要求される。小テストの余白には授業に関わる質問を書くことができる。必要なものについては、次回授業の冒頭に解説して答えてゆく。

【教科書】

とくに指定しない。授業に関わる配布資料を頻繁に提供するので、保存の上、毎回持参すること。

【参考文献】

授業の中で折にふれて紹介する。

科目名	クラス	講義区分
アメリカ経済論 <秋集>		
中本	悟	4単位

【講義概要】

<アメリカン・グローバリズムとアメリカ経済>
 1990年代以降のGlobalizationは、American Globalizationという様相が強い。これは、アメリカがIMFや世界銀行、国連、WTOなどの国際機関の場において、またNAFTA(北米自由貿易協定)などの地域協定において、アメリカ流のグローバリズムを主導的に展開してきたからである。また、1990年代には世界の資金がアメリカに集中し、アメリカはかつてない超長期の景気拡大を達成し、アメリカの経済・経営モデルがスタンダード・モデルとされたからであった。しかし、サブプライム・ローンの証券化の破たんによって端を発する世界的な金融危機のなかで、アメリカの経済・経営モデルは、その見直しを根本的に迫られている。

本講義は、アメリカの主張するグローバリズム(アメリカン・グローバリズム)を解明するとともに、American Globalizationの内外構造を論じる。

また本講義では、日米経済比較を重視するが、これによってアメリカ経済だけではなく、日本経済への理解も深くなるものと考えている。

【学習目標】

- 1 アメリカ経済を経済構造と政策の視点から総合的に理解する。
- 2 アメリカ経済を政治や社会関係との関係を重視して理解する。
- 3 アメリカ経済を日本経済との比較の視点で把握する。
- 4 アメリカ経済を理解するために必要なデータや経済指標を理解する。

【講義計画】

- 第1回 <アメリカン・グローバリズム>
グローバリゼーションとグローバリズム
- 第2回 アメリカン・グローバリズム
- 第3回 アメリカ多国籍企業のグローバル展開(1)
- 第4回 アメリカ多国籍企業のグローバル展開(2)
- 第5回 多国籍企業の政治問題化と対外経済政策の転換
- 第6回 アメリカ多国籍企業の新動向
- 第7回 貿易・投資の世界的自由化とWTO体制
- 第8回 サービス貿易自由化とWTO体制
- 第9回 アメリカン・グローバリズムと国際金融体制
- 第10回 アメリカン・リージョナリズム(地域主義)の台頭
- 第11回 北米戦略とNAFTA(北米自由貿易協定)
- 第12回 NAFTA論争
- 第13回 中南米戦略とFTAA(米主自由貿易地域)の失速
- 第14回 アジア太平洋戦略とAPEC(アジア太平洋協力会議)の変容
- 第15回 アメリカン・グローバリズムとアンチ・グローバリズム
- 第16回 <アメリカン・グローバリズムの国内的文脈>
アメリカン・グローバリズムの対内的インパクト
- 第17回 アメリカの産業構造の変化
- 第18回 「二つのサービス経済化」の発展
- 第19回 1990年代の「ニューエコノミー」
- 第20回 アメリカン・コーポレート・ガバナンス(企業統治)の構造
- 第21回 アメリカン・コーポレート・ガバナンスの転機
- 第22回 アメリカの金融：制度と革新
- 第23回 セキュリティゼーション(証券化)と銀行業務の変容
- 第24回 サブプライム・ローンとその証券化の破たん
- 第25回 財政思想の変遷と財政政策(1)
- 第26回 財政思想の変遷と財政政策(2)
- 第27回 アメリカ型福祉国家の成立・展開と転換(1)
- 第28回 アメリカ型福祉国家の成立・展開と転換(2)
- 第29回 アメリカの知的財産権戦略とTRIPS
- 第30回 総括

【成績評価の方法】

試験 70% レポート 0% 出席 30%
 時に応じて書いてもらおうコメントを平常点としたうえで、年度末の筆記試験の成績とを総合して評価する。

【教科書】

萩原伸次郎・中本 悟編 現代アメリカ経済 日本評論社
 授業に必要な講義レジュメや資料を配布します。

【参考文献】

授業中に紹介します。

科目名 クラス 講義区分

アメリカ文化研究-アメリカ文学史 <秋集>

佐々木 英 哲

4単位

【講義概要】

This course, an exposition of the socio-historical circumstances and Zeitgeist surrounding the lives and literary works of American writers, will give a chronological view of American literature. It is designed as an introductory course for students who have yet to form their own views of American literature in a historical context. For this reason, I will temporarily disregard the current criticisms and the doubt they have been shedding on the literary status of the "canonical." Instead, I will have the students read some of the masterpieces of the American writers recognized as canonical, and help the students review the themes of these works. Incidentally, I will not be presenting the lectures in a one-way, explanatory style. Rather, I hope to encourage the students to participate, in order to enrich their interactions with the instructor and with each other.

作家及びその文学作品を取り巻く社会的・文化的状況、時代精神までを射程範囲に収めたいと、アメリカ文学を通史的に概観することが本講義の目的である。アメリカ文学を俯瞰するという作業は多くの受講生にとって初めてのはずである。その意味から授業は必然的に導入的意味合いが強くなる。受講生が導入レベルにある事実を踏まえ、近年、文学史に於いて主要作家による主要作品の正当性が根幹から問われているという事実は、この際、さほど重要視しないことにする。したがって、本講義では、アメリカ文学史を支える屋台骨と「見なされてきた」主要作家の手による代表的な作品を読み返しつつ、それらの文学的テーマを再検証する作業を行う。なお、担当者として、単に一方的講義による作家・作品解説に終始する授業にはしない、と付言しておく。

【学習目標】

I will introduce various American writers, their works, and their themes while tracing socio-historical backgrounds and intellectual trends of American society. The lectures will be conducted in English. If necessary, I will have resort to Japanese to ensure that the students can easily grasp the contents and themes from the excerpts of the literary texts. We will cover literary works produced chronologically, along the following timeline: first, from colonialism to the Civil War; next, from the Civil War through the two World Wars; and lastly, through the latter half of the 20th century up to the present.

作家、作品、作品主題については、アメリカ社会の動きと思想の流れに関連づけて英語で解説する。また、実際に作品にあたってみる。英語で書かれた原典テキストの解説・解説作業を中心とした作業を行う。受講生の必要に応じて日本語を使う。時代を追って作品を読んでいく。植民地時代から南北戦争までの文学、南北戦争後から第2次大戦までの文学、第2次大戦から今日に至るまでの文学を扱う予定である。

【講義計画】

- 第1回 Introduction
- 第2回 James Fenimore Cooper (The Pioneers)
- 第3回 Edgar Allan Poe
- 第4回 Ralph Waldo Emerson (1) (Self-Reliance)
- 第5回 Ralph Waldo Emerson (2) (Self-Reliance)
- 第6回 Henry David Thoreau (Civil Disobedience)
- 第7回 Nathaniel Hawthorne (1) (The Scarlet Letter)
- 第8回 Nathaniel Hawthorne (2) (The Scarlet Letter)
- 第9回 Herman Melville (1) (Moby-Dick)
- 第10回 Herman Melville (2) (Pierre)
- 第11回 Walt Whitman (Leaves of Grass)
- 第12回 Emily Dickinson
- 第13回 Harriett Beecher Stowe (Uncle Tom's Cabin)
- 第14回 Mark Twain (1) (The Adventures of Huckleberry Finn)
- 第15回 Mark Twain (2) (The Adventures of Huckleberry Finn)
- 第16回 Stephen Crane (Maggie: A Girl of the Streets)
- 第17回 Henry James (1) (The Wings of the Dove)
- 第18回 Henry James (2) (The Wings of the Dove)

- 第19回 Tennessee Williams (1) (The Glass Menagerie)
- 第20回 Tennessee Williams (2) (The Glass Menagerie)
- 第21回 Ernest Hemingway (The Old Man and the Sea)
- 第22回 John Steinbeck (East of Eden)
- 第23回 William Faulkner (1) (Absalom, Absalom!)
- 第24回 William Faulkner (2) (Absalom, Absalom!)
- 第25回 Ralph Waldo Ellison (The Invisible Man)
- 第26回 Edward Albee (Who's Afraid of Virginia Woolf?)
- 第27回 Thomas Pynchon (The Crying of Lot 49)
- 第28回 Conclusion

【成績評価の方法】

試験 20% レポート 50% 出席 30%

A Small test will be given every class held. The students will be asked to turn in a report the instructor at the end of the semester.

予習・復習にかかわる範囲で毎回始業時に小テストを行い、それをもって出席確認に代える。毎回、小テストをするので学期末にはテストは行わず、レポートを提出してもらおうつもりである。

【教科書】

Handouts are given.
プリントを配布する。

【参考文献】

To be announced. 授業で指示。

【備考】

・英語による講義

科目名 クラス 講義区分	
アメリカ文化研究－暴力と金と結社と差別 <春集>	
藤 森 かよ子	4 単位

【講義概要】

★この講義では、アメリカ合衆国を理解するために、アメリカの社会文化現象を以下の4つの様相から考察します。考察材料として、ハリウッド映画を利用します。

- (1) 銃文化の歴史的政治的背景—銃所持は自由市民の権利？
- (2) 清貧という美德がない文化—まずは金持ちにならなきゃ駄目！
- (3) 個人主義のメッカなのに、やたら結社が多い。この矛盾はなぜ？
- (4) 多文化主義こそアメリカ。でも多民族多人種多社会は難しい・・・

★はっきり言えば、映画だの文学作品だのは、現実逃避用文化産物でしかありません。しかし、私たちは、現実のありのままに現実を認識できません。現実逃避用文化産物のような媒介を通して、なんとか現実を把握できるのです。なにゆえか、脳がそういうことになっています。しかも、その現実逃避用文化産物は、一般ピープル向け洗脳道具になっています。鵜呑みにして信じることは危険です。しかし、映画などのメディアは実に巧妙で強力に魅力的です。その洗脳の巧みさから、私たちは学ぶべきことが多くあります。

★映画を含むメディアは、どんなものでも、どの国のものでも、信用できません。メディアは政治的でありイデオロギカルなものです。このクラスでは、アメリカ文化の様相とともに、映画を疑いながら分析すること (media literacy) も学びます。

【学習目標】

★私たちは、ほんとうはよく知りもしないのに、物事を論評したり、無責任に批判したりしがちです。アメリカ合衆国のことを、よく知りもしないのに反米のポーズをとってあげればよいような風潮もあります。

★ある現象が起きていること背景には、それを生む要因、事情、理由があります。なぜ、そうなのか？それを考えることこそ科学的態度、学問的態度、知的態度です。その姿勢を身につけるのも、本講義の目標のひとつです。

【講義計画】

- 第1回 (1) 講義内容の紹介と進行と受講生の留意すべきことの確認
(2) なぜ映画を使用するか、その意味の確認
(3) アメリカの銃文化を知るために見る最初の映画について
- 第2回 暴力 (その1) : アメリカ独立戦争の神話—武装権と民兵
- 第3回 暴力 (その2) : アメリカ独立戦争の神話—武装権と民兵
- 第4回 暴力 (その3) : アメリカ独立戦争の神話—武装権と民兵
- 第5回 暴力 (その4) : アメリカ独立戦争の神話—武装権と民兵
- 第6回 暴力 (その5) : 社会進化論は暴力を肯定する？
- 第7回 暴力 (その6) : 社会進化論は暴力を肯定する？
- 第8回 暴力 (その7) : 社会進化論は暴力を肯定する？
- 第9回 暴力 (その8) : 共和国であることと暴力文化の関係 (まとめ)
- 第10回 金銭 (その1) : 近代資本主義の精神とは何か
- 第11回 金銭 (その2) : 近代資本主義の精神とアメリカ
- 第12回 金銭 (その3) : 貨幣のものと平等
- 第13回 金銭 (その4) : 貨幣のものと平等
- 第14回 金銭 (その5) : 清貧という美德のない文化の功罪 (まとめ)
- 第15回 結社 (その1) : 結社とは何か
- 第16回 結社 (その2) : 欧米における結社の起源
- 第17回 結社 (その3) : 植民地時代から建国期の結社
- 第18回 結社 (その4) : 南北戦争から第一次世界大戦、大不況期までの時代の結社
- 第19回 結社 (その5) : 第二次世界大戦、冷戦期、現代の結社
- 第20回 結社 (その6) : 責任ある自由な個人だからこそ団結する (まとめ)
- 第21回 差別 (その1) : 公民権運動前の差別の状況
- 第22回 差別 (その2) : 公民権運動の始まり
- 第23回 差別 (その3) : 公民権運動の発展

- 第24回 差別 (その4) : 文化多元主義から多文化主義へ
- 第25回 差別 (その5) : ポリティカル・コレクトネスについて
- 第26回 差別 (その6) : 差別是正政策批判と多文化主義批判
- 第27回 差別 (その7) : 多民族多人種国家はくたびれるが、素晴らしい (まとめ)
- 第28回 まとめ
- 第29回 まとめ
- 第30回 試験

【成績評価の方法】

試験 40% レポート 30% 出席 30%
レポートとは、毎回の講義の終りに記述するコメントペーパーのことです。これは出席票にもなります。コメントペーパーには、「講義内容に関すること」を記述します。関係のないことを、だらしなく記述することは減点対象となります。

【教科書】

テキストは使用しません。担当教員作成のハンドアウトを利用します。

【参考文献】

以下の文献を読めば、一層に講義内容が理解できるし楽しめるでしょう。

- (1) ロバート・スクラー著・鈴木主税『アメリカ映画の文化史』上下巻 (講談社、1995)
- (2) 鈴木透著『現代アメリカを覗く—映画が描く超大国の鼓動』(丸善ライブラリ、1998)
- (3) 八尋春海著『映画で学ぶアメリカ文化』(スクリーン・プレイ、1999)
- (4) 北野圭介著『ハリウッド100年史講義—夢の工場から夢の王国へ』(平凡社、2001)
- (5) 大場正明+編集部『Cine Lesson 15 アメリカ映画主義—もうひとつのUSA』(フィルムアート社、2002)
- (6) 岸本裕子著『スクリーンに投影されるアメリカ』(メタ・ブレン2003)
- (7) 村山一郎編『映画史を学ぶクリティカル・ワークズ』(フィルムアート社、2003)
- (8) カーラ・フレチャロウ著・ポップ・カルチャー研究会訳『映画でわかるカルチャー・スタディーズ』(フィルムアート社、2003)
- (9) 『アメリカ映画がわかる。』(アエラムック 91) (朝日新聞社、2003)
- (10) 副島隆彦著『ハリウッド映画で読む世界覇権国アメリカ』上下巻 (講談社+α文庫、2004)
- (11) 福井次郎『戦争映画が教えてくれる現代史の読み方』(彩流社、2007)

科目名 クラス 講義区分

医学入門A <春>

郭 麗 月

2 単位

【講義概要】

- ① 人の成長・発達
- ② 心身機能と身体構造の概要
- ③ 国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要
- ④ 健康の捉え方
- ⑤ 疾病と障害の概要
- ⑥ リハビリテーションの概要

【学習目標】

- ① 心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。
- ② 国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要について理解する。
- ③ リハビリテーションの概要について理解する。

社会福祉士に必要な「人体の構造・機能及び疾病」についての知識を理解させる。

【講義計画】

- | | | |
|------|-------------------------------|-----------------|
| 第1回 | 医療と福祉 (イントロダクション) | |
| 第2回 | 人体の構造と機能 | (1)呼吸器・循環器系 |
| 第3回 | 〃 | (2)消化器系 |
| 第4回 | 〃 | (3)骨格・筋肉系 |
| 第5回 | 〃 | (4)神経・内分泌系 |
| 第6回 | 医学的リハビリテーション(1)疾病と障害・国際生活機能分類 | |
| 第7回 | 〃 | (2)リハビリテーションの実際 |
| 第8回 | 現代社会と疾患 | (1)がん、生活習慣病 ① |
| 第9回 | 〃 | (2) 〃 ② |
| 第10回 | 〃 | (3)各種感染症 |
| 第11回 | 〃 | (4)神経・精神疾患 |
| 第12回 | 〃 | (5)先天性疾患 |
| 第13回 | 〃 | (6)難病 |
| 第14回 | 〃 | (7)その他 |
| 第15回 | まとめと試験 | |

【成績評価の方法】

試験 70% レポート 30% 出席 0%
レポート、定期試験の成績

【教科書】

福祉臨床シリーズ委員会編「人体の構造と機能及び疾病」弘文堂

【備考】

予習、復習として教科書の単元を通読し、疑問点は質問すること。
・02～08生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分

医学入門B <秋>

郭 麗 月

2 単位

【講義概要】

- ① 医学・医療の歴史の変遷と生命倫理
- ② 医療制度の現状と課題
- ③ 公衆衛生の現状
- ④ 医事法制

【学習目標】

- ① 高度化、複雑化している現在の医療が抱える問題と社会福祉の役割について理解する。
- ② 健康問題を公衆衛生、医療施策、地域福祉などの関連する分野から広い視点で捉えて理解する。

【講義計画】

- | | |
|------|-------------|
| 第1回 | 生命倫理とは何か① |
| 第2回 | 〃 ② |
| 第3回 | 医学・医療の歴史の変遷 |
| 第4回 | 現代医療の問題点 |
| 第5回 | 保健医療対策の現状① |
| 第6回 | 〃 ② |
| 第7回 | 〃 ③ |
| 第8回 | 〃 ④ |
| 第9回 | 保健医療対策の課題① |
| 第10回 | 〃 ② |
| 第11回 | 〃 ③ |
| 第12回 | 公衆衛生の現状① |
| 第13回 | 〃 ② |
| 第14回 | 医事法制 |
| 第15回 | まとめと試験 |

【成績評価の方法】

レポート 100%
講義期間に提示したテーマから選択して、レポートを作成し、その内容で評価する

【教科書】

福祉臨床シリーズ委員会編「人体の構造と機能及び疾病」弘文堂

【参考文献】

適時指定する。

【備考】

授業中に紹介した文献、資料等を直接参照すること。図書館の活用を勧める。
・02～08生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
イギリス文化研究－ヴィクトリア朝ロンドンの世界<秋集>	
日 下 隆 平	4 単位

【講義概要】

この講義はヴィクトリア朝ロンドンの社会と文化を学ぶことを目的としています。大雑把に言えば、日本でいえば幕末から明治の終わる頃のことです。ヴィクトリア朝とは、世界に冠たる19世紀大英帝国の最盛期であり、良くも悪しくも現代イングランドの基礎形成がなされた重要な時期と言えます。講義では時代の変革と関連させて、社会、文化、芸術等の分野を関連させながら扱って行きます。この時代の特徴を簡単に言うなら、文化の大衆化とオリエンタ像の深化と言えます。講義では背景知識を学んだうえで、イーストエンドの文化を含め「どのような人々が、どんな生活を送ったのか」を思い描けるようなトピックを取り上げてゆくつもりです。その方法として、時代背景とそれを特徴づけるようなトピックを織り交ぜ、さまざまな分野から講義していきます。

【学習目標】

授業では映像機器を用いて説明してゆきます。具体的には、授業の前半40分を説明にあて、後半は英文資料を講読しながら解説していきます。授業は以上のような方針ですが、文化、芸術、社会等のさまざまな分野から、この時代の典型的な特徴を示すような時代思潮を芸術作品などによって検討していきます。毎回資料を配付しますので、必ず出席して下さい。取り上げるトピックは以下の通りです。

【講義計画】

- 第1回 Victorian London 導入
- 第2回 ヴィクトリア朝までのロンドン
- 第3回 ヴィクトリア朝時代概観
- 第4回 ヴィクトリア朝初期－その1
- 第5回 ヴィクトリア朝初期－その2
- 第6回 ヴィクトリア朝中期－大英博覧会 (1851)
- 第7回 ヴィクトリア朝中期－ロンドンの発展
- 第8回 ヴィクトリア朝中期－1862年ロンドン万国博覧会
- 第9回 ヴィクトリア朝中期－ロンドンの発展
- 第10回 ヴィクトリア朝末期－女性像
- 第11回 William Blakeが見た社会－その1
- 第12回 William Blakeが見た社会－その2
- 第13回 路地裏のロンドン
- 第14回 ビデオによる理解と復習テスト
- 第15回 ジェイムス・マクニール・ホイスラー (1834-1903)
- 第16回 中世主義 (Medievalism) とは？
- 第17回 中世主義 (Medievalism) とは？
- 第18回 ジャポニズムと中世主義
- 第19回 ジャポニズムとは？
- 第20回 ゴシック・リバイバル
- 第21回 ラファエル前派の芸術－その1
- 第22回 ラファエル前派の芸術－その2
- 第23回 イギリスとアイルランド
- 第24回 ケルト復興－その1
- 第25回 ケルト復興－その2
- 第26回 日本人の見たイギリス－その1 ロンドンの霧を描いた画家－牧野義雄
最初に英語の詩を出版したヨネ・野口
- 第27回 日本人の見たイギリス－その2 漱石のロンドン
- 第28回 イングランドの世紀末 都市と文学－James Thomson, 'The City of the Dreadful Night'
- 第29回 試験

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 20% 出席 30%
授業では主として英文の資料を使いますので、積極的に参加するようにして下さい。
パワーポイントのプリントアウトは配布しませんので、講義の中でノートをするようにして下さい。

【教科書】

毎回ハンドアウトを配布します。

【参考文献】

授業の中で紹介します。

【備考】

【準備学習の指示】

毎回配布する資料は主に英文で書かれていますので、授業を受ける際には事前に準備するとともに、あとでよく復習しておいてください。

・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分			
イタリア語 I a			
暇 面 暇	絵 地 絵	里 敦 里	01<春> 02<春> 03<春>
			1 単位

【講義概要】

イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々にとってなじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくよう演習形式をとる。

【学習目標】

基本的語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と平行して向上するように、徹底した反復練習を行う。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使って欲しい。

【講義計画】

- 第1回 授業の概要・方針説明・
イタリア語での簡単なあいさつ・
自己紹介
- 第2回 発音の仕方やイントネーションの確認
- 第3回 IoとTuの対話 (essere)
- 第4回 不定冠詞と定冠詞 (単数)
- 第5回 数字 1－10と不定冠詞と定冠詞 (複数)
- 第6回 -are動詞
- 第7回 復習
- 第8回 中間試験
- 第9回 動詞Avereの使い方と年齢の言い方
- 第10回 形容詞
- 第11回 -ere動詞
- 第12回 動詞の応用
- 第13回 冠詞、前置詞の使い方
- 第14回 期末試験

【成績評価の方法】

平常点 (授業における積極性、反応度、理解度) を基本とする。また、二回 (a, b共通) の筆記試験と適宜の小テストあるいはオーラル試験を授業中に行う。作文などの提出物を求める場合もある。これらの材料から受講生各自の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】

- ・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』(初回授業時に配布し、印刷製本代を徴収する)
- ・教科書の他に地所を必ず授業に持ってくる。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』を勧めるが、他の辞書でも良い。

【参考文献】

京藤好男『文法から学べるイタリア語ドリル』(ナツメ社)

【備考】

4月第1週から始まるNHK教育テレビのイタリア語講座を視聴しておくこと。

・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分		
イタリア語 I b		
和栗珠里 駿 絵 里 牧 絵 里 みぎわ	01 <春> 02 <春> 03 <春>	1 単位

【講義概要】

イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々になじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。

【学習目標】

基本的語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と平行して向上するように、徹底した反復練習を行なう。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使ってほしい。

【講義計画】

- 第1回 ・授業の概要・方針説明
・イタリア語での簡単な挨拶
・自己紹介
- 第2回 発音の仕方やイントネーションの確認
- 第3回 IoとTuの対話 (Essere)
- 第4回 不定冠詞と定冠詞 (単数)
- 第5回 数字 1-10と不定冠詞と定冠詞 (複数)
- 第6回 -are動詞
- 第7回 復習
- 第8回 中間試験
- 第9回 Avereの使い方と年齢の言い方
- 第10回 形容詞
- 第11回 -ere動詞
- 第12回 動詞の応用
- 第13回 冠詞前置詞の使い方
- 第14回 試験

【成績評価の方法】

平常点(授業における積極性、反応度、理解度)を基本とする。また、二回 (a, b共通) の筆記試験と適宜の小テストあるいはオーラル試験を授業中に行なう。作文などの提出物を求める場合もある。これらの材料から受講生各々の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】

- ・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』(初回授業時に配布し、印刷製本代を徴収する)
- ・教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくる。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』(小学館)を勧めるが、他の辞書でもよい。

【参考文献】

京藤好男『文法から学べるイタリア語ドリル』(ナツメ社)

【備考】

4月第1週から始まるNHK教育テレビのイタリア語講座を視聴しておくこと。
・02~07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分		
イタリア語 II a		
駿 絵 里 面 地 敦 駿 絵 里	01 <秋> 02 <秋> 03 <秋>	1 単位

【講義概要】

イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々にとってなじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくよう演習形式をとる。

【学習目標】

イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々にとってなじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくよう演習形式をとる。

【講義計画】

- 第1回 春学期の復習
- 第2回 -ire動詞と時間の言い方
- 第3回 -isco型の動詞
- 第4回 所有形容詞
- 第5回 直接代名詞
- 第6回 動詞piacereの用法と間接代名詞
- 第7回 復習
- 第8回 中間試験
- 第9回 不規則動詞 (volere, dovere, potere)
- 第10回 不規則動詞 (venire, uscire, rimanere)
- 第11回 Avereを用いた近過去
- 第12回 Essereを用いた近過去
- 第13回 近過去の確認
- 第14回 期末試験

【成績評価の方法】

平常点(授業における積極性、反応度、理解度)を基本とする。また、二回 (a, b共通) の筆記試験と適宜の小テストあるいはオーラル試験を授業中に行なう。作文などの提出物を求める場合もある。これらの材料から受講生各々の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】

- ・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』(初回授業時に配布し、印刷製本代を徴収する)
- ・教科書の他に地所を必ず授業に持ってくる。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』を勧めるが、他の辞書でも良い。

【参考文献】

京藤好男『文法から学べるイタリア語ドリル』(ナツメ社)

【備考】

NHK教育テレビのイタリア語講座を視聴しておくこと
・02~07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分		
イタリア語Ⅱ b		
和 栗 珠 里 暖 絵 里 牧 みぎわ	01 <秋> 02 <秋> 03 <秋>	1 単位

【講義概要】

イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々になじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。

【学習目標】

基本的語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と平行して向上するように、徹底した反復練習を行なう。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使うしてほしい。

【講義計画】

- 第1回 春学期の復習
- 第2回 -ire動詞と時間の言い方
- 第3回 isco型
- 第4回 所有形容詞
- 第5回 直接代名詞
- 第6回 Piacereの用法と間接代名詞
- 第7回 復習
- 第8回 中間試験
- 第9回 不規則動詞 (volere, dovere, potere)
- 第10回 不規則動詞 (venire, uscire, rimanere)
- 第11回 Avereを用いた近過去
- 第12回 Essereを用いた近過去
- 第13回 近過去の確認
- 第14回 試験

【成績評価の方法】

平常点(授業における積極性、反応度、理解度)を基本とする。また、二回 (a, b共通) の筆記試験と適宜の小テストあるいはオーラル試験を授業中に行なう。作文などの提出物を求める場合もある。これらの材料から受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】

- ・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』(初回授業時に配布し、印刷製本代を徴収する)
- ・教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくる。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』(小学館)を勧めるが、他の辞書でもよい。

【参考文献】

京藤好男『文法から学べるイタリア語ドリル』(ナツメ社)

【備考】

- NHK教育テレビのイタリア語講座を視聴しておくこと。
- ・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分		
イタリア語Ⅲ a		
和 栗 珠 里 暖 Antonio Giliberti 牧 絵 里	01 <春> 02 <春> 03 <春>	1 単位

【講義概要】

イタリア語Ⅰ、Ⅱで学んだことを基礎に文法力の一層の充実を図り、表現力と理解力を高めることがⅢ、Ⅳでの課題である。

【学習目標】

実践的な演習形式を多くとり入れて聞く力・話す力の向上を目指すのはイタリア語Ⅰ、Ⅱと同じだが、さらに、学生同士で意見交換をしながら文章を読んだり書いたり話したりすることにより、高度で総合的なイタリア語の力を養っていく。また、イタリア人学生との交流によって実践的なイタリア語会話を身につけてもらう。

【講義計画】

- 第1回 授業の概要・指導方針の説明
イタリア語Ⅰ、Ⅱの復習と実践練習(イタリア語の構造のまとめ)
- 第2回 イタリア語Ⅰ、Ⅱの復習
- 第3回 イタリア語Ⅰ、Ⅱの復習
- 第4回 再帰動詞(現在)
- 第5回 再帰動詞(過去)
- 第6回 再帰動詞のまとめ
- 第7回 中間試験
- 第8回 半過去Ⅰ
- 第9回 半過去Ⅱ
- 第10回 半過去Ⅲ
- 第11回 未来形
- 第12回 条件法
- 第13回 復習
- 第14回 試験

【成績評価の方法】

平常点(授業における積極性、反応度、理解度)を基本とし、課題と試験の成果、演習への貢献度を加えて総合的に評価する。課題は、問題集(毎週提出)、イタリア語作文や伊文和訳(随時)など。試験は、筆記試験(各学期の中間および期末)とオーラルテスト(随時)である。

【教科書】

- ・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』(イタリア語Ⅰ、Ⅱで使用したもの)
- ・教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくる。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』(小学館)を勧めるが、他の辞書でもよい。

【参考文献】

京藤好男『文法から学べるイタリア語ドリル』(ナツメ社)

【備考】

- NHK教育テレビのイタリア語講座を視聴しておくこと。
- ・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分

イタリア語Ⅲ b

Antonio Giliberti 牧 みぎわ	01 <春> 02 <春> 03 <春>	1 単位
----------------------------	----------------------------	------

【講義概要】

イタリア語Ⅰ、Ⅱで学んだことを基礎に文法力の一層の充実を図り、表現力と理解力を高めることがⅢ、Ⅳでの課題である。

【学習目標】

実践的な演習形式を多くとり入れて聞く力・話す力の向上を目指すのはイタリア語Ⅰ、Ⅱと同じだが、さらに、学生同士で意見交換をしながら文章を読んだり書いたり話したりすることにより、高度で総合的なイタリア語の力を養っていく。また、イタリア人学生との交流によって実践的なイタリア語会話を身につけてもらう。

【講義計画】

- 第1回 ・授業の概要・指導方針の説明
・イタリア語Ⅰ、Ⅱの復習と実践練習（イタリア語の構造のまとめ）
- 第2回 イタリア語Ⅰ、Ⅱの復習
- 第3回 イタリア語Ⅰ、Ⅱの復習
- 第4回 再帰動詞（現在）
- 第5回 再帰動詞（過去）
- 第6回 再帰動詞のまとめ
- 第7回 中間試験
- 第8回 半過去Ⅰ
- 第9回 半過去Ⅱ
- 第10回 半過去Ⅲ
- 第11回 未来形
- 第12回 条件法
- 第13回 復習
- 第14回 試験

【成績評価の方法】

平常点(授業における積極性、反応度、理解度)を基本とし、課題と試験の成果、演習への貢献度を加えて総合的に評価する。課題は、問題集(毎週提出)、イタリア語作文や伊文和訳(随時)など。試験は、筆記試験(各学期の中間および期末)とオーラルテスト(随時)である。

【教科書】

- ・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』(イタリア語Ⅰ、Ⅱで使用したもの)
- ・教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくる。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』(小学館)を勧めるが、他の辞書でもよい。

【参考文献】

京藤好男「文法から学べるイタリア語ドリル」(ナツメ社)

【備考】

- NHK教育テレビのイタリア語講座を視聴しておくこと
- ・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分

イタリア語Ⅳ a

和 栗 珠 里 Antonio Giliberti 暖 絵 里	01 <秋> 02 <秋> 03 <秋>	1 単位
---------------------------------------	----------------------------	------

【講義概要】

イタリア語Ⅰ、Ⅱで学んだことを基礎に文法力の一層の充実を図り、表現力と理解力を高めることがⅢ、Ⅳでの課題である。

【学習目標】

実践的な演習形式を多くとり入れて聞く力・話す力の向上を目指すのはイタリア語Ⅰ、Ⅱと同じだが、さらに、学生同士で意見交換をしながら文章を読んだり書いたり話したりすることにより、高度で総合的なイタリア語の力を養っていく。また、イタリア人学生との交流によって実践的なイタリア語会話を身につけてもらう。

【講義計画】

- 第1回 ・授業の概要・指導方針の説明
・演習(1)：イタリア語を用いたパフォーマンス(イタリア語劇)の練習
- 第2回 演習(1)
- 第3回 演習(1)
- 第4回 演習(1)
- 第5回 演習(1)
- 第6回 演習(1)
- 第7回 演習(1)
- 第8回 演習(1)本番
- 第9回 演習(1)：オーラル試験、イタリア語検定試験(実力)
- 第10回 講読(1)
- 第11回 講読(2)
- 第12回 演習(2)：イタリア文化についてのプレゼンテーション(イタリア語)の準備
- 第13回 演習(2)
- 第14回 演習(2)：プレゼンテーションの発表

【成績評価の方法】

平常点(授業における積極性、反応度、理解度)を基本とし、課題と試験の成果、演習への貢献度を加えて総合的に評価する。特にパフォーマンス、プレゼンテーションの成果を重要視する。

【教科書】

- ・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』(イタリア語Ⅰ、Ⅱで使用したもの)
- ・教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくる。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』(小学館)を勧めるが、他の辞書でもよい。

【参考文献】

京藤好男『文法から学べるイタリア語ドリル』(ナツメ社)

【備考】

- NHK教育テレビのイタリア語講座を視聴しておくこと
- ・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分		
イタリア語Ⅳb		
Antonio Giliberti 牧 みぎわ Antonio Giliberti	01<秋> 02<秋> 03<秋>	1単位

【講義概要】

イタリア語Ⅰ、Ⅱで学んだことを基礎に文法力の一層の充実を図り、表現力と理解力を高めることがⅢ、Ⅳでの課題である。

【学習目標】

実践的な演習形式を多くとり入れて聞く力・話す力の向上を目指すのはイタリア語Ⅰ、Ⅱと同じだが、さらに、学生同士で意見交換をしながら文章を読んだり書いたり話したりすることにより、高度で総合的なイタリア語の力を養っていく。また、イタリア人学生との交流によって実践的なイタリア語会話を身につけてもらう。

【講義計画】

- 第1回 ・授業の概要・指導方針の説明
・演習(1)：イタリア語を用いたパフォーマンス(イタリア語劇)の練習
- 第2回 演習(1)
- 第3回 演習(1)
- 第4回 演習(1)
- 第5回 演習(1)
- 第6回 演習(1)
- 第7回 演習(1)
- 第8回 演習(1)本番
- 第9回 演習(1)：オーラル試験、イタリア語検定試験(実力)
- 第10回 講読(1)
- 第11回 講読(2)
- 第12回 演習(2)：イタリア文化についてのプレゼンテーション(イタリア語)の準備
- 第13回 演習(2)
- 第14回 演習(2)：プレゼンテーションの発表

【成績評価の方法】

平常点(授業における積極性、反応度、理解度)を基本とし、課題と試験の成果、演習への貢献度を加えて総合的に評価する。特にパフォーマンス、プレゼンテーションの成果を重要視する。

【教科書】

- ・講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』(イタリア語Ⅰ、Ⅱで使用したもの)
- ・教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくる。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』(小学館)を勧めるが、他の辞書でもよい。

【参考文献】

京藤好男「文法から学べるイタリア語ドリル」(ナツメ社)

【備考】

- NHK教育テレビのイタリア語講座を視聴しておくこと
- ・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
一般経済史 01<通期>	
富澤修身	4単位

【講義概要】

まず、一般経済史で学ぶ内容を詳しい目次と年表で確認する。次に、イギリス産業革命を論じて、現代に通じる大きな経済変化を論じる。以上を踏まえて、産業革命発生の条件がいかに準備されたかについて18世紀の経済史を論じ、産業革命が生み出した19世紀の経済史、大きな企業、大きな労働組合、大きな政府に特徴づけられる20世紀の経済史と順番に論じる。21世紀の経済史は20世紀末の経済史の中で取り上げる。

【学習目標】

2008年9月に顕在化したアメリカ発の金融危機と実体経済の危機は、世界同時不況となって、前代未聞の事態に世界を陥れた。世界経済は、そして日本経済はこれからどうなるのであろうか。今こそ、歴史から学び、現状を正しく理解し、その成果を未来に生かすことが求められている。一般経済史の講義では、現代を理解し、未来を構想するための基本的な考え方と知識を学ぶ。

【講義計画】

- 第1回 1.はじめに
- 第2回 2.産業革命 2.1.イギリス産業革命(1)
- 第3回 2.1.イギリス産業革命(2)
- 第4回 2.1.イギリス産業革命(3)
- 第5回 2.1.イギリス産業革命(4)
- 第6回 2.2.後発国・地域の工業化(1)
- 第7回 2.2.後発国・地域の工業化(2)
- 第8回 2.2.後発国・地域の工業化(3)
- 第9回 3.18世紀の経済史 3.1.問屋制経営(1)
- 第10回 3.1.問屋制経営(2)
- 第11回 3.2.協業(1)
- 第12回 3.2.協業(2)
- 第13回 3.3.マニュファクチュア(1)
- 第14回 3.3.マニュファクチュア(2)
- 第15回 3.3.マニュファクチュア(3)
- 第16回 4.19世紀の経済史 4.1.機械制大工業(1)
- 第17回 4.1.機械制大工業(2)
- 第18回 4.1.機械制大工業(3)
- 第19回 4.2.鉄道経営(1)
- 第20回 4.2.鉄道経営(2)
- 第21回 4.2.補論 電力経営
- 第22回 5.20世紀の経済史 5.1.大企業の登場(1)
- 第23回 5.1.大企業の登場(2)
- 第24回 5.1.補論 独占的大企業の事例
- 第25回 5.2.1930年代ニューディール(1)
- 第26回 5.2.1930年代ニューディール(2)
- 第27回 5.3.戦後経済史(1)
- 第28回 5.3.戦後経済史(2)

【成績評価の方法】

レポート 60% 出席 40%

主レポートは、前期、後期の2回行う。授業中にも区切りのよいところで、小レポートを10分ほど使って作成してもらう。出席点は、ノート点をベースにつける。ノートのコピーの提出時期は、前期および後期の終了時点を予定している。

【教科書】

講義資料として、コピーを配布する。

【備考】

【準備学習の指示】 毎回講義終了時に、次回の講義に関連するキーワードを複数指定して、図書あるいはインターネットを通じて、事前学習させる。

科目名 クラス 講義区分

一般経済史 02<春集>

前田 治郎

4単位

【講義概要】

人類史において、人間はその自然変革能力を高めてきた。とりわけ資本主義の成立以後、この発展は加速度を増し、今日の高い生産力にまで到達した。しかし他方、依然として地球上には飢餓人口が存在し、環境問題は猶予ならないほどに深刻化し、また人殺しのための兵器が科学技術の最先端を代表しているといった現実も忘れるべきではない。この講義の前半では、資本主義を相対化するために、資本主義も含む通史的な経済史の発展傾向を、3つの観点(生産力、経済システム、国家)から考え、後半では、資本主義そのものの発展を理解するのに必要な基礎的諸概念を取り上げる。それらを通じて考えたいことは、「資本主義とは何か?」ということである。

【学習目標】

広い視野と観点から歴史を参照しつつ、現代の諸問題を見つめる眼を養いたい。

【講義計画】

- 第1回 講義概要の説明
- 第2回 生産力発展の現段階
- 第3回 生産力の構造(労働と社会的生産力)
- 第4回 生産力の構造(生産手段の発展1)
- 第5回 生産力の構造(生産手段の発展2)
- 第6回 生産力発展の歴史的傾向
- 第7回 経済システムとは何か
- 第8回 アメリカインディアンの社会
- 第9回 アジア的専制国家
- 第10回 ギリシア・ローマの都市国家
- 第11回 封建社会
- 第12回 資本主義
- 第13回 国家(社会契約説)
- 第14回 国家(国家有機体論)
- 第15回 国家(階級国家論)
- 第16回 対外的国家と世界
- 第17回 絶対主義と市民革命
- 第18回 産業革命
- 第19回 先進国と後進国
- 第20回 資本主義の世界体制
- 第21回 国際通貨体制
- 第22回 独占資本主義
- 第23回 帝国主義と第一次世界大戦
- 第24回 1920年代の世界経済1
- 第25回 1920年代の世界経済2
- 第26回 世界大恐慌
- 第27回 社会主義と福祉国家
- 第28回 講義のまとめ

【成績評価の方法】

試験 100%
授業中に予告なく7回の小テスト(20点満点)を行い、成績上位5回の合計点で評価する。したがって出席も間接的に成績に反映する。

【参考文献】

塚 憲一(著)『あなたが歴史と出会うとき—経済の視点から—』名古屋大学出版会

【備考】

【準備学習の指示】
各種報道に接する際、環境、技術、雇用など、現代経済の抱える様々な問題点を常に意識すること。

科目名 クラス 講義区分

異文化間コミュニケーション論 01<春集>
異文化間コミュニケーション論 02<秋集>

金本 伊津子

4単位

【講義概要】

情報は瞬時にして世界を駆け巡り、物は国の境を越え、人は文化の壁を越えはじめた。地球規模で地域、組織、家族の多文化化が進み、日常生活の中でも異文化と出会う機会が増大した。このような国際社会の関係性の変化に伴い、文化的背景が異なる人々とのコミュニケーションをとおして「共生」する能力はますます重要視されてきている。

この科目においては、言語・思考・価値観など文化的背景の異なる人々がコミュニケーションをする場合に生じる様々な現象や問題点を理解する。

【学習目標】

前半の15回は、異文化間コミュニケーション論における基本的な概念の説明を行う。後半の15回は、日本的コミュニケーションの特性を明らかにしながら、英語教員志望者に配慮し、主に世界の憧れと反発の対象である「アメリカ人」のコミュニケーション行動の特徴の分析を行う。

異文化間コミュニケーションの最大の問題は「我」にある。相手(異文化)のみならず自分(自文化)のコミュニケーションの特性(癖)を理解することは、文化を越える第一歩となるに違いない。

【講義計画】

- 第1回 コースの概要
- 第2回 文化とは?
- 第3回 文化とアイデンティティ
- 第4回 カルチャーショックのプロセス
- 第5回 コミュニケーションのメカニズム
- 第6回 言語とコミュニケーション(1): 言語の構造
- 第7回 言語とコミュニケーション(2): 言語相対主義
- 第8回 非言語コミュニケーションの類型(1)
- 第9回 非言語コミュニケーションの類型(2)
- 第10回 非言語コミュニケーションの文化比較
- 第11回 コミュニケーションの障害(1): ステレオタイプと偏見
- 第12回 コミュニケーションの障害(2): 異文化理解(正解・誤解)
- 第13回 ディアスポラ: 文化の境界を生きる人々
- 第14回 グローバリゼーションと文化の衝突
- 第15回 復習テストにむけての総復習
- 第16回 復習テスト
- 第17回 異文化屈折・異文化摩擦・異文化衝突の理論
- 第18回 文化の志向性とコミュニケーション・パターン
- 第19回 アメリカの文化とコミュニケーション(1): 移民国家アメリカにおける国民性形成の過程
- 第20回 アメリカの文化とコミュニケーション(2): 大統領選挙にみる多数決原理
- 第21回 アメリカの文化とコミュニケーション(3): 裁判制度にみる意思決定のプロセス
- 第22回 アメリカの文化とコミュニケーション(4): 宗教国家アメリカにおける対立構造
- 第23回 日本の文化とコミュニケーション(1): 異文化受容の歴史
- 第24回 日本の文化とコミュニケーション(2): 分立構造のメカニズム
- 第25回 日本の文化とコミュニケーション(3): 対立回避のメカニズム
- 第26回 異文化間コミュニケーションの研究手法(1)
- 第27回 異文化間コミュニケーションの研究手法(2)
- 第28回 多文化共生社会にむけて
- 第29回 学期末テストにむけての総復習
- 第30回 学期末テスト

【成績評価の方法】

- 出席 10%
- (1) 授業時間内に実施する「復習テスト」30%、そして試験期間内に実施する「学期末テスト」60%から評価する。
 - (2) 出席(10%)は、授業中の提出物(主に、異文化コミュニケーション・トレーニングに関わるもの)を参考にして総合的に評価する。
 - (3) シラバスの変更は授業中に通知する。

【教科書】

石井敏、久米昭元、遠山淳(編)『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣

【参考文献】

石井敏、久米昭元（編）、金本伊津子（共著）（2005）『異文化コミュニケーション研究法』有斐閣
 石井敏、久米昭元、遠山淳（編）（2001）『異文化コミュニケーションの理論』有斐閣

【備考】

- （1）資料は授業中に配布する。
 （2）【準備学習の指示】・教科書による予習・復習が必要である。毎回の授業に関連する箇所（章・節）を授業中に指示する。・「今」まさに起きている国際関係を素材として授業を展開していくので、新聞記事を読むことを推奨する。

科目名 クラス 講義区分

インドネシア語 I a <春>

由 比 邦 子

1 単位

【講義概要】

本講義では、インドネシア語の基礎をまず身につける。インドネシア語という言葉、ひいてはインドネシア人のものの考え方の特性を常に確認しながら、授業を進めていきたい。

【学習目標】

基本的な文の構造を把握する。インドネシア語の場合、動詞を含まない文と動詞を含む文の2種類があることをしっかり覚えること。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション～インドネシア語とは
 第2回 自己紹介と挨拶
 第3回 品詞・文の種類
 第4回 人称詞
 第5回 動詞を含まない文
 第6回 動詞を含む文
 第7回 形容詞の使い方
 第8回 否定文、中間試験
 第9回 疑問文と返答法
 第10回 助動詞の使い方
 第11回 命令文・依頼の表現
 第12回 数詞
 第13回 数字を使った表現
 第14回 国歌「Indonesia Raya」を聴く
 第15回 期末試験

【成績評価の方法】

期末試験60%、中間試験30%、出席10%

【備考】**【準備学習の指示】**

インドネシア語は構造的に英語と共通するところが多いので、英語の基本文法をしっかり復習しておくこと。
 ・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
インドネシア語Ⅰb <春>	
Hariadi Pamungkas	1単位

【講義概要】

インドネシア語の発音・語彙・基本表現・基本文法などをしっかり理解し、自由に会話のなかで使う。同時に基礎から正しいインドネシア語の話し言葉・書き言葉を学ぶ。インドネシア語の言葉を通じて、インドネシアの事情を知り、インドネシア人の文化・生活習慣・考え方などを理解する。

【学習目標】

自ら継続的な学習ができるように、インドネシア語の基礎知識をしっかりと理解し、授業で習った語彙・表現・文法などを繰り返しながら会話のなかで使う。「言葉を使う」ことによって、自然に語彙・表現・文法などの活用をうまく実行することができ、各場面ごとに合った表現で会話し、「単語」ではなく「文章」で会話することもできる。最終的にネイティブスピーカーに近いコミュニケーションもできる。そのために、授業のなかで、個人の積極的な参加が求められ、色々な課題やグループワークなどを与えられる。

【講義計画】

- 第1回 授業のガイダンス、インドネシア語の概要、発音の練習
- 第2回 挨拶と自己紹介
- 第3回 食べ物、飲み物、食事
- 第4回 数字
- 第5回 数字の応用編
- 第6回 日付、週、月、年
- 第7回 時間の言い方
- 第8回 日課（日常的な活動）
- 第9回 中間試験
- 第10回 方向、方角、位置
- 第11回 場所、行き方
- 第12回 乗り物、所用時間、料金
- 第13回 服と体に付けるもの
- 第14回 プロジェクトワーク

【成績評価の方法】

試験 30% レポート 10% 出席 30%
学習態度・チームワーク 30%

【参考文献】

プリント配布、その他の教材

【備考】

・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
インドネシア語Ⅱa <秋>	
由比邦子	1単位

【講義概要】

本講義では、動詞・名詞にかかわる接頭辞・接尾辞を中心に学習する。接辞の扱いはインドネシア語を特徴づける重要な要素なので、正確に身につけたい。また、もう一つの重要な要素としての受動態もしっかり覚えたい。

【学習目標】

接辞をつけるための、そしてはずすための様々な手続きを身につける。また、受動態は英語の場合とはかなり異なるので、しっかり覚えよう。

【講義計画】

- 第1回 接辞の種類
- 第2回 動詞に関わる接頭辞・接尾辞(1)
- 第3回 動詞に関わる接頭辞・接尾辞(2)
- 第4回 動詞に関わる接頭辞・接尾辞(3)
- 第5回 従位接続詞の種類
- 第6回 比較の表現
- 第7回 前置詞の種類、中間試験
- 第8回 受動態(1)
- 第9回 受動態(2)
- 第10回 名詞に関わる接頭辞・接尾辞(1)
- 第11回 名詞に関わる接頭辞・接尾辞(2)
- 第12回 接続詞yangの用法
- 第13回 接続詞bahwaの用法
- 第14回 クロンチョン「Bengawan Solo」を聴く
- 第15回 期末試験

【成績評価の方法】

期末試験60%、中間試験30%、出席10%

【備考】

【準備学習の指示】

「インドネシア語Ⅰa」で習得した内容をふまえて、新しい要素を覚えていかなければならないので、「インドネシア語Ⅰa」の復習をしっかりしておくこと。また引き続き、英語基本文法の復習も忘れないように。

・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
インドネシア語Ⅱ b <秋>	
Hariadi Pamungkas	1単位

【講義概要】

インドネシア語の発音・語彙・基本表現・基本文法などをしっかり理解し、自由に会話のなかで使う。同時に基礎から正しいインドネシア語の話し言葉・書き言葉を学ぶ。インドネシア語の言葉を通じて、インドネシアの事情を知り、インドネシア人の文化・生活習慣・考え方などを理解する。

【学習目標】

自ら継続的な学習ができるように、インドネシア語の基礎知識をしっかりと理解し、忘れないうちに今まで習った語彙・表現・文法などを繰り返しながら会話のなかで使う。「言葉を使うこと」によって、各場面ごとに合った語彙・表現・文法などの活用を実行することができ、「長い文章」で会話することもできる。最終的にネイティブスピーカーに近いコミュニケーションができる。そのために、授業のなかで、個人の積極的な参加が求められ、色々な課題やグループワークなどを与えられる。春学期と比べてグループワークの頻度が多くなる。

【講義計画】

- 第1回 授業のガイダンス、春学期の復習
- 第2回 部屋の中のもの
- 第3回 疑問詞
- 第4回 買い物
- 第5回 体の部分と健康
- 第6回 痛み、病名、けが
- 第7回 病院と治療
- 第8回 家族
- 第9回 中間試験
- 第10回 仕事と職業
- 第11回 生活
- 第12回 余暇、旅行会話
- 第13回 プロジェクトワーク
- 第14回 プロジェクトワーク

【成績評価の方法】

試験 30% レポート 10% 出席 30%
学習態度・チームワーク 30%

【参考文献】

プリント配布、その他の教材

【備考】

・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
インドネシア語Ⅲ a <春>	
深見純生	1単位

【講義概要】

インドネシア語を読む力をつけるとどうじに、インドネシアの文化と社会への基礎的な理解を身につけるようにする。講読テキストとしてはインドネシアの社会や文化を紹介するものを取り上げる。インドネシアの社会と文化を理解する助けとして、また身近に感じるために、映像資料も使っていきたい。

【学習目標】

半年後には、辞書の助けを借りつつ、インドネシア語でインドネシアの社会や文化を自分で学ぶ入り口まで行くこと目指す。あわせて、自分を表現することを中心に、作文にも力を入れる。徐々に接辞を使い、また接続詞と関係代名詞を使って、長い文章が書けるようになってほしい。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーションと復習1 あいさつと自己紹介
- 第2回 復習2 接辞のつけ方はずし方
- 第3回 短文講読1 + 映像バリに行こう
- 第4回 短文講読2 + 映像バリに行こう
- 第5回 接続詞1 + 映像ジョクジャよいとこ
- 第6回 接続詞2
- 第7回 複文（主節と従属節）
- 第8回 中間試験+映画を見よう
- 第9回 接辞の用法1 me-
- 第10回 接辞の用法2 pe-
- 第11回 講読1 Bali + 映像
- 第12回 講読2 Bali + 映像
- 第13回 接辞の用法3 ber-
- 第14回 接辞の用法4 pe- -an
- 第15回 期末試験

【成績評価の方法】

毎回出席が前提である。平常点（小テストを含む）50%、期末テスト50%

【教科書】

プリント配布。

【備考】

・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分

インドネシア語Ⅲ b <春>

Hariadi Pamungkas

1単位

【講義概要】

インドネシア語の初級レベルの知識をしっかりと使いこなすことができ、自由に会話のなかで使う。同時に正しい中級レベルのインドネシア語を学ぶ。インドネシア語の言葉を通じて、インドネシアの事情を知り、インドネシア人の文化・生活習慣・考え方などを理解する。

【学習目標】

今まで習った語彙・基本表現・基本文法などをさらに正しく正確に使う。ネイティブスピーカーに近いインドネシア語の話し方を練習する。そのために、言葉の活用だけでなく、文章と会話のなかで色々な語彙・表現・文法の組み合わせを使ってみる。そのために、授業のなかで、個人の積極的な参加が求められ、より多く課題やグループワークなどを与えられる。

【講義計画】

- 第1回 授業のガイダンス、前年度の復習
- 第2回 インドネシア語の文章の組み方
- 第3回 原型名詞、名詞の組み合わせ
- 第4回 原型動詞、動詞の組み合わせ
- 第5回 受動態
- 第6回 命令形
- 第7回 電話の仕方
- 第8回 メールの書き方
- 第9回 中間試験
- 第10回 原型形容詞
- 第11回 形容詞の応用編
- 第12回 副詞
- 第13回 プロジェクトワーク
- 第14回 プロジェクトワーク

【成績評価の方法】

試験 30% レポート 10% 出席 30%
学習態度・チームワーク 30%

【参考文献】

プリント配布、その他の教材

【備考】

・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分

インドネシア語Ⅳ a <秋>

深見純生

1単位

【講義概要】

インドネシア語を読む力をつけるとどうじに、インドネシアの文化と社会への基礎的な理解を身につけるようにする。講義テキストとしてはインドネシアの社会や文化を紹介するものを取り上げる。インドネシアの社会と文化を理解する助けとして、また身近に感じるために、映像資料も使っていきたい。

【学習目標】

半年後には、辞書の助けを借りつつ、インドネシア語でインドネシアの社会や文化を自分で学ぶことができるようになることを目指す。あわせて、自分を表現することを中心に、作文にも力を入れる。徐々に接辞を使い、また接続詞と関係代名詞を使って、長い文章が書けるようになってほしい。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーションと復習1 接辞のつけ方はずし方、接辞の機能
- 第2回 復習2 接続詞の種類、接続詞のある文
- 第3回 復習3 疑問詞の整理
- 第4回 講読1 Wayang +映像
- 第5回 講読2 Wayang +映像
- 第6回 接辞1 ter- と di-
- 第7回 接辞2 me- -kan
- 第8回 中間試験+映画を見よう
- 第9回 関係代名詞+映像
- 第10回 講読1 Indonesia
- 第11回 講読2 Indonesia
- 第12回 形容詞の整理と応用
- 第13回 講読1+映像 Gamelang
- 第14回 講読2+映像 Gamelang
- 第15回 期末試験

【成績評価の方法】

毎回出席が前提である。平常点（小テストを含む）50%、期末テスト50%

【教科書】

プリント配布。

【備考】

・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
インドネシア語Ⅳb <秋>	
Hariadi Pamungkas	1単位

【講義概要】

インドネシア語の中級レベルの語彙・表現・文法などをしっかり理解し、会話のなかで使う。同時に中級レベルのインドネシア語の知識を学ぶ。インドネシア語の言葉を通じて、インドネシアの事情を知り、インドネシア人の文化・生活習慣・考え方を理解する。

【学習目標】

今まで習った語彙・基本表現・基本文法などをさらに正しく正確に使う。ネイティブスピーカーに近いインドネシア語の話し方を練習する。そのために、言葉の活用だけではなく、文章と会話のなかで色々な語彙・表現・文法の組み合わせを使ってみる。そのために、授業のなかで、個人の積極的な参加が求められ、より多く課題やグループワークなどを与えられる。

【講義計画】

- 第1回 授業のガイダンス、春学期の復習
- 第2回 接続詞
- 第3回 言い回し(1)
- 第4回 言い回し(2)
- 第5回 クッション言葉
- 第6回 ber-動詞
- 第7回 me-動詞(1)
- 第8回 me-動詞(2)
- 第9回 中間試験
- 第10回 スラング(1)
- 第11回 スラング(2)
- 第12回 新聞記事の読み方
- 第13回 プロジェクトワーク
- 第14回 プロジェクトワーク

【成績評価の方法】

試験 30% レポート 10% 出席 30%
学習態度・チームワーク 30%

【参考文献】

プリント配布、その他の教材

【備考】

・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
英語Ⅴ(上級) - TOEIC I <通期>	
村瀬 寿代	2単位

【講義概要】

TOEICテストのスコアアップを目指すとともに、英語力をつけるための講座である。テキストを中心に授業を進めるが、参加型の授業であるので、学生からの発言、意見、質問などを期待する。特に前半はTOEICによく出題される文法を基礎から学ぶ。また、英語を聞いて即座に判断できる力を養うことに焦点を当てる。後半は問題量をこなし、難解な問題にも対処できるようにすることでスコアアップを目指す。また、IPテスト直前にはハンドアウトを配布し、テスト対策を行う。もちろん、講義に参加するだけで英語力を養うことは困難であり、自宅での学習は欠かせない。英語力をつけたい、TOEICスコアを上げたいと考える学生は、1年間、本気で取り組むことが必要である。毎回の復習は不可欠で、課題も多いが、やる気のある学生は学年・学部を問わず、是非挑戦してほしい。授業はほぼ英語で進める。

【学習目標】

TOEICスコア600点～700点、すでにスコアを取得している学生は、少なくとも100点アップを目指す。

【講義計画】

- 第1回 授業の概要 リスニング・リーディングの練習問題
- 第2回 文法問題 Part 1: Preview Test, Review Test Part 2: Preview Test Part 5: Preview Test
- 第3回 文法問題 Part 2: 2.1 Part 3: Preview Test Part 6: Preview Test
- 第4回 文法問題 Part 2: 2.2 Part 4: Preview Test Part 5: 5.1 Part 7: Preview Test
- 第5回 TOEIC IP テスト対策
- 第6回 TOEIC IP テスト対策
- 第7回 文法問題 Part 3: 3.1-3.2 Part 5: 5.2-5.3 Part 7: 7.1
- 第8回 文法問題 Part 2: 2.3-2.4 Part 5: 5.4-5.5 Part 6: 6.1
- 第9回 文法問題 Part 2: 2.5-2.6 Part 5: 5.6-5.7 Part 7: 7.2
- 第10回 文法問題 Part 3: 3.3-3.4 Part 4: 4.1 Part 5: 5.8-5.9
- 第11回 文法問題 Part 2: 2.7-2.8 Part 5: 5.10-11 Part 7: 7.3
- 第12回 Practice Test 1
- 第13回 Practice Test 1
- 第14回 Practice Test 1
- 第15回 復習
- 第16回 文法問題 Part 2: 2.9-2.10 Part 5: 5.12-13 Part 6: 6.2
- 第17回 文法問題 Part 2: 2.11 Part 3: 3.5 Part 5: 5.14-5.15
- 第18回 文法問題 Part 4: 4.2-4.3 Part 6: 6.3 Part 7: 7.4
- 第19回 TOEIC IP テスト対策
- 第20回 TOEIC IP テスト対策
- 第21回 TOEIC IP テスト対策
- 第22回 文法問題 Part 2: 2.12 Part 3: 3.6 Part 5: 5.16-5.17 Part 7: 7.5
- 第23回 Part 2: Review Test Part 3: 3.7-3.8 Part 5: 5.18-5.19 Part 6: Review Test
- 第24回 Part 4: 4.4-4.5 Part 5: Review Test Part 7: 7.6
- 第25回 Part 3: Review Test Part 4: Review Test Part 7: Review Test
- 第26回 Practice Test 2
- 第27回 Practice Test 2
- 第28回 Practice Test 2
- 第29回 文法復習
- 第30回 復習

【成績評価の方法】

試験 80% 出席 20%

TOEIC公開テストもしくはIPテストのスコア80%、出席と小テスト20%。特に学期末試験は行わない。テストを受験した際のスコアの結果は必ず提出すること。

【教科書】

Complete Guide to the TOEIC Test Third Edition Cengage Learning Student TextのみでオーディオCDは含まない。

【参考文献】

適宜指示する。

科目名 クラス 講義区分

英語Ⅴ（上級）-TOEICⅡ <通期>

村瀬 寿代

2単位

【講義概要】

TOEICテストのスコアアップを目指すとともに、英語力をつけるための講座である。テキストを中心に授業を進めるが、参加型の授業であるので、学生からの発言、意見、質問などを期待する。特に前半はTOEICによく出題される文法を基礎から学ぶ。また、英語を聞いて即座に判断できる力を養うことに焦点を当てる。後半は問題量をこなし、難解な問題にも対処できるようにすることでスコアアップを目指す。また、IPテスト直前にはハンドアウトを配布し、テスト対策を行う。もちろん、講義に参加するだけで英語力を養うことは困難であり、自宅での学習は欠かせない。英語力をつけたい、TOEICスコアを上げたいと考える学生は、1年間、本気で取り組む必要がある。毎回の復習は不可欠で、課題も多いが、やる気のある学生は学年・学部を問わず、是非挑戦して欲しい。授業はほぼ英語で進める。

【学習目標】

TOEICスコア700点～800点、すでにスコアを取得している学生は、少なくとも100点アップを目指す。

【講義計画】

- 第1回 授業の概要 リスニング・リーディングの練習問題
 第2回 文法問題 Part 1: Preview Test, Review Test Part 2: Preview Test Part 5: Preview Test
 第3回 文法問題 Part 2: 2.1 Part 3: Preview Test Part 6: Preview Test
 第4回 文法問題 Part 2: 2.2 Part 4: Preview Test Part 5: 5.1 Part 7: Preview Test
 第5回 TOEIC IP テスト対策
 第6回 TOEIC IP テスト対策
 第7回 文法問題 Part 3: 3.1-3.2 Part 5: 5.2-5.3 Part 7: 7.1
 第8回 文法問題 Part 2: 2.3-2.4 Part 5: 5.4-5.5 Part 6: 6.1
 第9回 文法問題 Part 2: 2.5-2.6 Part 5: 5.6-5.7 Part 7: 7.2
 第10回 文法問題 Part 3: 3.3-3.4 Part 4: 4.1 Part 5: 5.8-5.9
 第11回 文法問題 Part 2: 2.7-2.8 Part 5: 5.10-11 Part 7: 7.3
 第12回 Practice Test 1
 第13回 Practice Test 1
 第14回 Practice Test 1
 第15回 復習
 第16回 文法問題 Part 2: 2.9-2.10 Part 5: 5.12-13 Part 6: 6.2
 第17回 文法問題 Part 2: 2.11 Part 3: 3.5 Part 5: 5.14-5.15
 第18回 文法問題 Part 4: 4.2-4.3 Part 6: 6.3 Part 7: 7.4
 第19回 TOEIC IP テスト対策
 第20回 TOEIC IP テスト対策
 第21回 TOEIC IP テスト対策
 第22回 文法問題 Part 2: 2.12 Part 3: 3.6 Part 5: 5.16-5.17 Part 7: 7.5
 第23回 Part 2: Review Test Part 3: 3.7-3.8 Part 5: 5.18-5.19 Part 6: Review Test
 第24回 Part 4: 4.4-4.5 Part 5: Review Test Part 7: 7.6
 第25回 Part 3: Part 3: Review Test Part 4: Review Test Part 7: Review Test
 第26回 Practice Test 2
 第27回 Practice Test 2
 第28回 Practice Test 2
 第29回 文法復習
 第30回 復習

【成績評価の方法】

試験 80% 出席 20%

TOEIC公開テストもしくはIPテストのスコア80%、出席と小テスト20%。特に学期末試験は行わない。テストを受験した際のスコアの結果は必ず提出すること。

【教科書】

Complete Guide to the TOEIC Test Third Edition Cengage Learning Student TextのみでオーディオCDは含まない。

【参考文献】

適宜指示する。

科目名 クラス 講義区分

英語Ⅴ（上級）-日本事情Ⅰ <通期>

Warren Decker

2単位

【講義概要】

Japan Through Experiential Learning

【学習目標】

This course is a chance for students to learn about Japan and learn about themselves through unique experiences in settings outside of the university classroom.

The course will take the form of a series of excursions to local mountains, local schools, rural areas and more.

The classroom meeting will mostly be a time for preparation for upcoming excursions and reflections on completed excursions.

This course will require a considerable time commitment outside of the regular class hours.

The following is a list of possible themes for the course:

【講義計画】

- 第1回 Preparation
 第2回 Contribution
 第3回 Community
 第4回 Solitude
 第5回 Contemplation
 第6回 Education
 第7回 Diversity
 第8回 Language
 第9回 Tradition
 第10回 Culture
 第11回 Agriculture
 第12回 Environment
 第13回 Exploration
 第14回 Health
 第15回 Reflection
 第16回 Shrines
 第17回 Temples
 第18回 Mountains
 第19回 Coastlines
 第20回 Forests
 第21回 Villages
 第22回 Gardens
 第23回 Rice fields
 第24回 Parks
 第25回 Cities
 第26回 Businesses
 第27回 Libraries
 第28回 Kindergarten
 第29回 Elementary School
 第30回 Markets

【成績評価の方法】

レポート 50% 出席 50%

Your grade for this class will depend on participation in the excursions and written reflections in a journal.

【教科書】

No textbook is required.

【備考】

I'm looking forward to meeting all of you. I hope this course will be an exciting opportunity for all of us to learn about ourselves, our community, Japan, and the world!

・英語による講義

科目名 クラス 講義区分	
英語Ⅴ（上級）－日本事情Ⅱ <通期>	
Irene Iwasaki	2単位

【講義概要】

This class will be conducted in English and discuss themes of gender in Japanese society. This may include the need to reflect and share information on gender issues from other countries. The purpose of this course is to foster understanding and awareness about issues of gender in Japanese society and other societies as well. Students will be required to write one in-class essay and prepare one presentation each semester. Active attention and participation is required during each lesson.

【学習目標】

Advanced

- Listening: Can understand most conversation spoken at a natural pace and understand the general meaning of short media reports.
- Reading: Can read short articles and short essays with minimal use of a dictionary.
- Spoken Interaction: Can share information about one's home country and give personal opinions on various topics. Can participate in group discussions with little anxiety.
- Spoken Production: Can make a short (5 minute) oral presentation. Can facilitate discussion on a prepared topic.
- Writing: Can write a five-paragraph essay. Can conduct an outside interview/questionnaire and present it in written form (either in English or translated into English)

【講義計画】

- 第1回 Introductions;
Gender and Language
- 第2回 Media and Stereotypes
- 第3回 Sekuhara
- 第4回 The Glass Ceiling
- 第5回 Beauty Myths and Ikemen
- 第6回 The Metrosexual Male
- 第7回 Gay Marriage
- 第8回 Father's Day
- 第9回 The Salaryman
- 第10回 Writing mid-term (20%)
- 第11回 "Great Happiness Space" The Male Host
- 第12回 "Sakuran" (Part 1) Women in the Edo period
- 第13回 "Sakuran" (Part 2) Comparisons to women in contemporary Japan
- 第14回 Student presentations (40%)
- 第15回 Japan's ranking in the United Nations
- 第16回 Miss Universe
- 第17回 Gender and socialization
- 第18回 Mazacon and the Japanese family
- 第19回 Paternity leave
- 第20回 Gender and education
- 第21回 Textbooks and the comfort women issue
- 第22回 Gender and media
- 第23回 Lolita
- 第24回 Writing mid-term (20%)
- 第25回 "Kanakano" Women in Politics
- 第26回 "Tokyo Girls" Foreign women in Japan
- 第27回 "Sour Strawberries" Foreign workers in Japan
- 第28回 Student presentations (40%)

【成績評価の方法】

試験 20% レポート 40% 出席 40%
No textbook required.

【備考】

・英語による講義

科目名 クラス 講義区分	
英語Ⅴ（上級）－日本事情入門 <通期>	
David T. Van Ham	2単位

【講義概要】

In this class we'll consider the influences of the early masters of Japanese film and consider how accurately they portrayed the values of the society portrayed in their work against our own perceptions of what we know and have experienced living in Japan?

【学習目標】

Allow students to experience the cultural richness of Japanese film and discover how they feel the films relate to the realities of Japanese society today.

【講義計画】

- 第1回 24 Eyes Part 1
- 第2回 24 Eyes Part 2
- 第3回 Tokyo Story Part 1
- 第4回 Tokyo Story Part 2
- 第5回 Seven Samurai Part 1
- 第6回 Seven Samurai Part 2
- 第7回 Harp of Burma Part 1
- 第8回 Harp of Burma Part 2
- 第9回 Sansho the Bailiff Part 1
- 第10回 Sansho the Bailiff Part 2
- 第11回 Crazy Fruit
- 第12回 Woman in the Dunes Part 1
- 第13回 Woman in the Dunes Part 2
- 第14回 Rashomon
- 第15回 Final Day All Reports Due and Last Film
- 第16回 Ballad of Narayama Part 1
- 第17回 Ballad of Narayama Part 2
- 第18回 Tampopo Part 1
- 第19回 Tampopo Part 2
- 第20回 Shall We Dance Part 1
- 第21回 Shall We Dance Part 2
- 第22回 Battles with Honor and Humanity
- 第23回 Sonatine
- 第24回 Mimbo no Onna Part 1
- 第25回 Mimbo no Onna Part 2
- 第26回 Zatoichi Part 1
- 第27回 Zatoichi Part 2
- 第28回 Twilight Samurai Part 1
- 第29回 Twilight Samurai Part 2
- 第30回 Final Day All Reports Due and Last Film

【成績評価の方法】

レポート 40% 出席 60%
Students will be expected to view all films and will write four reaction papers from films of their choice.

【教科書】

No textbook required.

【備考】

・英語による講義

科目名 クラス 講義区分

英語Ⅴ(上級) - 比較文化 < 通期 >

Terence J. O'Brien

2単位

【講義概要】

The teacher and students will share their own experiences regarding culture.

【学習目標】

In the first semester I will compare Japan with Britain. I will show some interesting aspects of buildings both in engineering and in their usages. In the second semester I will talk about modern developments that changed our societies.

【講義計画】

- 第1回 Introductions
- 第2回 Expectations
- 第3回 Comparing countries
- 第4回 Presentation
- 第5回 Education
- 第6回 Presentation
- 第7回 Difficulties
- 第8回 Castles
- 第9回 Churches
- 第10回 Churches
- 第11回 Houses
- 第12回 Houses
- 第13回 Houses
- 第14回 Presentation
- 第15回 Summary
- 第16回 Introductions
- 第17回 Changes
- 第18回 Ideas to take home
- 第19回 Machines
- 第20回 Industrial revolution
- 第21回 Transport
- 第22回 Presentation
- 第23回 Social changes
- 第24回 Presentation
- 第25回 Art
- 第26回 Youth culture
- 第27回 Youth culture
- 第28回 Music
- 第29回 Time
- 第30回 Summary

【成績評価の方法】

Students need to have good attendance, good participation in class and to complete one paper.

【備考】

The lectures and discussions will be in English.
・英語による講義

科目名 クラス 講義区分

英語科教育法Ⅰ < 通期 >

島田勝正

4単位

【講義概要】

英語科教育の基礎理論を概観するとともに、その理論の教育実践への適用を考察する。授業内容は第二言語習得論、英語教育目標論、教育課程論(カリキュラム論、シラバス論、授業計画)、指導方法論、指導技術論(4技能、文法、語彙)教材論、測定評価論、学習者論、教師論と多岐にわたる。単に理論の紹介に終始せず明日の教育実践を射程に入れたワークショップを展開する。その体験は授業案作成、マイクロティーチングとして具現化される。講義においては、常に中学校および高等学校学習指導要領に言及し、その理解を図る。

【学習目標】

受講者は学習の促進としての指導は如何にあるべきかを探求することになる。本講義を通して中学校、高等学校、大学等で経験した英語教育や英語学習を基盤にして作り上げた「思い込み(belief)」を見直し、望ましい英語授業のあり方を自己評価、自己点検ができるようになる。

【講義計画】

- 第1回 1. ガイダンス
- 第2回 2. 指導・学習・評価(指導の役割)
- 第3回 3. 第二言語習得論1(習慣形成理論と創作的構築)
- 第4回 4. 第二言語習得論2(学習転移)
- 第5回 5. 誤答分析
- 第6回 6. 第二言語習得論3(インプット仮説)
- 第7回 7. TPR
- 第8回 8. 誤答への対応
- 第9回 9. 文法指導1(気づき活動)
- 第10回 10. 文法指導2(教材作成)
- 第11回 11. 目標論1(コミュニケーション能力)
- 第12回 12. 目標論2(中学校学習指導要領)
- 第13回 13. 目標論3(高等学校学習指導要領)
- 第14回 14. コミュニケーション方略
- 第15回 15. 試験
- 第16回 1. コミュニカティブアプローチ1(カリキュラム論、シラバス論)
- 第17回 2. コミュニカティブアプローチ2(文機能分析)
- 第18回 3. コミュニカティブアプローチ3(教授法)
- 第19回 4. スピーキング(教材評価)
- 第20回 5. リスニング(背景知識の活性化)
- 第21回 6. リーディング(発問の種類と方法)
- 第22回 7. ライティング(フィードバック)
- 第23回 8. 語彙(記憶術)
- 第24回 9. 授業案作成
- 第25回 10. 授業観察、授業分析
- 第26回 11. 観点別評価と評定(規準と基準)
- 第27回 12. テスティング1(妥当性、信頼性、実用性)
- 第28回 13. テスティング2(項目改善)
- 第29回 14. テスティング3(項目分析)
- 第30回 15. 試験

【成績評価の方法】

課題提出(36%)、レポート(24%)、試験(40%)の合算点を基本とし、複数回行う英語学力テスト(小テスト)の結果を勘案して、総合的に判断する。各学期、2回を超えて欠席した場合、出席不足(X:無評価)として処理する。

【参考文献】

- 1. 白畑他(著)2000『英語教育用語辞典』大修館書店
- 2. Richards, J., and Schmidt, R. (eds.) 2002. Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics, Third Edition. Longman.
- 3. 青木(編)1990, 1994『英語授業実例事典Ⅰ, Ⅱ』大修館書店
- 4. 青木(編著)1990『英語授業の組立て』開隆堂
- 5. 山田、望月(編)1996『私の英語授業』大修館書店

【備考】

【準備学習の指示】

「課題」を済ませておくこと

科目名 クラス 講義区分	
英語科教育法Ⅱ < 通期 >	
島田 勝正	4単位

【講義概要】

本講義は、英語教員養成カリキュラム上、「英語科教育法Ⅰ」と「教育実習Ⅰ、Ⅱ」との橋渡しとして位置づけられる。したがって、すべての授業は、「教育実習」を射程に入れたワークショップである。具体的には、授業研究（授業案作成－授業提案－授業観察－授業分析－授業案改善－授業再提案の過程を経る）を通して、英語授業の構成能力を錬磨する。講義では、常に中学校および高等学校学習指導要領に言及し、その理解を図る。授業研究では、グループで授業案を作成し、授業提案を行い、他の受講生からフィードバックを得て、修正案を考える。

【学習目標】

「英語科教育法Ⅰ」で得た知見を基盤に、英語科の指導と評価の理論をより深く理解し、授業の実践力を錬磨する。

【講義計画】

- 第1回 1. ガイダンス
- 第2回 2. 授業案の書き方
- 第3回 3. 授業案の作成(1)
- 第4回 4. 文法を中心とした授業研究(1)
- 第5回 5. スピーキングを中心とした授業研究(1)
- 第6回 6. リスニングを中心とした授業研究(1)
- 第7回 7. ライティングを中心とした授業研究(1)
- 第8回 8. リーディングを中心とした授業研究(1)
- 第9回 9. 授業案(修正案)の作成(1)
- 第10回 10. 文法を中心とした授業研究(2)
- 第11回 11. スピーキングを中心とした授業研究(2)
- 第12回 12. リスニングを中心とした授業研究(2)
- 第13回 13. ライティングを中心とした授業研究(2)
- 第14回 14. リーディングを中心とした授業研究(2)
- 第15回 15. 試験
- 第16回 1. 授業案の作成(2)
- 第17回 2. 文法を中心とした授業研究(3)
- 第18回 3. スピーキングを中心とした授業研究(3)
- 第19回 4. リスニングを中心とした授業研究(3)
- 第20回 5. ライティングを中心とした授業研究(3)
- 第21回 6. リーディングを中心とした授業研究(3)
- 第22回 7. 授業案(修正案)の作成(2)
- 第23回 8. 文法を中心とした授業研究(4)
- 第24回 9. スピーキングを中心とした授業研究(4)
- 第25回 10. リスニングを中心とした授業研究(4)
- 第26回 11. ライティングを中心とした授業研究(4)
- 第27回 12. リーディングを中心とした授業研究(4)
- 第28回 13. テストの作成(1)
- 第29回 14. テストの作成(2)
- 第30回 15. 試験

【成績評価の方法】

授業参加(42%)、授業提案(30%)、テストまたはレポート(28%)の合算点を基本とし、複数回実施する英語学力テスト(小テスト)を勘案して、総合的に判断する。各学期、2回を超えて欠席した場合、出席不足(X:無評価)として処理する。

【参考文献】

- 1. 白畑他(著) 2000『英語教育用語辞典』大修館書店
- 2. Richards, J., and Schmidt, R. (eds.) 2002. Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics, Third Edition. Longman.
- 3. 青木(編) 1990, 1994『英語授業実例事典Ⅰ,Ⅱ』大修館書店
- 4. 青木(編著) 1990『英語授業の組立て』開隆堂
- 5. 山田、望月(編) 1996『私の英語授業』大修館書店

【備考】

【準備学習の指示】

ハンドアウトを準備しておくこと

科目名 クラス 講義区分	
英語学概論 01< 春集 >	
南 條 健 助	4単位

【講義概要】

英語は人間言語としての特性を内包する。また同時に英語という個別言語としての特性も併せ持つ。この授業では、英語の中に見られる「人間言語の本質にかかわる普遍的な原理」と「英語という個別言語に特有の性質」を浮き彫りにし、「英語とはどのような言語なのか」を探ってゆく。そのために、まず、言語の仕組みと働きを科学的に研究する言語学の基本的な考え方を紹介する。それを踏まえて、英語学研究のほぼ全領域を概説し、英語学の研究方法と最新の研究成果に関する基礎的な知識を与える。

なお、英語のデータを中心に授業を進めるが、日本語の母語話者が英語学を研究する場合には、日本語との対照研究がきわめて重要であるから、授業では、できるだけ英語と日本語の共通点と相違点を明らかにするように心がけたい。

【学習目標】

この授業は、英語学の研究方法と最新の研究成果に関する基礎的な知識を学び、英語学のより専門的な研究へとつなげてゆくことを目標とする。概論という性格上、詳細な技術的議論には立ち入らない。英語学の各分野における基本的概念の把握と、基礎データの観察・分析に習熟することを目指す。

【講義計画】

- 第1回 言語学と英語学
- 第2回 音声学(1) 発音のメカニズム
- 第3回 音声学(2) 音の分類
- 第4回 音声学(3) 英語の音
- 第5回 音韻論(1) 音素
- 第6回 音韻論(2) 音韻素性
- 第7回 音韻論(3) 音の同化と脱落
- 第8回 形態論(1) 形態素
- 第9回 形態論(2) 派生と屈折
- 第10回 統語論(1) 導入
- 第11回 統語論(2) 文
- 第12回 統語論(3) 構成素
- 第13回 統語論(4) 階層性
- 第14回 統語論(5) 句構造
- 第15回 統語論(6) 主題役割
- 第16回 統語論(7) 格
- 第17回 統語論(8) 構成素統御
- 第18回 意味論(1) 導入
- 第19回 意味論(2) 修飾
- 第20回 意味論(3) 指示
- 第21回 意味論(4) メタファー
- 第22回 語用論(1) 導入
- 第23回 語用論(2) 発話行為
- 第24回 語用論(3) 前提
- 第25回 語用論(4) 推意
- 第26回 英語学と隣接分野(1)
- 第27回 英語学と隣接分野(2)
- 第28回 英語学と隣接分野(3)
- 第29回 まとめ①
- 第30回 まとめ②

【成績評価の方法】

試験 100% 出席 100%

成績は、原則として学期末試験の点数のみに基づいて決定する。試験では、欠かさず授業に出席して、きちんとノートを取っていない場合は解答できない問題を出題する。また、8回以上欠席した者には、試験の点数にかかわらず、単位は与えられない。授業中、私語をする学生には即座に退室してもらい、その日は欠席扱いとする。要するに、この授業は、「出席」と「試験」の両方を重視し、どちらか一方が不十分であっても単位は与えられない。

【教科書】

開講時までに指定する。

なお、補助教材として、必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

授業中に紹介する。

科目名 クラス 講義区分

英語学概論 02<秋集>

林 宅 男

4単位

【講義概要】

英語は人間言語としての特性を内包する。また同時に英語という個別言語としての特性をあわせもつ。まず、人間という種のことばの基底に横たわる知識を探究する言語学の基礎概念を紹介し、また、その基本的な考え方を学ぶ。これを踏まえて、英語学の基本的な下位分野の提要进行を提示し、英語学をことばの科学として捉える。英語のデータを中心に授業をすすめるが、それ以外の言語にも言及する場合がある。

【学習目標】

本講は、英語学の俯瞰図を提供し、学生諸君を英語学のより専門的な世界へ誘うことを第一の目標とする。概論という性格上、細かな技術的議論に触れない。各論における基本的概念の把握と、基礎データの観察に習熟することを目指すことになろう。

【講義計画】

- 第1回 はじめに
 第2回 英語の歴史(1)
 第3回 英語の歴史(2)
 第4回 英語の歴史(3)
 第5回 英語の歴史(4)
 第6回 音声学・音韻論(1)
 第7回 音声学・音韻論(2)
 第8回 音声学・音韻論(3)
 第9回 意味論(語のレベル)(1)
 第10回 意味論(語のレベル)(2)
 第11回 意味論(語のレベル)(3)
 第12回 形態論(1)
 第13回 形態論(2)
 第14回 形態論(3)
 第15回 統語論(1)
 第16回 統語論(2)
 第17回 統語論(3)
 第18回 意味論(文のレベル)(1)
 第19回 意味論(文のレベル)(2)
 第20回 意味論(文のレベル)(3)
 第21回 語用論(1)
 第22回 語用論(2)
 第23回 語用論(3)
 第24回 社会言語学(1)
 第25回 社会言語学(2)
 第26回 言語心理学(1)
 第27回 言語心理学(2)
 第28回 応用言語学(1)
 第29回 応用言語学(2)
 第30回 試験・まとめ

【成績評価の方法】

試験、出席、授業態度、レポート等で総合的に評価する。

【教科書】

影山太郎・Brent de Chene・日比谷潤子「First Steps in English Linguistics -英語言語学の第一歩」くろしお出版

【参考文献】

1. Madelon E. Heatherington (著) 児玉仁士・阿部一 (編注)
How Language Works -英語学入門 金星堂
2. 安藤貞夫・澤田治美 (編) 「英語学入門」開拓者
3. 西光義光(編)「日英対象による英語学概論」くろしお出版

科目名 クラス 講義区分

英語の意味 <春集>

林 宅 男

4単位

【講義概要】

この授業では英語ということばの意味を言語学的観点から学ぶ。前半では言語使用の場面での文脈の意味を研究する「語用論」を取り上げ、後半では、語や文の概念について研究する「意味論」を取り上げる。前半では、我々がことばを使ってコミュニケーションをする場合にどのように意図(意味)を表現するのか、その表現の解釈の原理やメカニズムはどのようなものであるか、更に、ことばの意味は社会的場面とどのように関わっているのか、という観点から英語の意味を学ぶ。後半では、近年の認知科学の発展と平行して最近注目を浴びている「認知意味論」に基づき、言語が脳の精神作用一般の働きとどのように密接に関係し、その意味が主観的な自己の経験や知識とどのように繋がっているかという観点から英語の意味を学ぶ。

【学習目標】

コミュニケーションにおいて人は言葉を使ってどのように自分の考えを相手に伝え、相手はどのような原理に基づいて相手の言葉の意味理解するのか、更には、そこで使われる言葉にはどのような概念的な意味が含まれているのかという点から英語の意味を理解する。

【講義計画】

- 第1回 はじめに
 第2回 語用論の意味観(1)
 第3回 語用論の意味観(2)
 第4回 言語形式の談話レベルでの分析(1)
 第5回 言語形式の談話レベルでの分析(2)
 第6回 言語形式の談話レベルでの分析(3)
 第7回 発話における意図と解釈(1)
 第8回 発話における意図と解釈(2)
 第9回 発話における意図と解釈(3)
 第10回 言語使用の認知的研究(1)
 第11回 言語使用の認知的研究(2)
 第12回 言語使用の認知的研究(3)
 第13回 社会的語用論(1)
 第14回 社会的語用論(2)
 第15回 社会的語用論(3)
 第16回 認知意味論の意味観(1)
 第17回 認知意味論の意味観(2)
 第18回 範疇とプロトタイプ(1)
 第19回 範疇とプロトタイプ(2)
 第20回 範疇とプロトタイプ(3)
 第21回 イメージスキーマ(1)
 第22回 イメージスキーマ(2)
 第23回 イメージスキーマ(3)
 第24回 意味の拡張(1)
 第25回 意味の拡張(2)
 第26回 意味の拡張(3)
 第27回 認知的文法・構文研究(1)
 第28回 認知的文法・構文研究(2)
 第29回 認知的文法・構文研究(3)
 第30回 まとめ・試験

【成績評価の方法】

出席、試験、レポートなどにより総合的に評価する。

【教科書】

松本曜(編)「認知意味論」シリーズ認知言語学入門 第3巻 大修館書店

【参考文献】

授業中に指示する。

【備考】

- ・02~07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
英語の音声 <秋集>	
南 條 健 助	4 単位

【講義概要】

この授業では、標準的なアメリカ英語またはイギリス英語の音声を研究し、英語音声学の基本的な理論を学んでもらうと同時に、実際に英語の音声を正しく聞き取り、自分でも正確な発音ができるようになるための実践的な訓練を行なう。

音声学 (phonetics) とは、音声を科学的に研究する言語科学 (linguistic sciences) の一分野であり、同時に、あらゆる音声を正確に聞き分け、かつ発音し分けることができる、いわば職人芸 (art) でもある。また、イギリス学派音声学 (British school of phonetics) では、音韻論 (phonology) も音声学の一部であると見做される。

この授業では、イギリス学派の伝統である実践音声学 (practical phonetics) というやり方によって、標準的なアメリカ英語またはイギリス英語の音声を、主として調音 (articulation) の面から研究する。実践音声学の手法を用いるためには、まず初めに、たとえ日本人であっても、英米人と区別がつかないくらい、英米人そっくりの発音ができる技能を身につけなければならない。授業では、どうすればそういう発音ができるようになるのかを詳しく解説し、そのための音声学訓練 (phonetic training) に多くの時間を割くつもりである。また、そのような訓練と並行して、毎回少しずつ音声の理論と英語の音声事実を勉強してゆくことにしたい。

なお、今年度は標準的なアメリカ英語とイギリス英語のどちらを中心に学ぶかについては、第1回の授業で説明する。

【学習目標】

この授業では、標準的なアメリカ英語またはイギリス英語の音声を研究し、英語音声学の基本的な理論を学ぶと同時に、実際に英語の音声を正しく聞き取り、自分でも正確な発音ができるようになることを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 入門編(1)
- 第2回 入門編(2)
- 第3回 入門編(3)
- 第4回 強勢とリズム(1)
- 第5回 強勢とリズム(2)
- 第6回 強勢とリズム(3)
- 第7回 強勢とリズム(4)
- 第8回 音調(1)
- 第9回 音調(2)
- 第10回 音調(3)
- 第11回 音調(4)
- 第12回 音のつながりと音変化(1)
- 第13回 音のつながりと音変化(2)
- 第14回 音のつながりと音変化(3)
- 第15回 音のつながりと音変化(4)
- 第16回 子音(1)
- 第17回 子音(2)
- 第18回 子音(3)
- 第19回 子音(4)
- 第20回 子音(5)
- 第21回 母音(1)
- 第22回 母音(2)
- 第23回 母音(3)
- 第24回 母音(4)
- 第25回 母音(5)
- 第26回 発展編(1)
- 第27回 発展編(2)
- 第28回 発展編(3)

【成績評価の方法】

試験 100% 出席 100%

成績は、原則として学期末試験の点数のみに基づいて決定する。試験では、欠かさず授業に出席して、きちんとノートを取っていなければ解答できない問題を出題する。また、8回以上欠席した者には、試験の点数にかかわらず、単位は与えられない。授業中、私語をする学生には即座に退室してもらい、その日は欠席扱いとする。要するに、この授業は、「出席」と「試験」の両方を重視し、どちらか一方が不十分であっても単位は与えられない。

【教科書】

開講時までに指定する。

なお、補助教材として、必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

授業中に紹介する。

【備考】

・02~07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
英語の文法 <秋集>	
清 水 真 一	4 単位

【講義概要】

本講の目標は、英文法の基本をおさめ、英語の統語論研究への橋渡しをすることにある。そのため、英語の構文の整理にまず着手する。しかるのち、統語論研究を目指すものにとって、それを可能にするに足る基礎を提供することもその射程に入っている。従って、実用的な英語の文法の知識の整理・定着に加え、理論的な考察・思索も求められることもあろう。また、将来教職を目指す受講生にとって、英文法における潜在的な問題の所在とそれらに対する論証的な説明の仕方も学ぶ機会となればとも願っている。

【学習目標】

品詞・構文に基づいて英語のデータの観察・整理をおこなう。また、英語の文法のための分析道具についても考察してみる。受講生諸君が英語とその文法をさらに学び続ける契機となるような講義を目指したい。

【講義計画】

- 第1回 導入：英語学習と英語の文法
- 第2回 品詞論
- 第3回 文の種類(1)
- 第4回 文の種類(2)
- 第5回 動詞と動詞句
- 第6回 動詞の型(1)
- 第7回 動詞の型(2)
- 第8回 動詞の型(3)
- 第9回 動詞の型(4)
- 第10回 相(1)
- 第11回 相(2)
- 第12回 名詞と名詞句
- 第13回 名詞(1)
- 第14回 名詞(2)
- 第15回 名詞(3)
- 第16回 形容詞(1)
- 第17回 形容詞(2)
- 第18回 形容詞(3)
- 第19回 副詞(1)
- 第20回 副詞(2)
- 第21回 前置詞(1)
- 第22回 前置詞(2)
- 第23回 助動詞(1)
- 第24回 助動詞(2)
- 第25回 助動詞(3)
- 第26回 時制(1)
- 第27回 時制(2)
- 第28回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 70% 出席 30%

【教科書】

プリントを配布する。

【参考文献】

授業で適宜指示する。

【備考】

【準備学習の指示】

毎回、これまでに学習した「英文法」を項目別に見直しておく、より一層近づきやすく効果的な授業となろう。

・02~07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分

英語の歴史 <秋集>

野原 康弘

4単位

【講義概要】

イギリス各地を旅してまわると、いろいろな場所で、アングロ・サクソン以外の民族が残したのを見ることが出来る。ソールズベリー平原の「ストーンヘンジ」、ケルト民族の伝説の王、アーサー王の城跡や墓、ローマ人のブリテン島支配の跡「ハドリアヌスの防壁」、ヴァイキングが破壊した「リンディスファーンの修道院」など。おびただしい数の「フランス語からの借用」は、フランス語を話すノルマン人のイングランド支配を物語っている。

このような外的な歴史の変化にもなつて、英語という言語がブリテン島にもたらされ、それ自体も大きく変化してきたのである。

この講義では、「英語」という言語が外的な歴史と関連して、「英語」自体の内的な歴史をどのように展開してきたかを具体的に学んでいくことになる。

【学習目標】

英語とヨーロッパの諸言語の関係を理解すること。
ブリテン島におけるさまざまな民族と言語の関係を理解すること。
英語がどのようにして誕生し、発展したかを理解すること。
フランス語の影響について考えること。
英語の統語法などを歴史的に考察すること。

【講義計画】

第1回 授業全体について詳しく説明します。
(講義の順番は変更する場合があります)

第2回 インド・ヨーロッパ祖語

第3回 英語の祖先語

第4回 ケルト民族の遺産

第5回 ローマ人のブリテン島征服

第6回 ローマ人の影響

第7回 ゲルマン人のブリテン島征服

第8回 英語の始まり

第9回 古英語(1)

第10回 古英語(2)

第11回 キリスト教の影響

第12回 ヴァイキングによる侵略

第13回 古ノルド語の影響

第14回 アルフレッド大王の功績

第15回 ノルマン人による征服

第16回 ノルマン人とフランス語

第17回 中英語(1)

第18回 中英語(2)

第19回 Chaucer の英語

第20回 英語の復活

第21回 近代英語の始まり

第22回 Shakespeare の英語

第23回 聖書の英語

第24回 英語の辞書

第25回 語形成

第26回 他の言語からの借用

第27回 意味の変化

第28回 統語法の変化

第29回 期末試験

【成績評価の方法】

試験 70% 出席 30%

9回以上の欠席は単位認定対象外になります。

【教科書】

Herbert Koziol 英語史入門 南雲堂

【参考文献】

講義中に適宜指示します。

【備考】

[準備学習の指示]

講義終了時に、次の講義のための課題を出しますので、真剣に取り組んでください。

・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分

英語留学準備講座 - TOEFL 1A <春>

柳本 麻美

1単位

【講義概要】

半年英語特訓留学希望者対象の講座であるが、留学に通用する英語力を得たいという学生も対象とする。リーディングを中心に(ライティングを含めた)TOEFL iBTに必要な基本スキルの習得を目指す。また、TOEFL iBT、IPTの文法対策も行う。留学した際に必要となるリーディング力、ライティング力を身につけるために多くの課題を出すので、授業に出席するだけでなく、自宅での学習も本気で取り組む覚悟で履修すること、英語留学準備講座TOEFL-2Aを合わせて受講することが望ましい。

【学習目標】

TOEFL ITP 450点(TOEFL iBT 45点)、長期留学を希望する学生はTOEFL iBT 61点取得を目指す。

【講義計画】

第1回 オリエンテーション

Strategies for the Reading Section: Understanding Facts and Detail

Strategies for the Reading Section: Identifying Negative Facts

Quiz 1

第2回 Locating Referents

Quiz 2

第3回 Understanding Vocabulary in Context

Quiz 3

第4回 Quiz 4

Making Inferences

第5回 Determining Purpose

Quiz 5

第6回 Quiz 6

Recognizing Paraphrases

第7回 Recognizing Coherence

第8回 Quiz 7

第9回 Quiz 8

第10回 Summarizing Important Ideas

第11回 Organizing Information

第12回 Quiz 9: Review Quiz 8

第13回 Quiz 10: Review Quiz 1-9

第14回 Sample Test

第15回 期末試験

【成績評価の方法】

学期末テスト(50%)、TOEFLスコア、出席、小テストなどで総合的に判断(開講時に詳細のプリントを配布)する。

【教科書】

Nancy Gallagher DELTA's Key to the Next Generation TOEFL Test: Advanced Skill Practice, Reading (Split edition)
DELTA PUBLISHING COMPANY

【備考】

- ・08～10E、SS、SW、B、J生および08L生、09L生対象
(ただし、09L生の英語コミュニケーション専修は長期留学希望者のみ履修可)
- ・国際教養学部2回生以上の学生で長期留学を希望する場合は、「資格英語-長期留学準備講座」を受講すること。
- ・半年英語特訓留学、長期留学希望者向けクラス
- ・04～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
英語留学準備講座-TOEFL 1B <秋>	
柳 本 麻 美	1単位

【講義概要】

半年英語特訓留学希望者対象の講座であるが、留学に通用する英語力を得たいという学生も対象とする。リーディングを中心に（ライティングを含めた）TOEFL iBTに必要な基本スキルの習得を目指す。また、TOEFL iBT、IPTの文法対策も行う。留学した際に必要となるリーディング力、ライティング力を身につけるために多くの課題を出すので、授業に出席するだけでなく、自宅での学習も本気で取り組む覚悟で履修すること、英語留学準備講座TOEFL-2Bを合わせて受講することが望ましい。

【学習目標】

TOEFL ITP 450点(TOEFL iBT 45点)、長期留学を希望する学生はTOEFL iBT 61点取得を目指す。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
Strategies for the Reading Section: Understanding Facts and Detail
Strategies for the Reading Section: Identifying Negative Facts
Quiz 1
- 第2回 Locating Referents
Quiz 2
- 第3回 Understanding Vocabulary in Context
Quiz 3
- 第4回 Quiz 4
Making Inferences
- 第5回 Determining Purpose
Quiz 5
- 第6回 Quiz 6
Recognizing Paraphrases
- 第7回 Recognizing Coherence
- 第8回 Quiz 7
- 第9回 Quiz 8
- 第10回 Summarizing Important Ideas
- 第11回 Organizing Information
- 第12回 Quiz 9: Review Quiz 8
- 第13回 Quiz 10: Review Quiz 1-9
- 第14回 Sample Test
- 第15回 期末試験

【成績評価の方法】

学期末テスト(50%)、TOEFLスコア、出席、小テストなどで総合的に判断する（開講時に詳細のプリントを配布）

【教科書】

Nancy Gallagher DELTA's Key to the Next Generation TOEFL Test: Advanced Skill Practice, Reading (Split edition)
DELTA PUBLISHING COMPANY

【備考】

- ・08～10E、SS、SW、B、J生および08L生、09L生対象（ただし、09L生の英語コミュニケーション専修は長期留学希望者のみ履修可）
- ・国際教養学部2回生以上の学生で長期留学を希望する場合は、「資格英語一長期留学準備講座」を受講すること。
- ・半年英語特訓留学、長期留学希望者向けクラス
- ・04～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
英語留学準備講座-TOEFL 2A <春>	
柳 本 麻 美	1単位

【講義概要】

半年英語特訓留学希望者対象の講座であるが、留学に通用する英語力を得たいという学生も対象とする。リスニングを中心に（スピーキングを含めた）TOEFL iBTに必要な基本スキルの習得を目指す。留学した際に必要となるリスニング力、スピーキング力を身につけるために多くの課題を出すので、授業に出席するだけでなく、自宅での学習も本気で取り組む覚悟で履修すること、英語留学準備講座TOEFL-1Aを合わせて受講することが望ましい。

【学習目標】

TOEFL ITP 450点(TOEFL iBT 45点)、長期留学を希望する学生はTOEFL iBT 61点取得を目指す。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
Strategies for the Listening Section: Identifying the Topic and Main Idea
Strategies for the Listening Section: Listening for Details
- 第2回 Quiz 1
- 第3回 Determining attitude and Purpose
- 第4回 Quiz 2
- 第5回 Quiz 3
- 第6回 Making Inferences and Predictions
- 第7回 Quiz 4
- 第8回 Quiz 5
- 第9回 Categorizing Information
- 第10回 Summarizing a Process
- 第11回 Quiz 6
- 第12回 Quiz 7
- 第13回 Quiz 8
- 第14回 Sample Test
- 第15回 期末試験

【成績評価の方法】

学期末テスト(50%)、TOEFLスコア、出席、小テストなどで総合的に判断する（開講時に詳細のプリントを配布）

【教科書】

Nancy Gallagher DELTA's Key to the Next Generation TOEFL Test: Advanced Skill Practice, Listening (Split edition)
DELTA PUBLISHING COMPANY

【備考】

- ・08～10E、SS、SW、B、J生および08L生、09L生対象（ただし、09L生の英語コミュニケーション専修は長期留学希望者のみ履修可）
- ・国際教養学部2回生以上の学生で長期留学を希望する場合は、「資格英語一長期留学準備講座」を受講すること。
- ・半年英語特訓留学、長期留学希望者向けクラス
- ・04～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分

英語留学準備講座－TOEFL 2B <秋>

柳本麻美

1単位

【講義概要】

半年英語特訓留学希望者対象の講座であるが、留学に通用する英語力を得たいという学生も対象とする。リスニングを中心に（スピーキングを含めた）TOEFL iBTに必要な基本スキルの習得を目指す。留学した際に必要となるリスニング力、スピーキング力を身につけるために多くの課題を出すので、授業に出席するだけでなく、自宅での学習も本気で取り組む覚悟で履修すること、英語留学準備講座TOEFL-1Bを合わせて受講することが望ましい。

【学習目標】

TOEFL ITP 450点(TOEFL iBT 45点)、長期留学を希望する学生はTOEFL iBT 61点取得を目指す。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
Strategies for the Listening Section: Identifying the Topic and Main Idea
Strategies for the Listening Section: Listening for Details
- 第2回 Quiz 1
- 第3回 Determining attitude and Purpose
- 第4回 Quiz 2
- 第5回 Quiz 3
- 第6回 Making Inferences and Predictions
- 第7回 Quiz 4
- 第8回 Quiz 5
- 第9回 Cateforizing Information
- 第10回 Summarizing a Process
- 第11回 Quiz 6
- 第12回 Quiz 7
- 第13回 Quiz 8
- 第14回 Sample Test
- 第15回 期末試験

【教科書】

Nancy Gallagher DELTA's Key to the Next Generation TOEFL Test : Advanced Skill Practice, Listening (Split edition)
DELTA PUBLISHING COMPANY

【備考】

- ・08～10E、SS、SW、B、J生および08L生、09L生対象（ただし、09L生の英語コミュニケーション専修は長期留学希望者のみ履修可）
- ・国際教養学部2回生以上の学生で長期留学を希望する場合は、「資格英語－長期留学準備講座」を受講すること。
- ・半年英語特訓留学、長期留学希望者向けクラス
- ・04～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分

英語留学準備講座－TOEFL 3A <春>

藤森かよ子

1単位

【講義概要】

★特待生留学に応募する時の条件のひとつとして、本講座の履修が定められている。本講座は必修ではないものの、特待生留学への参加希望者にとっては、事実上、必修に近い科目である。

(1)国際教養学部の学生は、2年次以降、5専修に分かれる。英語コミュニケーション専修への所属を希望する場合は、原則的には特待生留学への参加が条件となる。

(2)本講座は、英語コミュニケーション専修を希望するが、特待生留学は希望しない学生も対象としている。なぜならば、TOEFLのスコアが英語コミュニケーション専修所属になるかどうかの判断基準となるからである。

(3)特待生留学では、英語圏の提携先大学で、英語運用能力を高める半年間の集中訓練を受ける。春学期にこの講座で特待生留学に向けた下準備を積み、秋学期の出発を目指す。あるいは春学期、秋学期、2期に渡って本講座で準備を重ね、2年次春学期の出発を目指す。

(4)この講座では国際教養学部が実施する英語特待生留学の選抜にパスするという明確なゴールを掲げている。特待生留学はTOEFLテストで最低でも400以上のスコアを出すことが、要求されている。したがって、本講座ではTOEFLで400以上のスコアをあげることを最終目標とする。

【学習目標】

★英語特待生留学の1次選抜試験は、団体試験として実施されるTOEFL-IPTを使う。一方、特待生留学参加者は、帰国後、TOEFL-iBTの受験が課せられる。そのiBTで高いスコアを取れば、それだけ認定単位数を増やすことができる。本講座では、iBT、IPT、その双方に対応できるように指導する。主に、リーディング、ライティングを扱う。

★特に文科系には不足しがちな理科系および社会科学系語彙力を補うため、毎回、語彙テストを課す。ライティングではパソコン使用によるエッセイ指導を行うので、課題量は多い。

【講義計画】

- 第1回 TOEFLテストの概要を知る：PBT, CBT, iBT, IPT
TOEFL受験のために知っておくべき科学（理科）系エッセイ読解
毎回の小テスト内容説明
- 第2回 小テスト&TOEFL受験のために知っておくべき科学（理科）系エッセイ読解
- 第3回 小テスト&TOEFL受験のために知っておくべき科学（理科）系エッセイ読解
- 第4回 小テスト&TOEFL受験のために知っておくべき科学（理科）系エッセイ読解
- 第5回 小テスト&TOEFL受験のために知っておくべき科学（理科）系エッセイ読解
- 第6回 小テスト&TOEFL受験のために知っておくべき科学（理科）系エッセイ読解
- 第7回 小テスト&TOEFL受験のために知っておくべき科学（理科）系エッセイ読解
- 第8回 小テスト&TOEFL受験のために知っておくべき科学（理科）系エッセイ読解
- 第9回 小テスト&TOEFL受験のために知っておくべき科学（理科）系エッセイ読解
- 第10回 小テスト&TOEFL受験のために知っておくべき科学（理科）系エッセイ読解
- 第11回 小テスト&TOEFL受験のために知っておくべき社会科学系エッセイ読解
- 第12回 小テスト&TOEFL受験のために知っておくべき社会科学系エッセイ読解
- 第13回 小テスト&TOEFL受験のために知っておくべき社会科学系エッセイ読解
- 第14回 小テスト&TOEFL受験のために知っておくべき社会科学系エッセイ読解
- 第15回 最終テスト

【成績評価の方法】

試験 50% 出席 50%

この出席のなかには、毎回行う小テストの成績も含まれる。

【教科書】

担当教員が作成するハンドアウトを使用する

【参考文献】

できるのならば、以下の2冊のうち1冊は各自購入して参考にしていただきたい。

The Official Guide to the New TOEFL iBT (Second Edition)
(McGraw-Hill, 2007)

TOEFL iBT with CD-ROM 2008-2009 Edition (Kaplan, 2007)

【備考】

- ・10L生、09L生対象（ただし、09L生の英語コミュニケーション専修は英語特待生留学希望者のみ春学期クラス〔3～6A〕を履修可）
- ・英語特待生留学希望者向けクラス

科目名 クラス 講義区分

英語留学準備講座 - TOEFL 3B <秋>

藤 森 かよ子

1単位

【講義概要】

★特待生留学に応募する時の条件のひとつとして、本講座の履修が定められている。本講座は必修ではないものの、特待生留学への参加希望者にとっては、事実上、必修に近い科目である。

(1)国際教養学部 of 学生は、2年次以降、5専修に分かれる。英語コミュニケーション専修への所属を希望する場合は、原則的には特待生留学への参加が条件となる。

(2)本講座は、英語コミュニケーション専修を希望するが、特待生留学は希望しない学生も対象としている。なぜならば、TOEFLのスコアが英語コミュニケーション専修所属になるかどうかの判断基準となるからである。

(3)特待生留学では、英語圏の提携先大学で、英語運用能力を高める半年間の集中訓練を受ける。春学期にこの講座で特待生留学に向けた下準備を積み、秋学期の出発を目指す。あるいは春学期、秋学期、2期に渡って本講座で準備を重ね、2年次春学期の出発を目指す。

(4)この講座では国際教養学部が実施する英語特待生留学の選抜にパスするという明確なゴールを掲げている。特待生留学はTOEFLテストで最低でも400以上のスコアを出すことが、要求されている。したがって、本講座ではTOEFLで400以上のスコアをあげることを最終目標とする。

【学習目標】

★英語特待生留学の1次選抜試験は、団体試験として実施されるTOEFL-IPTを使う。一方、特待生留学参加者は、帰国後、TOEFL-iBTの受験が課せられる。そのiBTで高いスコアを取れば、それだけ認定単位数を増やすことができる。本講座では、iBT、IPT、その双方に対応できるように指導する。主に、リーディング、ライティングを扱う。

★特に文科系には不足しがちな理科系および社会科学系語彙力を補うため、毎回、語彙テストを課す。ライティングではパソコン使用によるエッセー指導を行うので、課題量は多い。

【講義計画】

- 第1回 TOEFLテストの概要を知る：PBT, CBT, iBT, IPT
TOEFL受験のための読解訓練(summarization/vocabulary)
毎回の小テスト(vocabulary/writing)内容説明
- 第2回 小テスト&TOEFL受験のための読解訓練(summarization/vocabulary)
- 第3回 小テスト&TOEFL受験のための読解訓練(summarization/vocabulary)
- 第4回 小テスト&TOEFL受験のための読解訓練(summarization/vocabulary)
- 第5回 小テスト&TOEFL受験のための読解訓練(summarization/vocabulary)
- 第6回 小テスト&TOEFL受験のための読解訓練(summarization/vocabulary)
- 第7回 小テスト&TOEFL受験のための読解訓練(summarization/vocabulary)
- 第8回 小テスト&TOEFL受験のための読解訓練(summarization/vocabulary)
- 第9回 小テスト&TOEFL受験のための読解訓練(summarization/vocabulary)
- 第10回 小テスト&TOEFL受験のための読解訓練(summarization/vocabulary)
- 第11回 小テスト&TOEFL受験のための読解訓練(summarization/vocabulary)
- 第12回 小テスト&TOEFL受験のための読解訓練(summarization/vocabulary)
- 第13回 小テスト&TOEFL受験のための読解訓練(summarization/vocabulary)
- 第14回 小テスト&TOEFL受験のための読解訓練(summarization/vocabulary)
- 第15回 最終テスト

【成績評価の方法】

試験 50% 出席 50%

この出席の中には、毎回の講義で実施される小テストの成績も含まれる。

【教科書】

担当教員が作成したハンドアウトなどを使用する。

【参考文献】

できるのならば、以下の2冊のうち1冊は各自購入して参考にしていただきたい。

The Official Guide to the New TOEFL iBT (Second Edition)
(McGraw-Hill, 2007)

TOEFL iBT with CD-ROM 2008-2009 Edition (Kaplan, 2007)

【備考】

- ・10L生対象
- ・英語特待生留学希望者向けクラス

科目名 クラス 講義区分

英語留学準備講座-TOEFL 4A <春>

Arthur Frederick Lauritsen

1単位

【講義概要】

This course is designed to familiarize students with the speaking and listening sections of the TOEFL test. The listening section measures your ability to understand spoken English from North America and other English-speaking parts of the world. In academic environments students need to listen to lectures and conversations. The speaking section includes speaking about familiar topics, and answering questions about reading passages and lectures. This introductory class is designed to help students whose current TOEFL test score ranges approximately from 380 to 400 on the TOEFL PBT or 26-32 on the TOEFL iBT.

【学習目標】

At the end of this course students will:

Be familiar with the format and language of the TOEFL speaking and listening sections.

Understand the discrete skills necessary to fully utilize their English knowledge during the test.

Have improved their English through practice during and outside of class.

【講義計画】

第1回 Course intro (The course schedule is tentative and may be revised)

第2回 Plan free-choice response; Understanding the Gist

第3回 Make free-choice response; Understanding the Gist

第4回 Plan paired-choice response; Understand the details

第5回 Make paired-choice response; Understand the details

第6回 Note the main point as you read; Understand the function

第7回 Note the main point as you listen; Understand the function

第8回 Plan before you speak; Understand the speaker's stance

第9回 Make the response; Understand the speaker's stance

第10回 Note the main point as you r; Understand the organization

第11回 Note the main point as you listen; Understand the relationships

第12回 Plan before you speak; Understand the relationships

第13回 Make the response; Listening final exam

第14回 Final exam

【成績評価の方法】

Grades will be based on in-class participation, homework, homework quizzes, and a final exam.

【教科書】

Phillips, Deborah Longman Introductory Course for the TOEFL iBT Longman

【備考】

- ・10L生、09L生対象（ただし、09L生の英語コミュニケーション専修は英語特待生留学希望者のみ春学期クラス [3~6A] を履修可）
- ・英語特待生留学希望者向けクラス

科目名 クラス 講義区分	
英語留学準備講座-TOEFL 4B <秋>	
Arthur Frederick Lauritsen	1単位

【講義概要】

This course is designed to familiarize students with the speaking and listening sections of the TOEFL test. The listening section measures your ability to understand spoken English from North America and other English-speaking parts of the world. In academic environments students need to listen to lectures and conversations. The speaking section includes speaking about familiar topics, and answering questions about reading passages and lectures. This introductory class is designed to help students whose current TOEFL test score ranges approximately from 380 to 400 on the TOEFL PBT or 26-32 on the TOEFL iBT.

【学習目標】

At the end of this course students will:
 Be familiar with the format and language of the TOEFL speaking and listening sections.
 Understand the discrete skills necessary to fully utilize their English knowledge during the test.
 Have improved their English through practice during and outside of class.

【講義計画】

- 第1回 Course intro (The course schedule is tentative and may be revised)
- 第2回 Plan free-choice response; Understanding the Gist
- 第3回 Make free-choice response; Understanding the Gist
- 第4回 Plan paired-choice response; Understand the details
- 第5回 Make paired-choice response; Understand the details
- 第6回 Note the main point as you read; Understand the function
- 第7回 Note the main point as you listen; Understand the function
- 第8回 Plan before you speak; Understand the speaker's stance
- 第9回 Make the response; Understand the speaker's stance
- 第10回 Note the main point as your; Understand the organization
- 第11回 Note the main point as you listen; Understand the relationships
- 第12回 Plan before you speak; Understand the relationships
- 第13回 Make the response; Listening final exam
- 第14回 Final exam

【成績評価の方法】

Grades will be based on in-class participation, homework, homework quizzes, and a final exam.

【教科書】

Phillips, Deborah Longman Introductory Course for the TOEFL iBT Longman

【備考】

- ・10L生対象
- ・英語特待生留学希望者向けクラス

科目名 クラス 講義区分	
英語留学準備講座-TOEFL 5A <春>	
藤 森 かよ子	1単位

【講義概要】

★特待生留学に応募する時の条件のひとつとして、本講座の履修が定められている。本講座は必修ではないものの、特待生留学への参加希望者にとっては、事実上、必修に近い科目である。

(1)国際教養学部 of 学生は、2年次以降、5専修に分かれる。英語コミュニケーション専修への所属を希望する場合は、原則的には特待生留学への参加が条件となる。

(2)本講座は、英語コミュニケーション専修を希望するが、特待生留学は希望しない学生も対象としている。なぜならば、TOEFLのスコアが英語コミュニケーション専修所属になるかどうかの判断基準となるからである。

(3)特待生留学では、英語圏の提携先大学で、英語運用能力を高める半年間の集中訓練を受ける。春学期にこの講座で特待生留学に向けた下準備を積み、秋学期の出発を目指す。あるいは春学期、秋学期、2期に渡って本講座で準備を重ね、2年次春学期の出発を目指す。

(4)この講座では国際教養学部が実施する英語特待生留学の選抜にパスするという明確なゴールを掲げている。特待生留学はTOEFLテストで最低でも400以上のスコアを出すことが、要求されている。したがって、本講座ではTOEFLで400以上のスコアをあげることを最終目標とする。

【学習目標】

★英語特待生留学の1次選抜試験は、団体試験として実施されるTOEFL-IPTを使う。一方、特待生留学参加者は、帰国後、TOEFL-iBTの受験が課せられる。そのiBTで高いスコアを取れば、それだけ認定単位数を増やすことができる。本講座では、iBT、IPT、その双方に対応できるように指導する。主に、リーディング、ライティングを扱う。

★特に文科系には不足しがちな理科系および社会科学系語彙力を補うため、毎回、語彙テストを課す。ライティングではパソコン使用によるエッセー指導を行うので、課題量は多い。

【講義計画】

- 第1回 TOEFLテストの概要を知る：PBT, CBT, iBT, IPT
TOEFL受験のために知っておくべき科学（理科）系エッセイ読解
毎回の小テスト内容説明
- 第2回 小テスト&TOEFL受験のために知っておくべき科学（理科）系エッセイ読解
- 第3回 小テスト&TOEFL受験のために知っておくべき科学（理科）系エッセイ読解
- 第4回 小テスト&TOEFL受験のために知っておくべき科学（理科）系エッセイ読解
- 第5回 小テスト&TOEFL受験のために知っておくべき科学（理科）系エッセイ読解
- 第6回 小テスト&TOEFL受験のために知っておくべき科学（理科）系エッセイ読解
- 第7回 小テスト&TOEFL受験のために知っておくべき科学（理科）系エッセイ読解
- 第8回 小テスト&TOEFL受験のために知っておくべき科学（理科）系エッセイ読解
- 第9回 小テスト&TOEFL受験のために知っておくべき科学（理科）系エッセイ読解
- 第10回 小テスト&TOEFL受験のために知っておくべき社会科学系エッセイ読解
- 第11回 小テスト&TOEFL受験のために知っておくべき社会科学系エッセイ読解
- 第12回 小テスト&TOEFL受験のために知っておくべき社会科学系エッセイ読解
- 第13回 小テスト&TOEFL受験のために知っておくべき社会科学系エッセイ読解
- 第14回 小テスト&TOEFL受験のために知っておくべき社会科学系エッセイ読解
- 第15回 最終テスト

【成績評価の方法】

試験 50% 出席 50%
この出席の中には、毎回の講義のさいに実施される小テストの成績も含まれる。

【教科書】

担当教員が作成したハンドアウトなどを使用する。

【参考文献】

できるのならば、以下の2冊のうち1冊は各自購入して参考にしていただきたい。

The Official Guide to the New TOEFL iBT (Second Edition)
(McGraw-Hill, 2007)

TOEFL iBT with CD-ROM 2008-2009 Edition(Kaplan, 2007)

【備考】

- ・10L生、09L生対象（ただし、09L生の英語コミュニケーション専修は英語特待生留学希望者のみ春学期クラス [3~6A] を履修可）
- ・英語特待生留学希望者向けクラス

科目名	クラス	講義区分
英語留学準備講座 - TOEFL 5B <秋>		
藤 森 かよ子		1 単位

【講義概要】

★特待生留学に応募する時の条件のひとつとして、本講座の履修が定められている。本講座は必修ではないものの、特待生留学への参加希望者にとっては、事実上、必修に近い科目である。

(1) 国際教養学部の学生は、2年次以降、5専修に分かれる。英語コミュニケーション専修への所属を希望する場合は、原則的には特待生留学への参加が条件となる。

(2) 本講座は、英語コミュニケーション専修を希望するが、特待生留学は希望しない学生も対象としている。なぜならば、TOEFLのスコアが英語コミュニケーション専修所属になるかどうかの判断基準となるからである。

(3) 特待生留学では、英語圏の提携先大学で、英語運用能力を高める半年間の集中訓練を受ける。春学期にこの講座で特待生留学に向けた下準備を積み、秋学期の出発を目指す。あるいは春学期、秋学期、2期に渡って本講座で準備を重ね、2年次春学期の出発を目指す。

(4) この講座では国際教養学部が実施する英語特待生留学の選抜にパスするという明確なゴールを掲げている。特待生留学はTOEFLテストで最低でも400以上のスコアを出すことが、要求されている。したがって、本講座ではTOEFLで400以上のスコアをあげることを最終目標とする。

【学習目標】

★英語特待生留学の1次選抜試験は、団体試験として実施されるTOEFL-IPTを使う。一方、特待生留学参加者は、帰国後、TOEFL-iBTの受験が課せられる。そのiBTで高いスコアを取れば、それだけ認定単位数を増やすことができる。本講座では、iBT、IPT、その双方に対応できるように指導する。主に、リーディング、ライティングを扱う。

★特に文科系には不足しがちな理科系および社会科学系語彙力を補うため、毎回、語彙テストを課す。ライティングではパソコン使用によるエッセー指導を行うので、課題量は多い。

【講義計画】

- 第1回 TOEFLテストの概要を知る：PBT, CBT, iBT, IPT
TOEFL受験のための読解訓練(summarization/vocabulary)
毎回の小テスト (vocabulary/writing)内容説明
- 第2回 小テスト&TOEFL受験のための読解訓練(summarization/vocabulary)
- 第3回 小テスト&TOEFL受験のための読解訓練(summarization/vocabulary)
- 第4回 小テスト&TOEFL受験のための読解訓練(summarization/vocabulary)
- 第5回 小テスト&TOEFL受験のための読解訓練(summarization/vocabulary)
- 第6回 小テスト&TOEFL受験のための読解訓練(summarization/vocabulary)
- 第7回 小テスト&TOEFL受験のための読解訓練(summarization/vocabulary)
- 第8回 小テスト&TOEFL受験のための読解訓練(summarization/vocabulary)
- 第9回 小テスト&TOEFL受験のための読解訓練(summarization/vocabulary)
- 第10回 小テスト&TOEFL受験のための読解訓練(summarization/vocabulary)
- 第11回 小テスト&TOEFL受験のための読解訓練(summarization/vocabulary)
- 第12回 小テスト&TOEFL受験のための読解訓練(summarization/vocabulary)
- 第13回 小テスト&TOEFL受験のための読解訓練(summarization/vocabulary)
- 第14回 小テスト&TOEFL受験のための読解訓練(summarization/vocabulary)
- 第15回 最終テスト

【成績評価の方法】

試験 50% 出席 50%

この出席の中には、毎回の講義において実施される小テストの成績も含まれる。

【教科書】

担当教員が作成したハンドアウトなどを使用する。

【参考文献】

できるのならば、以下の2冊のうち1冊は各自購入して参考にしていただきたい。

The Official Guide to the New TOEFL iBT (Second Edition)
(McGraw-Hill, 2007)

TOEFL iBT with CD-ROM 2008-2009 Edition(Kaplan, 2007)

【備考】

- ・10L生対象
- ・英語特待生留学希望者向けクラス

科目名 クラス 講義区分

英語留学準備講座 - TOEFL 6A <春>

Arthur Frederick Lauritsen

1単位

【講義概要】

This course is designed to familiarize students with the speaking and listening sections of the TOEFL test. The listening section measures your ability to understand spoken English from North America and other English-speaking parts of the world. In academic environments students need to listen to lectures and conversations. The speaking section includes speaking about familiar topics, and answering questions about reading passages and lectures. This introductory class is designed to help students whose current TOEFL test score ranges approximately from 380 to 400 on the TOEFL PBT or 26-32 on the TOEFL iBT.

【学習目標】

At the end of this course students will:

Be familiar with the format and language of the TOEFL speaking and listening sections.

Understand the discrete skills necessary to fully utilize their English knowledge during the test.

Have improved their English through practice during and outside of class.

【講義計画】

第1回 Course intro (The course schedule is tentative and may be revised)

第2回 Plan free-choice response; Understanding the Gist

第3回 Make free-choice response; Understanding the Gist

第4回 Plan paired-choice response; Understand the details

第5回 Make paired-choice response; Understand the details

第6回 Note the main point as you read; Understand the function

第7回 Note the main point as you listen; Understand the function

第8回 Plan before you speak; Understand the speaker's stance

第9回 Make the response; Understand the speaker's stance

第10回 Note the main point as you r; Understand the organization

第11回 Note the main point as you listen; Understand the relationships

第12回 Plan before you speak; Understand the relationships

第13回 Make the response; Listening final exam

第14回 Final exam

【成績評価の方法】

Grades will be based on in-class participation, homework, homework quizzes, and a final exam.

【教科書】

Phillips, Deborah Longman Introductory Course for the TOEFL iBT Longman

【備考】

- ・10L生、09L生対象（ただし、09L生の英語コミュニケーション専修は英語特待生留学希望者のみ春学期クラス〔3～6A〕を履修可）
- ・英語特待生留学希望者向けクラス

科目名 クラス 講義区分

英語留学準備講座 - TOEFL 6B <秋>

Arthur Frederick Lauritsen

1単位

【講義概要】

This course is designed to familiarize students with the speaking and listening sections of the TOEFL test. The listening section measures your ability to understand spoken English from North America and other English-speaking parts of the world. In academic environments students need to listen to lectures and conversations. The speaking section includes speaking about familiar topics, and answering questions about reading passages and lectures. This introductory class is designed to help students whose current TOEFL test score ranges approximately from 380 to 400 on the TOEFL PBT or 26-32 on the TOEFL iBT.

【学習目標】

At the end of this course students will:
Be familiar with the format and language of the TOEFL speaking and listening sections.
Understand the discrete skills necessary to fully utilize their English knowledge during the test.
Have improved their English through practice during and outside of class.

【講義計画】

- 第1回 Course intro (The course schedule is tentative and may be revised)
第2回 Plan free-choice response; Understanding the Gist
第3回 Make free-choice response; Understanding the Gist
第4回 Plan paired-choice response; Understand the details
第5回 Make paired-choice response; Understand the details
第6回 Note the main point as you read; Understand the function
第7回 Note the main point as you listen; Understand the function
第8回 Plan before you speak; Understand the speaker's stance
第9回 Make the response; Understand the speaker's stance
第10回 Note the main point as you listen; Understand the organization
第11回 Note the main point as you listen; Understand the relationships
第12回 Plan before you speak; Understand the relationships
第13回 Make the response; Listening final exam
第14回 Final exam

【成績評価の方法】

Grades will be based on in-class participation, homework, homework quizzes, and a final exam.

【教科書】

Phillips, Deborah Longman Introductory Course for the TOEFL iBT Longman

【備考】

- ・10L生対象
- ・英語特待生留学希望者向けクラス

科目名 クラス 講義区分

英語留学準備講座 - TOEFL 7A <春>

柳本麻美

1単位

【講義概要】

半年英語特訓留学希望者対象の講座であるが、留学に通用する英語力を得たいという学生も対象とする。リーディングを中心に(ライティングを含めた) TOEFL 1の講座で習得した基本スキルを、より実践的に解説していく。また、TOEFL iBT、IPTの文法対策も行う。留学した際に必要となるリーディング力、ライティング力を身につけるために多くの課題を出すので、授業に出席するだけでなく、自宅での学習も本気で取り組む覚悟で履修すること、英語留学準備講座TOEFL-8Aを合わせて受講することが望ましい。

【学習目標】

TOEFL ITP 450点(TOEFL iBT 45点)、長期留学を希望する学生はTOEFL iBT 61点取得を目指す。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
Reading Preview Test
第2回 Lesson 1: Factual and Negative Factual Questions
第3回 Lesson 2: Vocabulary Questions
第4回 Lesson 3: Inference Questions
第5回 Lesson 4: Purpose, Method, and Opinion Questions
第6回 Lesson 5: Sentence Restatement Questions
第7回 Lesson 6: Reference Questions
第8回 Lesson 7: Sentence Addition Questions
第9回 Lesson 8: Completing Summaries and Charts
第10回 Reading Preview Test
第11回 Practice Test 1
第12回 Practice Test 1
第13回 Practice Test 2
第14回 Practice Test 2
第15回 期末試験

【成績評価の方法】

学期末テスト(50%)、TOEFLスコア、出席、小テストなどで総合的に判断(開講時に詳細のプリントを配布)する。

【教科書】

Bruce Rogers The Complete Guide to the TOEFL Test iBT Edition Thomson
Text/CD-ROM Package

【備考】

- ・08~10E、SS、SW、B、J生および08L生、09L生対象
(ただし、09L生の英語コミュニケーション専修は長期留学希望者のみ履修可)
- ・国際教養学部2回生以上の学生で長期留学を希望する場合は、「資格英語一長期留学準備講座」を受講すること。
- ・半年英語特訓留学、長期留学希望者向けクラス
- ・04~07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
英語留学準備講座 - TOEFL 7B <秋>	
柳本麻美	1単位

【講義概要】

半年英語特訓留学希望者対象の講座であるが、留学に通用する英語力を得たいという学生も対象とする。リーディングを中心に（ライティングを含めた）TOEFL 1の講座で習得した基本スキルを、より実践的に解説していく。また、TOEFL iBT、IPTの文法対策も行う。留学した際に必要となるリーディング力、ライティング力を身につけるために多くの課題を出すので、授業に出席するだけでなく、自宅での学習も本気で取り組む覚悟で履修すること、英語留学準備講座TOEFL-8Bを合わせて受講することが望ましい。

【学習目標】

TOEFL ITP 450点(TOEFL iBT 45点)、長期留学を希望する学生はTOEFL iBT 61点取得を目指す。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
Reading Preview Test
- 第2回 Lesson 1: Factual and Negative Factual Questions
- 第3回 Lesson 2: Vocabulary Questions
- 第4回 Lesson 3: Inference Questions
- 第5回 Lesson 4: Purpose, Method, and Opinion Questions
- 第6回 Lesson 5: Sentence Restatement Questions
- 第7回 Lesson 6: Reference Questions
- 第8回 Lesson 7: Sentence Addition Questions
- 第9回 Lesson 8: Completing Summaries and Charts
- 第10回 Reading Preview Test
- 第11回 Practice Test 1
- 第12回 Practice Test 1
- 第13回 Practice Test 2
- 第14回 Practice Test 2
- 第15回 期末試験

【成績評価の方法】

学期末テスト(50%)、TOEFLスコア、出席、小テストなどで総合的に判断（開講時に詳細のプリントを配布）する。

【教科書】

Bruce Rogers The Complete Guide to the TOEFL Test iBT Edition Thomson
Text/CD-Rom Package

【備考】

- ・08～10E、SS、SW、B、J生および08L生、09L生対象
（ただし、09L生の英語コミュニケーション専修は長期留学希望者のみ履修可）
- ・国際教養学部2回生以上の学生で長期留学を希望する場合は、「資格英語一長期留学準備講座」を受講すること。
- ・半年英語特訓留学、長期留学希望者向けクラス
- ・04～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
英語留学準備講座 - TOEFL 8A <春>	
柳本麻美	1単位

【講義概要】

半年英語特訓留学希望者対象の講座であるが、留学に通用する英語力を得たいという学生も対象とする。リスニングを中心に（スピーキングを含めた）TOEFL 2の講座で習得した基本スキルを、より実践的に解説していく。留学した際に必要となるリスニング力、スピーキング力を身につけるために多くの課題を出すので、授業に出席するだけでなく、自宅での学習も本気で取り組む覚悟で履修すること、英語留学準備講座TOEFL-7Aを合わせて受講することが望ましい。

【学習目標】

TOEFL ITP 450点(TOEFL iBT 45点)、長期留学を希望する学生はTOEFL iBT 61点取得を目指す。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
Listening Preview Test
- 第2回 Lesson 9: Main-Topic and Main-Purpose Questions
- 第3回 Lesson 9: Main-Topic and Main-Purpose Questions
- 第4回 Lesson 10: Factual, Negative Factual, and Inference Questions
- 第5回 Lesson 10: Factual, Negative Factual, and Inference Questions
- 第6回 Lesson 11: Purpose, Method, and Attitude Questions
- 第7回 Lesson 11: Purpose, Method, and Attitude Questions
- 第8回 Lesson 12: Replay Questions
- 第9回 Lesson 12: Replay Questions
- 第10回 Lesson 13: Ordering and Matching Questions
- 第11回 Lesson 13: Ordering and Matching Questions
- 第12回 Lesson 14 Completing Charts
- 第13回 Lesson 14 Completing Charts
- 第14回 Listening Review Test
- 第15回 期末試験

【成績評価の方法】

学期末テスト(50%)、TOEFLスコア、出席、小テストなどで総合的に判断する（開講時に詳細のプリントを配布）

【教科書】

Bruce Rogers The Complete Guide to the TOEFL Test iBT Edition Thomson
Text/CD-ROM Package

【備考】

- ・08～10E、SS、SW、B、J生および08L生、09L生対象
（ただし、09L生の英語コミュニケーション専修は長期留学希望者のみ履修可）
- ・国際教養学部2回生以上の学生で長期留学を希望する場合は、「資格英語一長期留学準備講座」を受講すること。
- ・半年英語特訓留学、長期留学希望者向けクラス
- ・04～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
英語留学準備講座 - TOEFL 8B <秋>	
柳 本 麻 美	1単位

【講義概要】

半年英語特訓留学希望者対象の講座であるが、留学に通用する英語力を得たいという学生も対象とする。リスニングを中心に（スピーキングを含めた）TOEFL 2の講座で習得した基本スキルを、より実践的に解説していく。留学した際に必要となるリスニング力、スピーキング力を身につけるために多くの課題を出すので、授業に出席するだけでなく、自宅での学習も本気で取り組む覚悟で履修すること、英語留学準備講座TOEFL-7Bを合わせて受講することが望ましい。

【学習目標】

TOEFL ITP 450点(TOEFL iBT 45点)、長期留学を希望する学生はTOEFL iBT 61点取得を目指す。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
Listening Preview Test
- 第2回 Lesson 9: Main-Topic and Main-Purpose Questions
- 第3回 Lesson 9: Main-Topic and Main-Purpose Questions
- 第4回 Lesson 10: Factual, Negative Factual, and Inference Questions
- 第5回 Lesson 10: Factual, Negative Factual, and Inference Questions
- 第6回 Lesson 11: Purpose, Method, and Attitude Questions
- 第7回 Lesson 11: Purpose, Method, and Attitude Questions
- 第8回 Lesson 12: Replay Questions
- 第9回 Lesson 12: Replay Questions
- 第10回 Lesson 13: Ordering and Matching Questions
- 第11回 Lesson 13: Ordering and Matching Questions
- 第12回 Lesson 14 Completing Charts
- 第13回 Lesson 14 Completing Charts
- 第14回 Listening Review Test
- 第15回 期末試験

【成績評価の方法】

学期末テスト(50%)、TOEFLスコア、出席、小テストなどで総合的に判断する（開講時に詳細のプリントを配布）

【教科書】

Bruce Rogers The Complete Guide to the TOEFL Test iBT Edition Thomson
Text/CD-ROM Package

【備考】

- ・08～10E、SS、SW、B、J生および08L生、09L生対象（ただし、09L生の英語コミュニケーション専修は長期留学希望者のみ履修可）
- ・国際教養学部2回生以上の学生で長期留学を希望する場合は、「資格英語—長期留学準備講座」を受講すること。
- ・半年英語特訓留学、長期留学希望者向けクラス
- ・04～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
英語留学準備講座 - TOEFL 9A <春>	
福 屋 義 則	1単位

【講義概要】

学習目標を達成するために、この講座はTOEFLリーディングとライティングに重点を置く（ライティングはindependent taskに集中する）。また、TOEFL文法にも時間を少々費やす。これはTOEFL iBTに加えIPTに備える為である。（この講座はスピーキングとリスニングを扱うTOEFL 10Aとペアである。）

【学習目標】

米国一般大学への応募に必要なTOEFL iBT 61点 (ITP 500点) を総合的目標とする。しかしながら、各受講生のTOEFLスコアに個人差があるため、この目標点はある学生にとっては非現実的であり、他の学生にとっては安易に到達できる通過点にすぎない。故に、担当教員が各受講生の現TOEFLスコアを考慮に入れ、各受講生と相談の後に個々人の現実的目標（リーディング・ライティング）を決定する。

【講義計画】

- 第1回 Course Introduction
Writing (Types of Essay Prompts)
Structure (Pattern 2)
- 第2回 Reading (パラグラフの構成を知る)
Writing (A Thesis Statement)
Structure (Pattern 11)
- 第3回 Reading (主旨に関する問題の解き方)
Writing (An Idea Map)
Structure (Pattern 1)
- 第4回 Reading (事実関係を問う問題の解き方)
Writing (Organization: Introduction — Body — Conclusion)
Structure (Pattern 12)
- 第5回 Reading (事実とは反する内容を問う問題の解き方)
Writing (Body: A Topic Sentence)
Structure (Pattern 3)
- 第6回 Reading (語彙に関する問題の解き方)
Writing (Body: The Supporting Details)
Structure (Pattern 13)
- 第7回 Reading (指示語に関する問題の解き方)
Writing (Body: The Supporting Details)
Structure (Pattern 4)
- 第8回 Reading (類推に関する問題の解き方)
Writing (Conclusion)
Structure (Pattern 14)
- 第9回 Reading (パッセージの構成・前後の内容を問う問題の解き方)
Writing (Introduction)
Structure (Pattern 5)
- 第10回 Reading (文をパッセージに挿入するタイプの問題の解き方)
Writing (Transition Words)
Structure (Pattern 15)
- 第11回 Reading (筆者の意図・目的・理由を問う問題の解き方)
Writing (Transition Words)
Structure (Pattern 6)
- 第12回 Reading (結論に関する問題の解き方)
Writing (Transition Words)
Structure (Pattern 16)
- 第13回 Reading (要点を把握、或いは分類する問題の解き方)
Writing (Sentence Variety)
Structure (Pattern 7)
- 第14回 Reading (問題と選択肢からパッセージの内容に関してヒントをつかむ)
Writing (Sentence Variety)

【成績評価の方法】

語彙テスト40%、学期末試験は無し、課題60%、出席0%（三回以上欠席した受講生には単位を与えない。）

【教科書】

田中真紀子 TOEFLテスト リーディング問題270 iBT対応版
(2008) 旺分社
CD-ROM付き

宮前一廣 TOEFL TEST 対策ITPリーディング (2009) テイエス企画
ロバート・ヒルキ/ポール・ワーズン/高橋基治 はじめてのTOEFL
ITP 文法 (2008) アルク

【備考】

【教材】

春学期に教科書三冊それぞれの半分を秋学期に残りの半分をこなす。担当教員がライティングに関するプリント資料を配布する。

【授業時間以外での準備学習と課題】

毎回の語彙テストに備える。リーディングと文法問題を課題としてこなす。エッセイの指定された部分を書く。

- ・08～10E、SS、SW、B、J生および08L生、09L生対象
(ただし、09L生の英語コミュニケーション専修は長期留学希望者のみ履修可)
- ・国際教養学部2年生以上の学生で長期留学を希望する場合は、「資格英語一長期留学準備講座」を受講すること。
- ・半年英語特訓留学、長期留学希望者向けクラス
- ・04～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分

英語留学準備講座－TOEFL 9B <秋>

福屋義則

1単位

【講義概要】

学習目標を達成するために、この講座はリーディングとライティングに重点を置く(ライティングはindependent taskに集中する)。また、TOEFL文法にも時間を少々費やす。これはTOEFL iBTに加えIPTに備える為である。(この講座はスピーキングとリスニングを扱うTOEFL 10Bとペアである。)

この9B<秋>は9A<春>の連続(発展)科目ではない。すなわち、それぞれが独立した講座である。けれども、<秋>と<春>は異なったTOEFL問題を解く。継続することを薦める。

【学習目標】

米国一般大学への応募に必要なTOEFL iBT 61点 (ITP 500点)を総合的目標とする。しかしながら、各受講生のTOEFLスコアに個人差があるため、この目標点はある学生にとっては非現実的であり、他の学生にとっては安易に到達できる通過点にすぎない。故に、担当教員が各受講生の現TOEFLスコアを考慮に入れ、各受講生と相談の後に個々人の現実的目標(リーディング・ライティング)を決定する。

【講義計画】

- 第1回 Course Introduction
Writing (Types of Essay Prompts)
Structure (Pattern 8)
- 第2回 Reading (内容の予測をしながら読む)
Writing (A Thesis Statement)
Structure (Pattern 17)
- 第3回 Reading (前後の文から未知の語の意味を知る)
Writing (An Idea Map)
Structure (Pattern 9)
- 第4回 Reading (補足説明や繰り返しをヒントに文の意味を把握する)
Writing (Organization: Introduction --- Body --- Conclusion)
Structure (Pattern 18)
- 第5回 Reading (文法的、語彙的結束性から意味をつかむ)
Writing (Body: A Topic Sentence)
Structure (Pattern 10)
- 第6回 Reading (イメージしながら内容をつかむ)
Writing (Body: The Supporting Details)
Structure (Pattern 19)
- 第7回 Reading (背景知識を活用する)
Writing (Body: The Supporting Details)
Structure (Pattern 20)
- 第8回 Reading (図式化して内容を視覚的に整理する)
Writing (Conclusion)
Structure (Pattern 21)
- 第9回 Reading (論理性を考えながら読む)
Writing (Introduction)
Structure (Pattern 22)
- 第10回 Reading (数字に注意が必要)
Writing (Transition words)
Structure (Pattern 23)
- 第11回 Reading (「過程・段落」を表すパッセージの展開を見る)
Writing (Transition words)
Structure (Pattern 24)
- 第12回 Reading (「原因・結果」を表すパッセージの展開を見る)
Writing (Transition words)
Structure (Pattern 25)
- 第13回 Reading (「比較・対照」を表すパッセージの展開を見る)
Writing (Sentence Variety)
- 第14回 Reading (「分類」を表すパッセージの展開を見る)
Writing (Sentence Variety)

【成績評価の方法】

語彙テスト40%、学期末試験は無し、課題60%、出席0% (三回以上欠席した受講生には単位を与えない。)

【教科書】

田中真紀子 TOEFLテスト リーディング問題270 iBT対応版(2008)
旺分社
CD-ROM付き

宮前一廣 TOEFL TEST 対策ITPリーディング (2009) テイエス企画
ロバート・ヒルキ/ポール・ワーデン/高橋基治 はじめてのTOEFL
ITP 文法(2008) アルク

【備考】

【教材】

春学期に教科書三冊それぞれの半分を秋学期に残りの半分をこなす。担当教員がライティングに関するプリント資料を配布する。

【授業時間以外での準備学習と課題】

毎回の語彙テストに備える。リーディングと文法問題を課題としてこなす。エッセイの指定された部分を書く。

- ・08～10E、SS、SW、B、J生および08L生、09L生対象
(ただし、09L生の英語コミュニケーション専修は長期留学希望者のみ履修可)
- ・国際教養学部2回生以上の学生で長期留学を希望する場合は、「資格英語—長期留学準備講座」を受講すること。
- ・半年英語特訓留学、長期留学希望者向けクラス
- ・04～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
英語留学準備講座 - TOEFL 10A <春>	
Craig Gamble	1単位

【講義概要】

The listening section of the TOEFL exam measures your ability to understand both lectures and two-way conversations in English. In this course, students will be given the opportunity to improve listening fluency by learning test-taking techniques and through practice examinations.

【学習目標】

Upon completion of this course, students will be able to:

1. Listen for key details
2. Listen for key word
3. Listen for gist
4. Listen for specific information
5. Listen for sequence
6. Listen for context
7. Listen for main ideas
8. Listen for opinions
9. Listen for intention
10. Listen for purpose

【講義計画】

- 第1回 Class Orientation
Pre-test - Listening
- 第2回 Basic comprehension (listening)
Skills 1 - Understanding gist
- 第3回 Basic comprehension (listening)
Skills 1 - Understanding gist (mini-tests)
- 第4回 Basic comprehension (listening)
Skills 2 - Understanding detail
- 第5回 Basic comprehension (listening)
Skills 2 - Understanding detail (mini-tests)
- 第6回 Pragmatic understanding (listening)
Skills 3 - Understanding function
- 第7回 Pragmatic understanding (listening)
Skills 3 - Understanding function (mini-tests)
- 第8回 Pragmatic understanding (listening)
Skills 4 - Understand speaker's stance
- 第9回 Pragmatic understanding (listening)
Skills 4 - Understand speaker's stance (mini-tests)
- 第10回 Connection information (listening)
Skills 5 - Understanding organization
- 第11回 Connection information (listening)
Skills 5 - Understanding organization (mini-tests)
- 第12回 Connection information (listening)
Skills 6 - Understanding relationships
- 第13回 Connection information (listening)
Skills 6 - Understanding relationships (mini-tests)
- 第14回 Review Skills 1-6
Pre-long test

【成績評価の方法】

試験 60% レポート 40% 出席 0%

TESTS

Regular Quizzes/tests 20%

Final Semester Test 30%

REPORT

Class activities 30%

Homework 20%

【教科書】

Deborah Phillips Preparation for the TOEFL test IBT Longman

【備考】

The first semester will be dedicated solely on improving your listening skills and gaining knowledge on test techniques specific to the listening section of the IBT TOEFL test

- ・08～10E、SS、SW、B、J生および08L生、09L生対象
(ただし、09L生の英語コミュニケーション専修は長期留学希望者のみ履修可)
- ・国際教養学部2回生以上の学生で長期留学を希望する場合は、「資格英語—長期留学準備講座」を受講すること。
- ・半年英語特訓留学、長期留学希望者向けクラス
- ・04～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
英語留学準備講座-TOEFL 10B <秋>	
Craig Gamble	1 単位

【講義概要】

The speaking section of the iBT TOEFL exam will ask students to demonstrate their English speaking skills by answering a short series of questions. Some questions will be personal in nature (such as "describe the city that you live in"), while others will ask about a brief passage that students will read as well as a short conversation students will listen to. This course will give students the opportunity to improve speaking fluency through independent and integrated speaking tasks. Students will learn test-taking techniques and participate in practice examinations as part of their preparation for the iBT TOEFL test.

【学習目標】

By the end of this course students will be able to:

Integrated Speaking

1. Take notes on reading passage using note taking strategies
2. Take notes on listening passage using note taking strategies
3. Verbally summarize short reading using notes
4. Verbally summarize short listening using notes
5. Integrate ideas from both reading and listening and verbally summarize them using notes
6. Acquire at least 100 new vocabulary from listening, reading activities and any related activities

Independent Speaking

1. Express and defend a personal choice from a given category—for example, important people or places, or events or activities that are related to the content discussed.
2. Make and defend a personal choice between two contrasting behaviors or courses of action related to the content discussed.
3. Write key words of main ideas when making an outline
4. Practice giving 1 minute responses to each topic.

【講義計画】

- 第1回 Class orientation
Pre-test
- 第2回 Independent tasks
Skills 1 and 2 Plan the free-choice response
- 第3回 Independent tasks
Skills 1 and 2 Make the free-choice response
- 第4回 Independent tasks
Skills 3 and 4 Plan the paired-choice response
- 第5回 Independent tasks
Skills 3 and 4 Make the paired-choice response
- 第6回 Integrated tasks (listening and reading)
Skills 5 and 6 Note the main points as you read
- 第7回 Integrated tasks (listening and reading)
Skills 5 and 6 Note the main points as you listen
- 第8回 Integrated tasks (listening and reading)
Skills 7 and 8 Plan before you speak / Make the response
- 第9回 Integrated tasks (listening)
Skills 9 and 10 Note the main points as you listen (conversation)
- 第10回 Integrated tasks (listening)
Skills 9 and 10 Plan before you speak
- 第11回 Integrated tasks (listening)
Skills 10 and 11 Make the response
- 第12回 Integrated tasks (listening)
Skills 12 and 13 Note the main points as you listen

(lecture)

- 第13回 Integrated tasks (listening)
Skills 13 and 14 Plan before you speak
- 第14回 Integrated tasks (listening)
Skills 15 Make the response

【成績評価の方法】

試験 60% レポート 40% 出席 0%

TESTS

Regular Quizzes/tests 20%

Final Semester Test 30%

REPORT

Class activities 30%

Homework 20%

【教科書】

Deborah Phillips Preparation for the TOEFL test IBT Pearson/Longman

【備考】

The second semester will be dedicated solely on improving your speaking skills and gaining knowledge on test techniques specific to the speaking section of the IBT TOEFL test

- ・08~10E、SS、SW、B、J生および08L生、09L生対象
(ただし、09L生の英語コミュニケーション専修は長期留学希望者のみ履修可)
- ・国際教養学部2年生以上の学生で長期留学を希望する場合は、「資格英語—長期留学準備講座」を受講すること。
- ・半年英語特訓留学、長期留学希望者向けクラス
- ・04~07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分

英語留学準備講座-TOEFL 11A <春>

福屋義則

1単位

【講義概要】

This course is intended to prepare students for the Reading and Writing sections of the TOEFL iBT (Internet-Based Test). This class will address reading skills (e.g., Understanding vocabulary from context, Making inferences from stated facts, Inferring rhetorical purpose) and test-taking strategies for the Reading, like skimming a passage to determine the main idea. The writing part of this class will concentrate on the "independent task," which asks for an opinion about a topic. Students will not only review the basics of essays (e.g., a thesis statement, organization) but also learn the vital elements (e.g., cohesion and sentence variety) of well-written essays.

【学習目標】

By the end of this semester, students will have improved their:

- reading skills, as measured by the Reading section of the TOEFL iBT;
- capacity to write essays, as measured by the "Independent Task";
- test-taking strategies for the Reading and Writing sections;
- schema (i.e., a stock of background knowledge) of natural and social sciences, such as physics and psychology, by reading passages and writing the summaries of these passages.

In general, students will aim at TOEFL iBT 80.

【講義計画】

- 第1回 Course Introduction
Writing (Looking at Writing Prompts: An Idea Map)
An essay is due on a specified day. Students are required to send it to the instructor via email.
- 第2回 Reading (Skill 1 : Understand Vocabulary from Context)
Writing (A Thesis Statement)
Vocabulary test 1 ("Essential Words" : Lesson 1)
- 第3回 Reading (Skill 2: Recognize Referents)
Writing (Main Ideas and the Supporting Details)
Vocabulary test 2 ("EW" : Lesson 2)
- 第4回 Reading (Skill 3: Simplify Meanings of Sentences)
Writing (Main Ideas and the Supporting Details)
Vocabulary test 3 ("EW" : Lesson 3)
- 第5回 Reading (Skill 4: Inset Sentences into the Passage)
Writing (Conclusion)
Vocabulary test 4 ("EW" : Lesson 4)
- 第6回 Reading (Skill 5: Find Factual Information)
Writing (Introduction)
Vocabulary test 5 ("EW" : Lesson 5)
- 第7回 Reading (Skill 6: Understand Negative Facts)
Writing (Coherence: Transition Words)
Vocabulary test 6 ("EW" : Lesson 6)
- 第8回 Reading (Skill 7 : Make Inferences from Stated Facts)
Writing (Coherence: Transition Words)
Vocabulary test 7 ("EW" : Lesson 7)
- 第9回 Reading (Skill 8: Infer Rhetorical Purpose)
Writing (Coherence: Transition Words)
Vocabulary test 8 ("EW" : Lesson 8)
- 第10回 Reading (Skill 9: Select Summary Information)
Writing (Coherence: Repeating and Rephrasing)
Vocabulary test 9 ("EW" : Lesson 9)
- 第11回 Reading (Skill 10: Complete Schematic Tables)
Writing (Variety: Words)
Vocabulary test 10 ("EW" : Lesson 10)
- 第12回 Reading
Writing (Variety: Sentences)
Vocabulary test 11 ("EW" : Lesson 11)
- 第13回 Reading

Writing (Variety: Sentences)

Vocabulary test 12 ("EW" : Lesson 12)

第14回 Reading

Writing (Variety: Sentences)

第15回 No final exam

【成績評価の方法】

Vocabulary tests 30%; Assignments 70%; Students are expected to do all the assignments and turn them in on time. A delayed submission will result in partial credit: Attendance 0%; If students are absent more than three times, they will not earn 1 credit of this course.

【教科書】

Deborah Phillips Longman Preparation Course for the TOEFL Test: iBT Reading (2008) Pearson Education, Inc
CD-ROM included.

Steven J. Matthiesen Barron' s Essential Words for the TOEFL (4th Ed.) (2007) Barron' s Educational Series, Inc

【備考】

【教材】

Handouts about writing will be distributed.

【授業時間以外での準備学習と課題】

Prepare for vocabulary tests. Do some reading assignments. Write an essay and, following the instructor' s feedback, revise it.

- ・08~10E、SS、SW、B、J生および08L生、09L生対象
(ただし、09L生の英語コミュニケーション専修は長期留学希望者のみ履修可)
- ・国際教養学部2回生以上の学生で長期留学を希望する場合は、「資格英語-長期留学準備講座」を受講すること。
- ・半年英語特訓留学、長期留学希望者向けクラス
- ・04~07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
英語留学準備講座 - TOEFL 11B <秋>	
福 屋 義 則	1 単位

【講義概要】

This course is the continuance of 11 A (Spring) . It is intended to prepare students for the Reading and Writing sections of the TOEFL iBT. While 11A (Spring) dealt with the "independent task," the writing part of this autumn class will concentrate on the "integrated task," in which the test taker is required to write a brief summary of the points made in a listening passage and explain how these points are related to those in the reading passage.

【学習目標】

By the end of this semester, students will have improved their:

- reading skills, as measured by the Reading section of the TOEFL iBT;
- capacity to write summaries, as measured by the "Integrated Task" ;
- test-taking strategies for the Reading and Writing sections;
- schema (i.e., a stock of background knowledge) of natural and social sciences, such as physics and psychology, by reading passages and writing the summaries of these passages.

In general, students will aim at TOEFL iBT 80.

【講義計画】

- 第1回 Course Introduction
Writing (How to Take Notes: Reading)
- 第2回 Reading (Skill 1 : Understand Vocabulary from Context)
Writing (How to Take Notes: Listening)
Vocabulary test 1 ("Essential Words" : Lesson 16)
- 第3回 Reading (Skill 2 : Recognize Referents)
Writing (An Idea Map: Reading)
Vocabulary test 2 ("EW" : Lesson 17)
- 第4回 Reading (Skill 3 : Simplify Meanings of Sentences)
Writing (An Idea Map: Listening)
Vocabulary test 3 ("EW" : Lesson 18)
- 第5回 Reading (Skill 4 : Inset Sentences into the Passage)
Writing (Write a Thesis Statement)
Vocabulary test 4 ("EW" : Lesson 19)
- 第6回 Reading (Skill 5 : Find Factual Information)
Writing (Compare and Contrast)
Vocabulary test 5 ("EW" : Lesson 20)
- 第7回 Reading (Skill 6 : Understand Negative Facts)
Writing (Write the Supporting Details: Paraphrasing)
Vocabulary test 6 ("EW" : Lesson 21)
- 第8回 Reading (Skill 7 : Make Inferences from Stated Facts)
Writing (Write the Supporting Details: Paraphrasing)
Vocabulary test 7 ("EW" : Lesson 22)
- 第9回 Reading (Skill 8 : Infer Rhetorical Purpose)
Writing (Write the Response to Reading)
Vocabulary test 8 ("EW" : Lesson 23)
- 第10回 Reading (Skill 9 : Select Summary Information)
Writing (Write the Response to Lecture)
Vocabulary test 9 ("EW" : Lesson 24)
- 第11回 Reading (Skill 10: Complete Schematic Tables)
Writing (Write the Response to Lecture)
Vocabulary test 10 ("EW" : Lesson 25)
- 第12回 Reading
Writing (Cohesion)
Vocabulary test 11 ("EW" : Lesson 26)
- 第13回 Reading
Writing (Cohesion)
Vocabulary test 12 ("EW" : Lesson 27)
- 第14回 Reading
Writing (Sentence Variety)
- 第15回 No final exam

【成績評価の方法】

Vocabulary tests 30%; Assignments 70%; Students are expected to do all the assignments and turn them in on time. A delayed submission will result in partial credit: Attendance 0%; If students are absent more than three times, they will not earn 1 credit of this course.

【教科書】

Deborah Phillips Longman Preparation Course for the TOEFL Test: iBT Reading (2008) Pearson Education, Inc
CD-ROM included.

Steven J. Matthiesen Barron' s Essential Words for the TOEFL (4th Ed.) (2007) Barron' s Educational Series, Inc

【参考文献】

【教材】

Handouts about writing will be distributed.

【授業時間以外での準備学習と課題】

Prepare for vocabulary tests. Do some reading assignments.

【備考】

- ・ 08～10E、SS、SW、B、J生および08L生、09L生対象
(ただし、09L生の英語コミュニケーション専修は長期留学希望者のみ履修可)
- ・ 国際教養学部2年生以上の学生で長期留学を希望する場合は、「資格英語－長期留学準備講座」を受講すること。
- ・ 半年英語特訓留学、長期留学希望者向けクラス
- ・ 04～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分

英語留学準備講座 - TOEFL 12A <春>

Craig Gamble

1単位

【講義概要】

The listening section of the TOEFL exam measures your ability to understand both lectures and two-way conversations in English. In this course, students will be given the opportunity to improve listening fluency by learning test-taking techniques and through practice examinations.

【学習目標】

Upon completion of this course, students will be able to:

1. Listen for key details
2. Listen for key word
3. Listen for gist
4. Listen for specific information
5. Listen for sequence
6. Listen for context
7. Listen for main ideas
8. Listen for opinions
9. Listen for intention
10. Listen for purpose

【講義計画】

- 第1回 Class orientation
Pre-test
- 第2回 Basic comprehension (listening)
Skills 1 - Understanding gist
- 第3回 Basic comprehension (listening)
Skills 1 - Understanding gist (mini-test)
- 第4回 Basic comprehension (listening)
Skills 2 - Understanding detail
- 第5回 Basic comprehension (listening)
Skills 2 - Understanding detail (mini-tests)
- 第6回 Pragmatic understanding (listening)
Skills 3 - Understanding function
- 第7回 Pragmatic understanding (listening)
Skills 3 - Understanding function (mini-tests)
- 第8回 Pragmatic understanding (listening)
Skills 4 - Understand speaker's stance
- 第9回 Pragmatic understanding (listening)
Skills 4 - Understand speaker's stance (mini-tests)
- 第10回 Connection information (listening)
Skills 5 - Understanding organization
- 第11回 Connection information (listening)
Skills 5 - Understanding organization (mini-tests)
- 第12回 Connection information (listening)
Skills 6 - Understanding relationships
- 第13回 Connection information (listening)
Skills 6 - Understanding relationships (mini-tests)
- 第14回 Review Skills 1-6
Pre-long test

【成績評価の方法】

試験 60% レポート 40% 出席 0%

TESTS

Regular Quizzes/tests 20%

Final Semester Test 30%

REPORT

Class activities 30%

【教科書】

Deborah Phillips Preparation for the TOEFL test IBT Longman

【備考】

The first semester will be dedicated solely on improving your listening skills and gaining knowledge on test-taking techniques specific to the listening section of the IBT TOEFL test

- ・08~10E、SS、SW、B、J生および08L生、09L生対象
(ただし、09L生の英語コミュニケーション専修は長期留学希望者のみ履修可)
- ・国際教養学部2回生以上の学生で長期留学を希望する場合は、「資格英語一長期留学準備講座」を受講すること。
- ・半年英語特訓留学、長期留学希望者向けクラス
- ・04~07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分

英語留学準備講座 - TOEFL 12B <秋>

Craig Gamble

1単位

【講義概要】

The speaking section of the iBT TOEFL exam will ask students to demonstrate their English speaking skills by answering a short series of questions. Some questions will be personal in nature (such as "describe the city that you live in"), while others will ask about a brief passage that students will read as well as a short conversation students will listen to. This course will give students the opportunity to improve speaking fluency through independent and integrated speaking tasks. Students will learn test-taking techniques and participate in practice examinations as part of their preparation for the iBT TOEFL test.

【学習目標】

By the end of this course students will be able to:

Integrated Speaking

1. Take notes on reading passage using note taking strategies
2. Take notes on listening passage using note taking strategies
3. Verbally summarize short reading using notes
4. Verbally summarize short listening using notes
5. Integrate ideas from both reading and listening and verbally summarize them using notes
6. Acquire at least 100 new vocabulary from listening, reading activities and any related activities

Independent Speaking

1. Express and defend a personal choice from a given category—for example, important people or places, or events or activities that are related to the content discussed.
2. Make and defend a personal choice between two contrasting behaviors or courses of action related to the content discussed.
3. Write key words of main ideas when making an outline
4. Practice giving 1 minute responses to each topic.

【講義計画】

- 第1回 Class orientation
Pre-test
- 第2回 Independent tasks
Skills 1 and 2 Plan the free-choice response
- 第3回 Independent tasks
Skills 1 and 2 Make the free-choice response
- 第4回 Independent tasks
Skills 3 and 4 Plan the paired-choice response
- 第5回 Independent tasks
Skills 3 and 4 Make the paired-choice response
- 第6回 Integrated tasks (listening and reading)
Skills 5 and 6 Note the main points as you read
- 第7回 Integrated tasks (listening and reading)
Skills 5 and 6 Note the main points as you listen
- 第8回 Integrated tasks (listening and reading)
Skills 7 and 8 Plan before you speak / Make the response
- 第9回 Integrated tasks (listening)
Skills 9 and 10 Note the main points as you listen (conversation)
- 第10回 Integrated tasks (listening)
Skills 9 and 10 Plan before you speak
- 第11回 Integrated tasks (listening)
Skills 10 and 11 Make the response
- 第12回 Integrated tasks (listening)
Skills 12 and 13 Note the main points as you listen

(lecture)

- 第13回 Integrated tasks (listening)
Skills 13 and 14 Plan before you speak
- 第14回 Integrated tasks (listening)
Skills 15 Make the response

【成績評価の方法】

試験 60% レポート 40% 出席 0%

【教科書】

Deborah Phillips Preparation for the TOEFL test IBT Pearson/Longman

【備考】

The second semester will be dedicated solely on improving your speaking skills and gaining knowledge on test techniques specific to the speaking section of the IBT TOEFL test

- ・08~10E、SS、SW、B、J生および08L生、09L生対象
(ただし、09L生の英語コミュニケーション専修は長期留学希望者のみ履修可)
- ・国際教養学部2回生以上の学生で長期留学を希望する場合は、「資格英語—長期留学準備講座」を受講すること。
- ・半年英語特訓留学、長期留学希望者向けクラス
- ・04~07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分

映像製作実習 <秋集>

南 出 和 余

4 単位

【講義概要】

映像制作実習では、映像制作のプロセスを経験的、技術的に学ぶ。映像制作には大まかに、①プレプロダクション：企画準備（下調べ、被写体との関係作りと撮影交渉、ストーリー構成）、②プロダクション：撮影、③ポストプロダクション：編集、というプロセスがある。それぞれ身近な社会のなかからテーマを設定し、デジタルビデオカメラとコンピューターを使って、グループ毎に10~15分の映像作品を作る。映像制作を通じて、物事（社会）とどう向き合うか、人とどう接するか（相手の立場に立つとは）、他者に自分の思いをどう伝えるか、をともに考える機会としたい。
なお、本実習受講生は、「映像メディア論」を履修していることが望ましい。

【学習目標】

コンピューターとデジタルビデオカメラの小型化・低価格化によって、一般の人びとにとっても、映像は、観るものから、作るもの、発信するものへと広がっている。しかし、手紙やエッセイを書くのと同じように、映像を作るにも決まりや文法があることを忘れてはならない。また、他者の姿をそのまま映し出す映像には、そこに映される人のプライバシー（肖像権）や、それを作る人の権利（著作権）があり、それらを侵してはならない。この実習では、これらの決まりを習得すること、そのうえで、映像制作の技術を身につけ、映像を通じた異文化理解の発信を試みる。なお、この実習では授業外作業を多く要するため、受講生は、そのことを覚悟のうえで受講してもらいたい。

【講義計画】

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 プレプロダクション①テーマ設定
- 第3回 プレプロダクション②調査計画（授業外作業：調査）
- 第4回 //
- 第5回 プレプロダクション③調査報告
- 第6回 //
- 第7回 プレプロダクション④ストーリー構成（授業外作業：被写体との交渉、承諾）
- 第8回 //
- 第9回 プロダクション：撮影技術①カメラの持ち方、動かし方
- 第10回 プロダクション：撮影技術②録音の仕方
- 第11回 プロダクション：撮影技術③風景の撮り方
- 第12回 プロダクション：撮影技術④人物の撮り方
- 第13回 プロダクション：撮影技術⑤行事／儀礼の撮り方
- 第14回 プロダクション：撮影技術⑥日常の撮り方
- 第15回 プロダクション：撮影技術⑦インタビューの撮り方
- 第16回 事例映像
- 第17回 プロダクション：撮影
- 第18回 //
- 第19回 ポストプロダクション①撮影映像の確認
- 第20回 //
- 第21回 ポストプロダクション②ストーリー構成
- 第22回 //
- 第23回 ポストプロダクション③画像と音の調整
- 第24回 //
- 第25回 ポストプロダクション④タイトル、字幕、クレジット
- 第26回 //
- 第27回 完成作品発表上映会
- 第28回 //
- 第29回 まとめ

【成績評価の方法】

映像制作発表と、作業過程から総合的評価を決める。映像制作発表は必須。

【教科書】

テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【備考】

- ・08生対象

科目名	クラス	講義区分
映像メディア論 <春集>		
南 出 和 余	4単位	

【講義概要】

映像メディア論では、映像人類学を中心として、これまでに制作された映像作品（民族誌映画、ドキュメンタリー）や映像に関する議論を基に、「映像を解した社会理解」について考える。そのなかでも特に留意すべきは、撮る者（撮影者）／撮られる者（被写体）／観る者（視聴者）の関係である。映像を見るときに、それぞれの立場を考慮することにより、その映像が「誰のために、何を、どう撮っているのか」がおおのずと見えてくるだろう。これを活かし、授業後半では、静止画による映像制作を実際に体験する。

【学習目標】

私たちの日常は、映像メディアによる情報に溢れている。遠く離れた外国に住む人びとや異文化についても、私たちは映像を介して、あたかも行ったことがあるかの如く、知ることができる。しかし、「映像」がどれだけ詳細で多角的な情報を与えようとも、それは全体の一部を切り取った情報であることを私たちは意識しなければならない。逆に、映像を作るということは、制作者の意図やメッセージがそこに示されることを意味する。見る経験と実際に作る経験を通じて、映像を意識的に見るという姿勢を身に付けてもらいたい。なお、この授業は一部実習課題をともなうため、授業外の作業が必要となる。受講生は、そのことを覚悟のうえで受講してもらいたい。

【講義計画】

- 第1回 イントロダクション：情報化時代に生きる私たち
 第2回 映画と人類学
 第3回 映像の誕生—シネマトグラフ—
 第4回 記録映像の歴史
 第5回 映像人類学の歴史(1) Robert Flaherty
 第6回 事例映像
 第7回 映像人類学の歴史(2)「科学」映像
 第8回 映像人類学の歴史(3)観察記録から活動フィルムへ
 第9回 映像人類学の歴史(4) Cinema Verite
 第10回 事例映像
 第11回 映像人類学の歴史(5)カメラの存在
 第12回 事例映像
 第13回 映像人類学の歴史(6)自文化を撮る
 第14回 事例映像
 第15回 映像で見る日本文化—外国人が撮った日本—
 第16回 事例映像
 第17回 セルフドキュメンタリーという潮流
 第18回 事例映像
 第19回 制作(1)テーマ設定、制作者の視点
 第20回 制作(2)調査の方法、撮影の技術
 第21回 制作(3)「事実」の構成、ストーリー作り
 第22回 制作(4)編集作業
 第23回 制作(5)タイトルと字幕
 第24回 制作(6)クレジット
 第25回 制作発表と講評(1)
 第26回 制作発表と講評(2)
 第27回 制作発表と講評(3)
 第28回 制作発表と講評(4)
 第29回 まとめ

【成績評価の方法】

映像制作発表と、授業中、必要に応じて提出を求めるコメントカード(兼出席カード)から総合的評価を決める。映像制作発表は必須。

【教科書】

テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

山中速人(編)『マルチメディアでフィールドワーク』有斐閣2002

【備考】

・02～07生は読替一覧参照

科目名	クラス	講義区分
英米文学概論 01<春集>		
小 野 良 子	4単位	

【講義概要】

授業の概要
 英米文学作品読解と文化研究

【学習目標】

- 授業の到達目標及びテーマ
 英米の文学作品を読む楽しさを体験すると共に、文化的背景の知識を深める。英語教員を目指す人のために、英文読解と文化理解にポイントを置くことで、概論科目としてふさわしいものにした。
1. 幼年期から壮年期まで、各世代に支持される作品を読むことで、人生の局面を英米文学作品を通じて考え、英米文化圏の人々の文学体験、あるいは人生を疑似体験する。
 2. 作品理解に必要な文化的コンテクスト—風俗、習慣、思想、社会構造—を概観することで、文化理解を深める。
 3. 幼年期に読む作品から始めて、自己の読解力の「英語年齢」を点検する。また、映画鑑賞で多様な英語を聴く力を養う。

【講義計画】

- 第1回 英米文学の読み方—理論と実践(1)
 第2回 英米文学の読み方—理論と実践(2)
 第3回 『不思議の国のアリス』鑑賞と分析(1)
 第4回 『不思議の国のアリス』鑑賞と分析(2)
 第5回 『ナルニア国物語』鑑賞と分析(1)
 第6回 『ナルニア国物語』鑑賞と分析(2)
 第7回 『ライ麦畑で捕まえて』鑑賞と分析(1)
 第8回 『ライ麦畑で捕まえて』鑑賞と分析(2)
 第9回 『高慢と偏見』鑑賞と分析(1)
 第10回 『高慢と偏見』鑑賞と分析(2)
 第11回 『高慢と偏見』鑑賞と分析(3)
 第12回 『嵐が丘』鑑賞と分析(1)
 第13回 『緋文字』鑑賞と分析(1)
 第14回 『嵐が丘』鑑賞と分析(2)
 第15回 『嵐が丘』鑑賞と分析(3)
 第16回 『緋文字』鑑賞と分析(2)
 第17回 『緋文字』鑑賞と分析(3)
 第18回 『オリバー・ツイスト』鑑賞と分析(1)
 第19回 『オリバー・ツイスト』鑑賞と分析(2)
 第20回 『グレート・ギャツビー』鑑賞と分析(1)
 第21回 『グレート・ギャツビー』鑑賞と分析(2)
 第22回 『碾き臼』鑑賞と分析(1)
 第23回 『碾き臼』鑑賞と分析(2)
 第24回 『ガラスの動物園』鑑賞と分析(1)
 第25回 『ガラスの動物園』鑑賞と分析(2)
 第26回 『セールスマンの死』鑑賞と分析(1)
 第27回 『セールスマンの死』鑑賞と分析(2)
 第28回 『ハムレット』鑑賞と分析(1)
 第29回 『ハムレット』鑑賞と分析(2)
 第30回 まとめ

【成績評価の方法】

1. 小レポート： 毎回、講義に関する質問、コメント等を書いて提出(400～600字程度)
2. 期末レポート： 与えられたテーマで4000～5000字程度のレポートを書く

【教科書】

プリントを配布(各作品ごとに20～40ページの原文)

【参考文献】

授業で通知する

科目名 クラス 講義区分	
英米文学概論 02<秋集>	
中 井 紀 明	4単位

【講義概要】

文学とは何だろうか。文学の「定義」は難しいが、具体的な「文学作品」をあげることは難しいことではない。夏目漱石をはじめとするいわゆる「古典的」文学作品から山田悠介の『レンタル・チルドレン』そして有名無名の「文学」作品が基にあふれている。我々も英文学科で小説、詩、演劇作品など様々な英米文学作品を読んでいる。この講義では、英米文学の詩、短編小説、劇、映画、エッセイを読み進めながら「文学」を考える。文学を専門に「研究」というのはどのようなことをすることなのか。読みに何か特別な「専門家」らしきことを加えることなのか。英米文学を「専攻」というのは何か特別な「研究方法」を習得することなのか。作者・テキスト・読者、意味、解釈そして文学能力、レトリック、語りなどに言及・考察しながら作品を詳しく読み、文学という制度を考えていく。

【学習目標】

8編の詩、4篇の短編小説、そして劇(映画版)、映画、エッセイそれぞれ一つずつを文学としてしっかり精読しながら文学という制度を考える

【講義計画】

- 第1回 William Wordsworth (1770 - 1850), "Resolution and Independence" (1807)
- 第2回 Samuel Taylor Coleridge (1772-1834), "The Rime of the Ancient Mariner" (1798)
- 第3回 Samuel Taylor Coleridge, "The Rime of the Ancient Mariner" (1798) (2)
- 第4回 Samuel Taylor Coleridge, "The Rime of the Ancient Mariner" (1798) (3)
- 第5回 Samuel Taylor Coleridge, "The Rime of the Ancient Mariner" (1798) (4)
- 第6回 Percy Bysshe Shelly (1792-1822), "Ode to the West Wind" (1820)
- 第7回 Walt Whitman (1819-1892), "Crossing Brooklyn Ferry" (1856)
- 第8回 Emily Dickinson (1830-1886), ten poems(1)
- 第9回 Emily Dickinson, ten poems(2)
- 第10回 D. H. Lawrence (1885-1930), "The Ship of Death" (1932) (1)
- 第11回 D. H. Lawrence, "The Ship of Death" (1932) (2)
- 第12回 Robert Frost (1874-1963), "Birches"
- 第13回 Marianne Moore (1887-1972), "Marriage" (1)
- 第14回 Marianne Moore, "Marriage" (2)
- 第15回 Marianne Moore, "Marriage" (3)
- 第16回 Nathaniel Hawthorne (1804 - 1864), "Young Goodman Brown" (1)
- 第17回 Nathaniel Hawthorne, "Young Goodman Brown" (2)
- 第18回 Nathaniel Hawthorne, "Young Goodman Brown" (3)
- 第19回 William Faulkner (1897-1962), "A Rose for Emily" (1)
- 第20回 William Faulkner, "A Rose for Emily" (2)
- 第21回 William Faulkner, "A Rose for Emily" (3)
- 第22回 Ernest Hemingway (1899 - 1961), "Hills like White Elephants"
- 第23回 Flannery O' Connor(1925-1964), "A Good Man is Hard to Find" (1)
- 第24回 Flannery O' Connor, "A Good Man is Hard to Find" (2)
- 第25回 Flannery O' Connor, "A Good Man is Hard to Find" (3)
- 第26回 Henrik Ibsen (1828-1906), A Doll' s House
- 第27回 Henrik Ibsen, A Doll' s House(2)
- 第28回 Orson Welles (1915-1985), Citizen Kane
- 第29回 Orson Welles, Citizen Kane(2)
- 第30回 George Orwell (1903-1950), "Shooting an Elephant"

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 30% 出席 20%
出席重視は当然であるが、毎回配布される原文資料集をきっちり読みこなせているか(小テストでチェック)がポイントになる。

【教科書】

教材はすべてプリントで準備する。

【参考文献】

廣野由美子著『批評理論入門』中公新書
Robert Eaglestone, Doing English
Jonathan Culler, Literary Theory
George Lakoff, Metaphors We Live by
他は授業中に言及する。

【備考】

【準備学習の指示】

前もって配布される資料のうち、当日扱われる作品を精読しておくこと。

科目名 クラス 講義区分

演習 I 01<通期>

田代昌孝

4単位

【講義概要】

研究のテーマは『財政のグローバル化と税制のあり方』です。授業の始めの30分は予備知識を身につけるため、簡単に講義をします。それから、テキストや配布資料を輪読していき、解説を加えていきます。最後の30分は議論の時間とします。秋期は各研究テーマでグループごとに役割分担を決めて、研究発表をしてもらいます。

【学習目標】

財政学と租税に関する基礎知識の習得。
財政関連の新聞記事や報道に対して、私見を述べられるようにする。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 財政の役割①
- 第3回 財政の役割②
- 第4回 財政の歴史的展開
- 第5回 グローバル化と財政①
- 第6回 グローバル化と財政②
- 第7回 社会保障と財政①
- 第8回 社会保障と財政②
- 第9回 公共投資と財政①
- 第10回 公共投資と財政②
- 第11回 課税の効率性と公平性
- 第12回 租税原則
- 第13回 個人所得税①
- 第14回 個人所得税②
- 第15回 法人税①
- 第16回 法人税②
- 第17回 消費税①
- 第18回 消費税②
- 第19回 資産課税①
- 第20回 資産課税②
- 第21回 財政の役割に関する研究発表
- 第22回 グローバル化と財政に関する研究発表
- 第23回 社会保障と財政に関する研究発表
- 第24回 公共投資と財政に関する研究発表
- 第25回 個人所得税に関する研究発表
- 第26回 法人税に関する研究発表
- 第27回 消費税に関する研究発表
- 第28回 資産課税に関する研究発表

【成績評価の方法】

試験 20% 出席 80%
試験は研究発表の出来具合で評価します。出席は議論の参加状況も考慮をします。

【教科書】

金澤史男編『財政学』有斐閣ブックス

【参考文献】

新川浩嗣編著『図説 日本の税制(平成21年度版)』財経詳報社、2009年。(ISBN9784881773963)
上村敏之著『コンパクト財政学』新世社、2007年。(ISBN9784883841134)

【備考】

毎回授業の始めにプリントを配布します。
第1回のガイダンス講義で各自の役割分担を決めます。

科目名 クラス 講義区分

演習 I 02<通期>

田代昌孝

4単位

【講義概要】

研究のテーマは『地方財政と地域経済の活性化』です。授業の始めの30分は予備知識を身につけるため、簡単に講義をします。それから、テキストや配布資料を輪読していき、解説を加えていきます。最後の30分は議論の時間とします。秋期は各研究テーマでグループごとに役割分担を決めて、研究発表をしてもらいます。

【学習目標】

地方財政に関する基礎知識の習得。
地域経済の活性化について、私見が述べられるようにする。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 財政の三大機能
- 第3回 国と地方の役割
- 第4回 地方の歳入と歳出の構造
- 第5回 地方債の実際
- 第6回 地方分権改革
- 第7回 地方分権と三位一体改革
- 第8回 市町村合併と広域行政①
- 第9回 市町村合併と広域行政②
- 第10回 道州制の議論①
- 第11回 道州制の議論②
- 第12回 地方財政と福祉①
- 第13回 地方財政と福祉②
- 第14回 地域経済の発展と地方財政①
- 第15回 地域経済の発展と地方財政②
- 第16回 地方財政の効率化と自治体行政①
- 第17回 地方財政の効率化と自治体行政②
- 第18回 第三セクター問題①
- 第19回 第三セクター問題②
- 第20回 夕張市の財政破綻問題①
- 第21回 夕張市の財政破綻問題②
- 第22回 市町村合併と広域行政に関する研究発表
- 第23回 道州制の議論に関する研究発表
- 第24回 地方財政と福祉に関する研究発表
- 第25回 地域経済の発展と地方財政に関する研究発表
- 第26回 地方財政の効率化と自治体行政に関する研究発表
- 第27回 第三セクター問題に関する研究発表
- 第28回 夕張市の財政破綻問題に関する研究発表

【成績評価の方法】

試験 20% 出席 80%
試験は研究発表の出来具合で評価します。出席は議論の参加状況も考慮をします。

【教科書】

林 宏昭・橋本恭之著『入門地方財政 第2版』中央経済社

【参考文献】

必要に応じて授業中に指示します。

【備考】

毎回授業の始めにプリントを配布します。
第1回のガイダンス講義で各自の役割分担を決めます。

科目名 クラス 講義区分	
演習 I 03<通期>	
井田 憲 計	4 単位

【講義概要】

テーマ「経済学、はじめの一步」

大学生活を始めるにあたってのオリエンテーションの後、経済学を学ぶ意義や方法について基礎的なガイダンスを行う。

【学習目標】

少人数のゼミナール形式で、テキストの輪読、発表、討論を通じて、経済学部での大学生活に必要なノウハウと習慣を身に付けることを目指す。

【講義計画】

- 第1回 1. ガイダンス
 第2回 I. 大学生入門
 2. オリエンテーション
 第3回 3. 建学の精神(チャペルにて)
 第4回 4. 図書館ガイダンス
 第5回 5. パソコン演習(タイピング)
 第6回 6. パソコン演習(インターネットの利用)
 第7回 7. パソコン演習(ワープロソフト)
 第8回 8. パソコン演習(表計算ソフト)
 第9回 9. パソコン演習(レポート作成)
 第10回 10. パソコン演習(プレゼンテーションソフト)
 第11回 II. 経済学部入門
 11. テキスト(その1)について
 第12回 12. レジュメ作成
 第13回 13. 報告と討論
 第14回 14. 書評作成
 第15回 15. テキスト(その2)について
 第16回 16. レジュメ作成
 第17回 17. 報告と討論
 第18回 18. 書評作成
 第19回 III. 経済学入門
 19. テーマ(その1) 選定
 第20回 20. レポート作成
 第21回 21. 報告と討論 1
 第22回 22. 報告と討論 2
 第23回 23. 報告と討論 3
 第24回 24. テーマ(その2) 選定
 第25回 25. レポート作成
 第26回 26. 報告と討論 1
 第27回 27. 報告と討論 2
 第28回 28. 報告と討論 3
 第29回 まとめ・試験

【成績評価の方法】

レポート 40% 出席 60%

出席(無断欠席は許されない)[約30%]、報告[約30%]、レポート・成果物[約40%]を総合して(上記%で配分して)評価する。

【教科書】

佐々木俊尚『グーグルGoogle—既存のビジネスを破壊する—』文春文庫
(¥760+税)

【参考文献】

適宜指示する。

【備考】

[準備学習について] あらかじめテキストを入手し目を通すなどの予習に加えて、毎回課される次週までの課題に取り組む必要がある。

科目名 クラス 講義区分	
演習 I 04<通期>	
梅田 百合香	4 単位

【講義概要】

日本の社会・政治問題について多角的に検討する。

ゼミは、報告担当者がテキストの要約と論点提起(疑問点と自己の意見の提示等)を行い、それをもとに各グループごとで討論する形をとる。テキストの理解を経たうえで、各自が課題を設定し、学期末レポートを提出する。

【学習目標】

日本の社会および政治の基本構造と現代的問題に関する一般的知識の取得。

【講義計画】

- 第1回 ゼミの説明、テキスト紹介、グループ編成、テキスト輪読
割当および報告担当日の決定
 第2回 レジュメ作成、報告と討論のやり方の説明と練習
 第3回 図書館ガイダンス
 第4回 映像資料による日本社会の一般問題の把握と討論
 第5回 テキスト『反貧困』の報告と討論①
 第6回 テキスト『反貧困』の報告と討論②
 第7回 テキスト『反貧困』の報告と討論③
 第8回 テキスト『反貧困』の報告と討論④
 第9回 テキスト『反貧困』の報告と討論⑤
 第10回 テキスト『反貧困』の報告と討論⑥
 第11回 テキスト『反貧困』の報告と討論⑦
 第12回 テキストの総括と各自のレポート課題の決定
レポートの書き方の説明
 第13回 各自のレポート課題に関わる新聞記事・参考文献の発表
 第14回 レポートの概要発表と提出
 第15回 テキスト紹介、グループ編成、テキスト輪読割当および報告担当日の決定
 第16回 情報センターガイダンス
 第17回 映像資料による日本政治の一般問題の把握と討論
 第18回 テキスト『日本の統治構造』の報告と討論①
 第19回 テキスト『日本の統治構造』の報告と討論②
 第20回 テキスト『日本の統治構造』の報告と討論③
 第21回 テキスト『日本の統治構造』の報告と討論④
 第22回 テキスト『日本の統治構造』の報告と討論⑤
 第23回 テキスト『日本の統治構造』の報告と討論⑥
 第24回 テキスト『日本の統治構造』の報告と討論⑦
 第25回 テキストの総括と各自のレポート課題の決定
 第26回 各自のレポート課題に関わる新聞記事・参考文献の発表
 第27回 各自のレポート課題に関わる新聞記事・参考文献の内容報告
 第28回 レポートの概要発表と提出

【成績評価の方法】

演習への参加姿勢(報告および討論の内容と積極性)60%、春学期末レポート20%、秋学期末レポート20%。

出席することが前提であり、やむをえず欠席する場合は、事前に教員へメールで連絡すること。出席態度が不良の場合(遅刻、無断欠席、ゼミ中の携帯電話/メールの使用等)は除籍となるので注意すること。

【教科書】

湯浅誠 反貧困—「すべり台社会」からの脱出 岩波書店
岩波新書777円

飯尾潤 日本の統治構造—官僚内閣制から議院内閣制へ 中央公論新社
中公新書840円

【備考】

テキストを生協で各自購入のこと。

授業計画は、受講者の理解度や進行状況等によって変更する場合があります。